

北上市総合計画 2021～2030 令和7年度基本施策事後評価シート（評価対象期間:令和6年度）

基本方針	1.未来に輝く人づくり
基本施策	1-1.結婚・出産・子育ての希望を叶える
関連するプロジェクト	1.子育て寄り添いプロジェクト

子育て世代に選ばれるまちづくりを進めるため、結婚・妊娠・出産・子育てまでの切れ目ないライフサポートの充実と、乳幼児期の子どもの成長に寄り添う子育て支援の充実を図ります。

評価項目	A	順調
	B	概ね順調
	C	やや遅れている
	D	遅れている

総合評価
A

R6事後
1

※達成状況評価欄の（ ）内については昨年度の評価結果です。

No.	担当部等	プロジェクト	推進方針(R6)		成果指標	推進方針に対する達成状況(対象:R6)		達成状況評価	達成状況に至る要因の分析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇:R7/◆:R8以降)	
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)			
1	福祉部/健康こども部	●	子育て世帯の経済的負担の軽減	(福祉部) 医療費助成について、拡大の効果を検証するとともに、必要に応じて支援のあり方について検討していく。	①	(健康こども部) 副食費については、現状の独自軽減を引き続き実施していくほか、出産や育児へのサポートを充実させ、子育て家庭への経済的負担の軽減を図っていく。	指標に基づく事実	①子育て環境の充実度(市民意識調査)は、期待値に届いていない。	A	指標に関する内容		指標に関する内容	物価高騰が続き経済的負担の軽減策の効果が相対的に薄くなったと考えられる。	(福祉部) ◇継続して福祉医療費給付制度を実施していくとともに、子ども医療費助成について国に対して全国一律の制度創設を求めていく。 ◆国、県、県内他市町村の動向を注視しつつ支援のあり方を検討していく。
					(健康こども部) 副食費については、現状の独自軽減を引き続き実施していくほか、出産や育児へのサポートを充実させ、子育て家庭への経済的負担の軽減を図っていく。									
2	健康こども部	●	子どもを希望する夫婦の経済的負担の軽減	経済的な理由により、子どもを希望する夫婦が妊娠をあきらめず治療を継続できるよう、引き続き、特定及び一般不妊治療費の一部助成により経済的負担の軽減を行う。	①②		指標に基づく事実	①子育て環境の充実度(市民意識調査)は、期待値に届いていない。 ②妊娠届者のうち、不妊治療をした人の割合は増加しており、期待値を上回っている。なお、一般不妊治療申請者はR5年度41件、R6年度56件。特定不妊治療申請者はR5年度90件、R6年度は101件。一般、特定ともに増加の申請件数となっている。	A	指標に関する内容	産婦人科医療機関へチラシを配布し、周知していることが、有効に作用している。	指標に関する内容	不妊治療費の保険適用がされたことにより、市民が不妊治療に取り組む意識が高まった。	◇継続して事業を実施。
					指標以外の事実									
3	健康こども部	●	産後ケア事業の充実	妊娠期から子育て期にわたり、母親及びその子どもに対し個別にケアや指導を行い、身体的な回復や心理的な安定につながるよう、民間団体が運営する産後ケアセンターや宿泊施設を利用したデイサービス型及び家庭を訪問して行う訪問型産後ケア事業を実施する。また、こども家庭センターと関係機関が連携し、切れ目ない支援を行う。	①③④⑤		指標に基づく事実	①子育て環境の充実度(市民意識調査)は、期待値に届いていない。 ③産後退院してから1か月程度、助産師や保健師等からの指導・ケアは十分に受けることができた人の割合は横ばいで、期待値と同等になっている。 ④この地域で今後も子育てをしていきたいと思う人の割合はすでにR7期待値を超えている。 ⑤ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間があった人の割合は上昇したが、期待値は下回っている。	A	指標に関する内容	③妊娠届、出生届等で新生児訪問、産後ケア等について継続して周知するとともに、産婦の希望や意見を取り入れながら支援を行ったことによる。 ⑤産後ケアの利用、こども家庭センターの保健師や助産師の訪問相談支援により、ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間があった人の増加につながった。	指標に関する内容		◇6月～宿泊施設での産後ケア事業のデイサービス型を実施
					指標以外の事実			民間団体と協力しながら妊娠期からの切れ目ない支援を行っている。						

No.	担当部等	プロジェクト	推進方針(R6)		成果指標	推進方針に対する達成状況(対象:R6)		達成状況評価	達成状況に至る要因の分析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇:R7/◆:R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
4	健康こども部	●	産前・産後サポート事業の充実	○産前・産後サポート事業の充実 妊娠期から出産後において、安心して育児に臨めるよう育児講座や母親同士の情報共有の場をつくる。また、関係機関と連携して、利用者ニーズの把握と事業効果の検証をしつつ、支援の場を充実させていく。 ○妊娠期の費用負担の軽減 ハイリスク妊産婦に対し、通院や待機宿泊にかかる費用について、経済的不安の軽減を図るため、助成を実施する。	①	指標に基づく事実	子育て環境の充実度(市民意識調査)は、期待値に届いていない。	A	指標に関する内容		指標に関する内容		◇産前・産後サポート事業は継続して事業を実施 ◇4月～ハイリスク妊婦に対する交通費助成支援を開始
						指標以外の事実	産前・産後サポート事業は民間団体へ業務委託し、R6年度は年15回275人参加している。		(A)	指標以外の内容	・産前・産後サポート事業に関しては関係機関と連携し、事業の充実に努めている。 ・開催回数の増加、育児で多い悩みや参加者が希望するテーマの設定をするなどし、相談しやすい環境を提供した。	指標以外の内容	
5	健康こども部	●	保育所等利用定員数の適正化と保育人材の確保	令和7年度に策定する北上市こども計画(第3期北上市子ども・子育て支援事業計画)に基づき、公立施設の利用定員を削減するなど、保育サービスの需給均衡に向けて調整を行う。また、保育士の定着に向け、引き続き奨学金返還金への助成等を行っていく。	①⑥	指標に基づく事実	①子育て環境の充実度(市民意識調査)は、期待値に届いていない。 ⑥奨学金返還金補助の交付決定数は56件であり、期待値よりも高水準の実績となっている。	A	指標に関する内容	制度について市HPにて案内するほか、各園を通じた制度の周知が図られ、新規就労者の交付申請につながっている。	指標に関する内容	各園を通じた制度の周知が図られ、新規就労者の交付申請につながっている。	◇奨学金返還補助について、交付決定数が増加していることから、保育士の確保・定着に寄与していると考えられるため、実施を継続する。 ◆R8年度において補助対象者を対象にしたアンケート調査等を通じた奨学金返還補助の効果検証を行うことを予定している。
						指標以外の事実	保育需要に合わせ公立園の募集人数の調整を行った。		(A)	指標以外の内容	大通り保育園の募集人数を10人削減した。	指標以外の内容	
6	健康こども部		多様な保育ニーズへの対応	社会情勢の変化等を見極めながら、多様な保育ニーズに対応した各種保育事業を継続すると共に、拡充を図っていく。	①⑦	指標に基づく事実	①子育て環境の充実度(市民意識調査)は、期待値に届いていない。 ⑦乳幼児の一時預かり事業の実施施設が8か所に増加し、受け皿が充足している。	A	指標に関する内容	①多様な保育ニーズには様々な施策により対応しており、指標を低下させている大きな要因ではないと考える。 ⑦R3年度から保健・子育て支援複合施設ほKko内に設置している一般型の一時保育室は、周知の結果もあり利用者が増加し、十分に活用されている。	指標に関する内容	新設認定こども園の一般型一時保育が新たに開始したため、利用者が増加した。	◇一時預かり事業、延長保育、病後児保育事業等を継続するとともに、こども計画策定にあたり実施しているニーズ調査の結果も踏まえながら、多様な保育ニーズへの対応を検討していく。 ◆こども誰でも通園制度など新たな取組を進める。
						指標以外の事実	多様な保育ニーズに対応するため延長保育、病後児保育事業等を実施した。 延長保育は22園で実施、病後児保育は2箇所を実施、体調不良児保育も2か所で実施している。		(A)	指標以外の内容	保育所等での実施のほか、令和3年度から病後児保育室を北上済生会病院に委託して実施している。また、一時保育を利用した低所得世帯への利用料軽減給付金をR6から開始した。	指標以外の内容	

No.	担当部等	プロジェクト	推進方針(R6)		成果指標	推進方針に対する達成状況(対象：R6)		達成状況評価	達成状況に至る要因の分析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇：R7/◆：R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
7	健康こども部		学童保育所の環境整備	老朽化した学童保育所の計画的な整備と指定管理制度の対象施設の拡大を進める。	①⑧	指標に基づく事実	①子育て環境の充実度(市民意識調査)は、期待値に届いていない。 ⑧学童保育所の計画的な整備と指定管理者制度の対象数の拡大を図り、期待値どおり整備している。	A	指標に関する内容	・指定管理者制度への移行を計画的に行い、現在対応可能なところは全て移行した。 ・クーラー設置、トイレ増設の洋式化を推進し、児童が利用しやすい環境を整備している。 ・黒沢尻東学童保育所の整備を行った。 ・江釣子小学区の利用者増に伴い、施設の増設に向け補助を行った。	指標に関する内容		◇学童保育所の計画的な整備及び、整備後の指定管理者制度への移行を継続して進める。 ◇鬼柳学童保育所の建て替え用地の検討を行う。 ◇各学童保育所の老朽化設備の修繕・更新を進める。 ◆鬼柳学童保育所についてR9年度の建て替え、指定管理者制度への移行をめざす。
						指標以外の事実	学童保育の利用を希望する家庭が全て、学童保育所を利用できている。	(A)	指標以外の内容	・年2回、市の共催で研修会を行い、職員の資質向上に努め、受入れ体制を整えている。 ・低所得者やひとり親家庭に対する利用者負担の軽減を図り、経済的な面でも利用しやすい環境を整備している。	指標以外の内容		
8	健康こども部	●	結婚を望む人への支援	結婚を望んでいる人が、経済的理由を乗り越えて結婚に踏み切ることができるよう、結婚新生活に係る費用の一部を補助する。	⑨	指標に基づく事実	婚姻を機に住宅の取得や賃貸住宅への転居等を行った双方とも39歳以下の新婚世帯について新生活にかかる費用を補助する「北上市結婚新生活支援補助金」について、当初の想定である10組を超える16組の申請があった。(認定申請を除く)	A	指標に関する内容	・市HPへの掲載だけでなく、セレモニーホールや不動産業者にチラシ設置を依頼したことから、制度の周知が進んだ。	指標に関する内容		◇継続して事業を実施
						指標以外の事実	結婚サポートセンター「i-サポ」の運営費を負担し、結婚を望む若者への出会いの場創出事業が実施されている。	(一)新	指標以外の内容		指標以外の内容		
9	健康こども部	●	こども施策の総合的かつ強力な実施	令和5年4月に施行されたこども基本法の基本理念に則り、同法第10条に定める市町村こども計画として「北上市こども計画」を策定し、こども施策に関して国及び県との連携を図るとともに、当市の各部署のこども関連施策に横串を刺し、一体的な取り組みを進めていく。	①	指標に基づく事実	子育て環境の充実度(市民意識調査)は、期待値に届いていない。	B	指標に関する内容		指標に関する内容	市民意識調査の自由記載欄では、こどもの遊び場、子育て世帯への経済的支援などを求めるものが見られた。	◇こども計画を9月に策定予定 ◆こども計画で設定した重点施策は事業の充実に向け取り組むものとする。 ・こどもの権利の尊重 ・多様な居場所づくり ・孤立を防ぐための子育て世帯へのサポート
						指標以外の事実	こども計画の策定期間をR7年3月から9月に延期した。	(一)新	指標以外の内容	・調査結果の分析に時間を要したこと、また、市としての骨子の検討を策定工程に追加したこと、当初想定よりも策定期間を要した。	指標以外の内容		

指 標 ①	指標の説明																	
北上市市民意識調査 子育て環境の充実度 (子育て環境は充実して いて安心して育児が できると思う率)	全回答者(無回答者を除く)のうち「そ う思う」「ややそう思う」「普通」と回答し た者の割合	<table border="1"> <caption>子育て環境の充実度 (満足度)</caption> <thead> <tr> <th>調査年度</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R1</td> <td>64</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>67</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>67</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>67</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td>63</td> </tr> </tbody> </table>	調査年度	割合 (%)	R1	64	R2	67	R3	67	R4	67	R5	59	R6	59	R7	63
調査年度	割合 (%)																	
R1	64																	
R2	67																	
R3	67																	
R4	67																	
R5	59																	
R6	59																	
R7	63																	

指 標 ④	指標の説明															
この地域で今後も子育てをしていきたいと思う人の割合(産後4か月頃)	4か月児健康診査を受診した保護者の回答に占める「そう思う」の割合	<table><caption>4か月児健康診査結果の推移 (割合%)</caption><thead><tr><th>調査年度</th><th>割合 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>R1</td><td>55</td></tr><tr><td>R2</td><td>62</td></tr><tr><td>R3</td><td>61</td></tr><tr><td>R4</td><td>62</td></tr><tr><td>R5</td><td>62</td></tr><tr><td>R6</td><td>65</td></tr></tbody></table>	調査年度	割合 (%)	R1	55	R2	62	R3	61	R4	62	R5	62	R6	65
調査年度	割合 (%)															
R1	55															
R2	62															
R3	61															
R4	62															
R5	62															
R6	65															

指 標 ⑦	指標の説明																	
一時保育事業実施施設	保護者の疾病やリフレッシュのため、家庭において保育を受けることが一時的に困難となった乳幼児について年齢制限なしで一時的に預かる事業所の数。	<table><caption>一時保育事業実施施設の数 (推定値)</caption><thead><tr><th>年度</th><th>数</th></tr></thead><tbody><tr><td>R1</td><td>1</td></tr><tr><td>R2</td><td>2</td></tr><tr><td>R3</td><td>6</td></tr><tr><td>R4</td><td>8</td></tr><tr><td>R5</td><td>6</td></tr><tr><td>R6</td><td>8</td></tr><tr><td>R7</td><td>-</td></tr></tbody></table>	年度	数	R1	1	R2	2	R3	6	R4	8	R5	6	R6	8	R7	-
年度	数																	
R1	1																	
R2	2																	
R3	6																	
R4	8																	
R5	6																	
R6	8																	
R7	-																	

指 標 ⑩	指標の説明

指 標 ⑬	指標の説明	

指 標 ②	指標の説明
妊娠届数の内、不妊治療により妊娠した妊娠届出数の割合	妊娠届のアンケートから不妊治療を行った者の割合。

指 標 ⑤	指標の説明
ゆったりとした気分で子供と過ごせる時間があった人の割合(産後4か月頃)	4か月児健康診査を受診した保護者の回答に占める「はい」の割合

指 標 ⑧	指標の説明
子ども・子育て支援事業計画に基づく学童保育所の施設整備数	老朽化が著しい施設や基準を満たしていない施設等の整備を行った施設数

指 標 ⑪	指標の説明

指 標 ⑭	指標の説明

Region	Very satisfied
R1	5
R2	9
R3	8
R4	11
R5	12
R6	16
R7	-

Time (R)	Average number of nodes per cluster (N)	Theoretical limit (N_max)
R1	85.5	85.0
R2	87.5	86.0
R3	90.0	87.0
R4	88.0	88.0
R5	88.0	89.0
R6	89.0	90.0
R7	-	90.0

Year	Number of people (millions)
2001 (R1)	3.0
2002 (R2)	3.0
2003 (R3)	4.0
2004 (R4)	6.0
2005 (R5)	6.0
2006 (R6)	7.5
2007 (R7)	-

[illegible]

--	--	--	--	--

指 標 ③	指標の説明
産後退院してからの1か月程度、助産師や保健師等からの指導・ケアは十分に受けることができた人の割合(産後4か月頃)	4か月児健康診査を受診した保護者の回答に占める「はい」の割合

指 標 ⑥	指標の説明
北上市保育士等奨学金返還支援補助金の交付決定件数	補助申請が行われ交付決定された件数

指 標 ⑨	指標の説明
結婚新生活支援補助金の交付決定数	補助申請が行われ交付決定された件数

指 標 ⑫	指標の説明

指 標 ⑮	指標の説明

Year	Observed Fecundity Index	Projected Fecundity Index
1960 (R1)	77	77
1970 (R2)	84	79
1980 (R3)	85	81
1990 (R4)	82	83
2000 (R5)	89	86
2010 (R6)	87	88
2020 (R7)	-	90

Year	TFR (Average number of children per woman)	Replacement Level
R3 (1980)	~52	~53.5
R4 (1985)	~54	~53.5
R5 (1990)	~53.5	~53.5
R6 (2000)	~56	~54.5
R7 (2010)	-	~55

Region	Number of people
R6	16.5
R7	18.5

--	--	--	--	--

北上市総合計画 2021～2030 令和7年度基本施策事後評価シート（評価対象期間:令和6年度）

基本方針	1.未来に輝く人づくり
基本施策	1-2.子どもの健やかな成長を守る環境づくり
関連するプロジェクト	1.子育て寄り添いプロジェクト

将来の社会の主役となる子どもたちが安心して成長できるよう、市全体で子どもの最善の利益の実現に努め、関係機関と一層の連携を図り、家庭と子ども一人ひとりに最適な支援を継続的に行います。

評価項目	A	順調
	B	概ね順調
	C	やや遅れている
	D	遅れている

総合評価
A

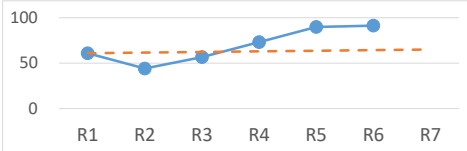
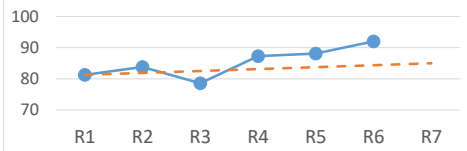
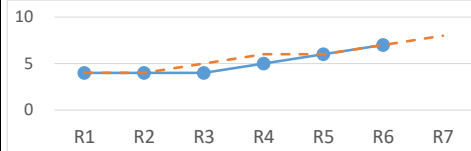
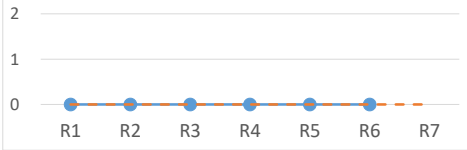
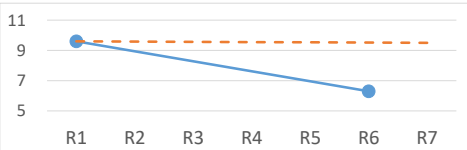
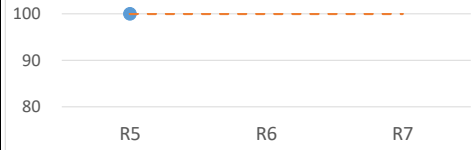
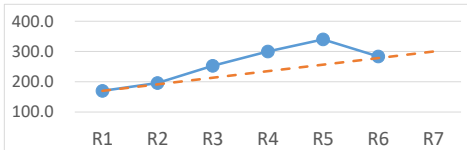
※達成状況評価欄の（ ）内については昨年度の評価結果です。

R6事後
2

No.	担当部等	プロジェクト	推進方針(R6)		成果指標	推進方針に対する達成状況(対象:R6)		達成状況評価	達成状況に至る要因の分析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇:R7/◆:R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
1	健康こども部	●	子育て世代包括支援事業	妊娠期から子育て期まで切れ目なく支援する母子保健機能と子ども虐待の発生防止・早期発見等を行う児童福祉機能を一体的に運営していく「こども家庭センター」を拠点として、様々な事情を抱える妊産婦・乳幼児等の状況を継続的・包括的に把握し、保健師等の専門職が妊産婦や保護者の相談に対応するとともに、支援プランを策定し関係機関との情報共有や検討を行い適切な支援につなぐ。 保健師等の母子健康手帳交付時の面接、要支援妊婦の訪問指導をはじめ、新生児訪問・乳幼児訪問を通し安心して育児していけるよう伴走型の支援を行う。関係機関との一貫性・整合性のある支援につなげるため、連携体制を強化する。	①	指標に基づく事実	新生児訪問指導割合はR4から増加を続けており、期待値も上回っている。	A (A)	指標に関する内容	出産後は全産婦へ電話確認を行い、訪問指導を行っている。	指標に関する内容	◇継続して事業を実施。	
					指標以外の事実	保健師による母子手帳交付時の面談を全員に行い、支援が必要な人へ支援プランを作成し、妊娠期から切れ目のない支援を実施できている。	指標以外の内容		妊産婦リスクアセスメントシートを活用し、支援プランが必要となる対象者を判断し、必要な人への支援がもれなくできる体制をつくっている。	指標以外の内容			
2	健康こども部		支援を必要とする子どもや家庭への支援の充実	新規利用者については事業利用の必要性を精査しながら、児童の状況に応じた支援計画を立て、個々に応じた療育を提供する。 療育専門員と連携してアドバイスを得たり、職員が研修に参加したりするなど専門性の向上に努める。 障がい児の支援に対応するため、幼稚園や保育所等における人員体制及び保育者への研修の充実を図り、小学校へのスムーズな移行ができるよう支援が必要な子どもたちの発達を促す。	②⑦	指標に基づく事実	②児童発達支援事業の利用者の満足度は増加し、期待値を上回った。 ⑦幼稚園・保育園・認定こども園での障がい保育は全園で実施している。	A (A)	指標に関する内容	②施設内外の研修機会を確保し、療育の質の向上を図った。 早期に療育を開始できるよう、北上市こども療育ネットワークにより事業所選択及び見学予約を行い利用者の利便性向上を図った。	指標に関する内容	◇定期的に研修機会を確保し、資質向上に努めていく。 ◇中核的役割を果たすよう機能強化を図っていく。	
					指標以外の事実		指標以外の内容			指標以外の内容			
3	福祉部		生活に困窮している子どもへの学習支援の充実	子どもの貧困対策の推進を図るため、「子どもの居場所事業」を行う団体と連携し、生涯学習支援センターのほかにhoKkoを開催場所にするなど参加しやすい場所の提供に努めるとともに、新規参加者の掘り起こしを図る。	⑧	指標に基づく事実	子どもの学習支援事業の参加者数は、R4年度より300人程度で推移しており、期待値も上回っている。	B (B)	指標に関する内容	子どもの学習支援事業を続けていく中で、徐々に生活に困窮している世帯に認知されていること、及び、市内の学校に周知用チラシを配布していることで参加者数の増に繋がっていると考えられる。	指標に関する内容	◇継続して事業を実施	
					指標以外の事実	生活に困窮している世帯の子どもが、本人の意思に基づき、進学ができるよう学習意識の向上を支援するとともに、子どもの居場所の提供を行い、将来の社会を担う子どもの健全育成を推進することを目的とし開催している。	指標以外の内容		相談支援に関わる知識・技術、教育に関する知識・技術、社会保障制度等に関わる知識等を有する学習支援相談員を配置し実施している。	指標以外の内容			

No.	担当部等	プロジェクト	推進方針(R6)		成果指標	推進方針に対する達成状況(対象:R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析			今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇:R7/◆:R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)	
4	健康こども部		「子どもの居場所づくり」に対する支援の充実	「子どもの居場所づくり」を行っている団体からの意見や運営に係る収支状況を確認しながら、今後どのような支援が必要か検討する。	③	指標に基づく事実	子どもの居場所づくりに取組む「子ども食堂」の開催場所数は、1増となり期待値のとおりとなっている。	A (A)	指標に関する内容	当市の事業を利用して開設した団体が活動を続けているため、収支状況の確認を行い、必要に応じて助言を行った。また、希望する団体については広報による周知、会場の確保を行っている。	指標に関する内容	◇今後も団体からの意見や運営状況の把握に努め、活動の支援を行う。
						指標以外の事実	フードパントリー、学習支援など工夫した取り組みを実践している団体もある。		指標以外の内容		企業からの寄附、住民からの食材提供等により、各団体は安定した運営ができている。	
5	健康こども部	●	児童虐待の発生防止、早期発見・対応	子どもやその家庭の支援及び家庭児童相談機能を充実させるために、こども家庭センターを設置し、支援体制の強化を図るほか、児童相談所、警察、保健医療機関等関係機関の更なる連携強化により児童虐待の発生防止、早期発見と適切な対応に取り組む。	④	指標に基づく事実	すべての児童虐待の通告において死亡事案に至ることなく対応しており、虐待通告から児童の安全確認までの所要時間48時間以内に100%対応できている(R6年度新規受理:62件 内虐待38件、養護その他24件)	A (A)	指標に関する内容	勤務時間内外に関わらず、すべての児童虐待の通告に対して市が定める「虐待通告受理からの対応フロー図」に基づき組織的に対応を協議し、通告受理から48時間以内の安全確認を継続して実施。重篤事案については岩手県福祉総合相談センター(児童相談所)や警察と連携して対応した。	指標に関する内容	◆北上市こども計画に基づき、子育てに困難を抱える世帯への訪問支援について、事業の実施開拓について研究し、適切な支援に努める。
						指標以外の事実	市内保育施設、小中学校の保護者向けに児童虐待予防に関する周知を行い、通告義務があることや、通告受理後の市の具体的な対応など保護者が知る機会となった。		指標以外の内容	広範囲に周知を図るため市内保育施設、小中学校から保護者向けにチラシを配布(マチコミメールを活用)した。	指標以外の内容	
6	健康こども部		子どもの貧困対策の推進	進路や教育の希望が叶えられる環境の整備、相談体制の充実、経済的支援の充実、保護者の就労の支援など、子どもの貧困対策に関する具体的施策の推進を図るほか、子どもの権利を保障する方策について検討する。	⑤	指標に基づく事実	R6年度に実施した子どもの生活実態調査から算出した貧困率は、6.3%となり期待値を達成した。	A (B)	指標に関する内容	児童手当や物価高騰対応低所得世帯給付金等の経済的支援を実施した。	指標に関する内容	賃金の上昇や雇用環境の改善がみられた。 ◇引き続き、こども家庭センターが子育てに関する相談窓口として支援を実施する。 ◇こどもの権利の保障については、こども計画の中で重点施策として位置付け、具体的な事業を検討していく。
						指標以外の事実	貧困を含めた子育てに関する相談窓口として、こども家庭センター対応しており、庁内外と連携し貧困の解消を含めた課題解決策を相談者に提案している。		指標以外の内容	こども家庭センターにおいて統括支援員が中心となり、児童家庭係と親子保健係の両面から相談支援を実施することで、相談支援体制の充実を図っている。	指標以外の内容	
7	健康こども部		ひとり親家庭等への自立支援の推進	ひとり親家庭等に対する相談体制の充実を図るとともに、「児童扶養手当」「ひとり親家庭医療費給付」など経済的支援を実施する。また、生活の安定と自立を支援するため、父・母の就職や資格取得を促進するための給付金を支給する。	⑥	指標に基づく事実	ひとり親の就労や資格取得を促進するため、高等職業訓練給付金を支給した。一部の受給者は年度内に修業課程は修了せず資格取得には至っていないが、修業課程は継続中である。	B (B)	指標に関する内容	児童扶養手当の現況届のタイミングに合わせ、県の自立支援員による相談対応、ハローワークの就業相談の窓口を開設し、ひとり親家庭が相談しやすい環境を整備した。	指標に関する内容	◇児童扶養手当、ひとり親家庭医療費給付、高等職業訓練促進給付金の支給等を継続して行う。 ◇ひとり親に対する相談支援の充実にあたり、あるべき姿を検討するため、他市の事例を研究する。
						指標以外の事実	ひとり親に対し、児童扶養手当、ひとり親家庭利用費給付などを実施し、経済的負担の軽減を図った。		指標以外の内容	各種事業については、滞りなく実施し、ひとり親家庭を支援している。	指標以外の内容	

凡例 ●実績値 — 期待値

指 標 ①		指標の説明								指 標 ②		指標の説明								指 標 ③		指標の説明							
新生児訪問指導割合		年間出生数に占める赤ちゃん訪問指導を実施した割合								児童発達支援事業(こども療育センター)の利用者の満足度		通園児保護者の中で総合的な利用満足度に「満足している」と回答した率								子どもの居場所づくりに取組む「子ども食堂」の開催場所		食事の提供や学習支援等を行う子どもの居場所の開催場所の数							
																													
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
健康こども部	%	実績値	60.9	44.1	56.6	73.2	89.9	91.3		健康こども部	%	実績値	81.3	83.8	78.6	87.3	88.1	92.0		健康こども部		実績値	4	4	4	5	6	7	
		期待値 ※R7は目標値	60.9	61.6	62.3	63.0	63.6	64.3	65.0			期待値 ※R7は目標値	81.3	81.9	82.5	83.2	83.8	84.4	85			期待値 ※R7は目標値	4	4	5	6	6	7	8
		備 考										備 考										備 考							
指 標 ④		指標の説明								指 標 ⑤		指標の説明								指 標 ⑥		指標の説明							
児童虐待死亡事案件数		福祉行政報告例年度報 第45児童相談種類別対応件数の児童虐待相談として受理した件数のうち、児童が死亡に至った件数								子どもの貧困率		北上市子どもの生活実態調査で調査した所得をもとに、厚生労働省が平成28年国民生活基礎調査から算出された日本国内の等価可処分所得(世帯の可処分所得(手取り収入)を世帯人数の平方根で割り調整した所得)の中央値の2分の1である12.2万円を基準額とし、基準値を下回る世帯を貧困層とし、全体に占める割合を算出したもの。								高等職業訓練促進給付金受給者の資格取得率		高等職業訓練促進給付金受給者のうち、当該年度に修業課程を修了した者の資格取得率							
																													
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
健康こども部	件	実績値	0	0	0	0	0	0		健康こども部	%	実績値	9.6					6.3		健康こども部	%	実績値					100		
		期待値 ※R7は目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0			期待値 ※R7は目標値	9.6	9.6	9.6	9.6	9.5	9.5	9.5			期待値 ※R7は目標値					100	100	100
		備 考										備 考		未実施	未実施	未実施	未実施		以下			備 考				現状値	修了者0		
指 標 ⑦		指標の説明								指 標 ⑧		指標の説明								指 標 ⑨		指標の説明							
幼稚園・保育園・認定こども園での障がい児保育の実施園		障がい児・支援児が入園を希望した場合に、加配の職員を配置するなどして、受入を行う施設の割合。								子どもの学習支援事業への参加者数		子どもの学習支援事業の参加者数の推移(延参加者数:ボランティア参加者除く実数)																	
																													
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
健康こども部		実績値	全園	全園	全園	全園	全園	全園		福祉部	人	実績値	170	196	253	300	340	284				実績値							
		期待値 ※R7は目標値						全園				期待値 ※R7は目標値	170.0	191.7	213.3	235.0	256.7	278.3	300.0			期待値 ※R7は目標値							
		備 考										備 考										備 考							
指 標 ⑩		指標の説明								指 標 ⑪		指標の説明								指 標 ⑫		指標の説明							
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
		実績値										実績値										実績値							
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値							
		備 考										備 考										備 考							
指 標 ⑬		指標の説明								指 標 ⑭		指標の説明								指 標 ⑮		指標の説明							
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
		実績値										実績値										実績値							
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値							
		備 考										備 考										備 考							

北上市総合計画 2021～2030 令和7年度基本施策事後評価シート（評価対象期間:令和6年度）

基本方針	2.未来を創る人づくり
基本施策	2-1.変化する社会を生き抜く「知・徳・体」の育成
関連するプロジェクト	2.学びの改革プロジェクト

国籍、心身の状態、家庭環境等を問わず、すべての児童生徒の「知・徳・体」を育てるため、豊かな自然、伝統ある郷土文化等、地域の様々な資源を活かし、教育機関との連携強化を図りながら、充実した学校教育を展開します。また、学校給食による食育を推進し、子どもたちが積極的に心身の健康の保持増進を図っていく資質や能力を身に付け、生涯を通じて健康・安全な生活を送る基礎を培います。

評価項目	A	順調
	B	概ね順調
	C	やや遅れている
	D	遅れている

総合評価
A

※達成状況評価欄の（ ）内については昨年度の評価結果です。

R6事後
3

No.	担当 部署等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)		成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象:R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇:R7/◆:R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
1	教育部	●	確かな学力と情報活用能力の育成	新しい学習指導要領に基づき、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善に取り組み、言語能力の育成・外国語教育・プログラミング教育・理数教育等の充実を図る。また、児童生徒一人に1台タブレット端末の整備を進めることで、情報を整理・比較・発信・伝達したり、共有したりする情報活用能力の向上を図る。	①②	指標に基づく事実 ①総合学力調査の結果からは、小学校では期待値をわずかに下回る平均正答率であった。 ②中学校では、期待値を下回る平均正答率であった。	B	指標に関する内容 市教育委員会において学力向上に向けての課題分析が甘く、授業改善の視点を学校に明示できなかった。	指標に関する内容 総合学力調査に限らず、全国学力調査や県学力調査において獲得した知識を活用する問題や、他者の考えをもとに自分の考えを再構築する問題など、より思考力や判断力、表現力などを問う問題構成となっており、ただ知識を身に付けさせるだけでは正答率が伸びていない。		◇各種学力調査結果をもとに、目指すべき資質・能力を明らかにした教師の授業改善を推進する。また、児童生徒のつまずきに対して、具体的支援策を講じていく。目標と一体化された評価問題の工夫により、学力の定着状況を把握し、より生きて働く学力の定着を目指す。 ◇端末の更なる活用推進に向け、OJTによる校内での研修の実施や運用定例会を継続実施する。		
						指標以外の事実 児童生徒の一人一台端末の授業での活用のほか、家庭への持ち帰りによる活用を進めることができた。ただし、学校、教員による使用頻度の差が大きい。		(B)	指標以外の内容 ・一人一台端末の活用に向け、教員対象の研修を実施し、活用の幅を広げることができた。 ・毎月の運用定例会を実施することで、活用状況を把握し、個別の対応を行った。 ・各学校で発生した一人一台端末の運用にかかわるトラブルに対し、契約している通信業者のサポートセンターに迅速に対応させた。			指標以外の内容 校務のDX化により、県内統一の校務支援システムの導入などICT環境が大きく変化しており、ICT利用が苦手な教職員にとって負担感が大きい。	
2	教育部	●	不登校児童生徒への対応	不登校児童生徒の個々の状況を把握した上で、不登校児童生徒やその保護者の心情に寄り添い、丁寧且つ適切な学習支援及び相談に取り組むとともに、スクールソーシャルワーカー(SSW)等による学校以外の関係機関との連携強化を図る。	③④	指標に基づく事実 小中学校とも、前年度より不登校出現率が増加した。結果が分かっているR5年度の県、全国の不登校出現率と比較した場合、小中学校ともに全国を下回り、県を若干上回っている。 (R5出現率①小学校:市1.84・県1.58・国2.14、②中学校:市5.95・県5.51・国6.71)	B	指標に関する内容 小学校・中学校ともに、学校不適応を起こす児童生徒に対し、早期発見、組織的な対応を行ってきたが、不適応にかかわる個々の要因が複雑化しており、具体的な解決に至らないケースが多い。また、学校とのつながりが希薄になるケースも多くなっている。	指標に関する内容 個々に様々な要因があるが、医療機関から登校刺激を行わないよう指示が出される場合があり、教員の取組だけでは、解決が困難である。		◇学校においては、早期発見、組織的な対応を継続実施する。 ◇学びのサポートセンターなないろやスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、その他関係機関と連携しケース会議を実施する。 ◇教育相談員やスクールソーシャルワーカーを活用し、個別の保護者対応や学校サポートを行う。 ◇端末での健康観察やリモート学習を積極的に推奨し、当該児童生徒とつながりを保つとともに、学びの保障を行っていく。		
						指標以外の事実 R5年度から新たにスクールソーシャルワーカー(SSW)を1名任用し、関係機関と連携して不登校や支援を必要とする家庭への対応数を増やすことができた。		(B)	指標以外の内容 学校や社会福祉協議会等と連携をとり、定期的に保護者面談や家庭訪問を実施できるケースが増えてきている。			指標以外の内容 家庭環境や本人の特性に起因すると思われるケースが多く、スクールソーシャルワーカー(SSW)との関係づくりや福祉分野や医療分野との連携に時間を要している。	
3	教育部	●	グローバルな人材の育成	外国語を学ぶ機会、科学に触れる機会の充実を図り、児童生徒における英語力と科学力の向上に取り組む。	⑤	指標に基づく事実 英検補助対象受検者数における合格者の割合は、期待値と同程度の数値となっており、その中でも難易度の高い準2級や2級の合格率は上がっている。	A	指標に関する内容 ・英検3級相当の英語力をつけることを目標に掲げ、達成に向け学校への周知を図った。 ・学力ステップアップ事業を通して外国語教育について小中連携が図られた ・H24年度からステップアップ英語講座を継続して実施している。	指標に関する内容 ◇北上市英語力推進アクションプランの教職員に対しての周知を図る。 ◇小学校外国語及び中学校英語の授業改善や教育研究所英語力向上部会による指導法の研究推進を図るとともに、英語検定補助事業、ステップアップ英語講座の継続実施とその充実によりCEFR A1レベルの英語力を身に付けた生徒の育成を目指す。 ◇各事業の内容を見直しながら継続実施し、外国語や科学に触れる機会を創出する。		◇北上市英語力推進アクションプランの教職員に対しての周知を図る。 ◇小学校外国語及び中学校英語の授業改善や教育研究所英語力向上部会による指導法の研究推進を図るとともに、英語検定補助事業、ステップアップ英語講座の継続実施とその充実によりCEFR A1レベルの英語力を身に付けた生徒の育成を目指す。 ◇各事業の内容を見直しながら継続実施し、外国語や科学に触れる機会を創出する。		
						指標以外の事実 ・イングリッシュ・キャンプ(中学生対象)、イングリッシュ・ワールド(小学生対象)、ステップアップ英語講座、オンライン英会話講座を実施した。 ・小学生4～6年生を対象とした科学実験教室では、定員数を上回る申し込みがあった。		(A)	指標以外の内容 ・チラシ配布など周知の強化を図った。 ・申し込みをQRコードの読み取りで行えるようにするなど簡略化を図った。				

No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)		成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象：R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇：R7/◆：R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
4	教育 部		食に関する自己管理能力の育成	食生活による肥満等への指導や、栄養教諭等が具体的に授業に参画することにより、健全な食生活を実践することができる人間を育てる食育を推進する。	⑥⑦	指標に基づく事実	・市内の小中学生の児童・生徒の肥満やせ状況は、小学生はR5年度の12.68%から12.09%と微減しており、中学生もR5年度の11.22%から10.87%と減少している。	B (B)	指標に関する内容	・各学校と調整を図りながら食育の事業を実施(242クラス中102クラスで実施 実施率41.6%) ・3センターにおいて昼食時間に学校訪問を行い、主食、副食などの配膳量や残食状況を確認並びに児童・生徒にヒヤリングを行い嗜好の把握により努めている。	指標に関する内容	各学校において肥満やせの実態に基づき、対象者に個別に指導を実施している。	◇食育について関心がある児童・生徒の増加やバランスのとれた食生活を身に着けるため、朝食を食べる児童・生徒の増加が図られるような食育の授業を行う。 ◇食べる力＝生きる力を育むことができるような行事食や地産地消による、地元の野菜などの理解や伝統行事を学ぶ機会として特色のある給食の提供を行う。
						指標以外の事実			指標以外の内容		指標以外の内容	教育委員会で肥満やせ調査は実施しているが、各学校等における具体的な取組内容及び推進状況は不明である。	

凡例 ●実績値 —期待値

指 標 ①		指標の説明																											
総合学力調査における平均正答率の全国比〔2教科(国・算)小学4年〕	2教科の学力検査の平均正答率		総合学力調査における平均正答率の全国比〔5教科(国・数・社・理・英)中学1年〕																										
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
教育部	%	実績値	103.9	100	100	103.6	98.9	101		教育部	%	実績値	96.1	100	97.6	97.2	94.9	94.9		教育部	%	実績値	0.54	0.57	0.86	1.22	1.84	2.07	
		期待値 ※R7は目標値	103.9	103.8	103.6	103.5	103.3	103.2	103.0			期待値 ※R7は目標値	96.1	96.9	97.7	98.6	99.4	100.2	101			期待値 ※R7は目標値	0.55	0.62	0.84	1.13	1.58		
		備 考										備 考										備 考	県の値	県の値	県の値	県の値	県の値	国・県出現率未公表	※
指 標 ④		指標の説明																											
不登校出現率(中学校)	市内中学校在籍生徒数に占める不登校生徒の割合(年間30日以上) ※全国が県のうち低い値を下回る％		英検補助対象受検者数における合格者の割合																										
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
教育部	%	実績値	3.07	3.24	3.93	4.93	5.95	6.68		教育部	%	実績値	58.9	61.6	58.7	54.0	60.9	60.8		教育部	%	実績値	10.1	11.39	11.68	13.44	12.68	12.03	
		期待値 ※R7は目標値	3.07	3.32	3.96	4.65	5.51					期待値 ※R7は目標値	58.9	59.4	59.9	60.4	60.9	61.4	62.0			期待値 ※R7は目標値	10.1	9.9	9.7	9.6	9.4	9.2	9.0
		備 考	県の値	県の値	県の値	県の値	県の値	国・県出現率未公表	※			備 考											備 考						
指 標 ⑦		指標の説明																											
肥満の割合(肥満度20%以上)	毎年の中学校定期健康診断における全体生徒数に対する肥満生徒の割合																												
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
教育部	%	実績値	11.5	11.62	10.19	11.39	11.22	10.87		教育部	%	実績値									教育部	%	実績値						
		期待値 ※R7は目標値	11.5	11.3	11.0	10.8	10.5	10.3	10.0			期待値 ※R7は目標値								期待値 ※R7は目標値									
		備 考										備 考								備 考									
指 標 ⑩		指標の説明																											
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
		実績値										実績値										実績値							
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値							
		備 考										備 考										備 考							
指 標 ⑬		指標の説明																											
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
		実績値										実績値										実績値							
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値							
		備 考										備 考										備 考							
指 標 ⑱		指標の説明																											
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
		実績値										実績値										実績値							
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値							
		備 考										備 考										備 考							

北上市総合計画 2021～2030 令和7年度基本施策事後評価シート（評価対象期間:令和6年度）

基本方針	2.未来を創る人づくり
基本施策	2-2.最適な教育環境の構築
関連するプロジェクト	2.学びの改革プロジェクト

安全で安心な質の高い教育環境を整備するとともに、社会に開かれた学校づくりを進め、地域全体で子どもたちの学びを支える環境を整えていくため、学校と地域の連携・協働体制を構築します。

評価項目	A	順調
	B	概ね順調
	C	やや遅れている
	D	遅れている

総合評価
A

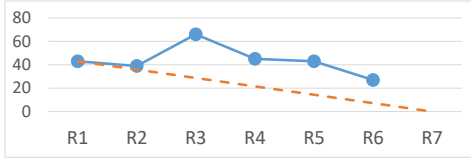
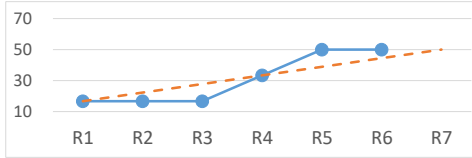
※達成状況評価欄の（ ）内については昨年度の評価結果です。

R6事後
4

No.	担当部等	プロジェクト	推進方針(R6)		成果指標	推進方針に対する達成状況(対象:R6)		達成状況評価	達成状況に至る要因の分析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇:R7/◆:R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
1	企画部		大学等高等教育機関の設置	市内で生まれ育った子どもたちが住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、大学等高等教育機関の設置に向けた研究を進め、市内での進学の実現性を増やすとともに、卒業後は地域産業の担い手として活躍できる環境整備を図る。	①	指標に基づく事実	・R7年3月に北上市立大学(仮称)基本構想を策定した。	A	指標に関する内容	委員10名で構成する北上市立大学(仮称)基本構想策定委員会を設置・開催し、基本構想案をとりまとめた。	指標に関する内容	中央教育審議会での高等教育の在り方に関する議論と同時期であったため、勘案すべき事項や考え方の参考となった。	◇基本構想に掲げる大学を実現するために必要な施設の規模・機能等を検討・整理する。 ◆施設等整備に関する基本計画を作成する。 ◆大学設置認可申請に向けた準備を進める。
					指標以外の事実		(A)		指標以外の内容		指標以外の内容		
2	教育部	●	地域とともにある学校づくり	学校と地域が、連携・協働し一体となって取り組み、持続可能な円滑で効果的な学校運営を推進するため、コミュニティ・スクールの充実を図る。 ※コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)とは 学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組み(文部科学省)	未設定	指標に基づく事実		A	指標に関する内容		指標に関する内容		◇年2回のコミュニティ・スクール等連絡協議会を開催し、先行事例等を共有することで、更なる推進を図る。
					指標以外の事実	各地区の特徴を生かした体験学習や地域学習など、それぞれの地域学校協働活動を実施し、コミュニティ・スクールの充実を図ることができた。	(A)		指標以外の内容	・地域コーディネーターの役割や地域学校協働活動についての理解が深まっている。 ・コミュニティ・スクール等連絡協議会により、情報共有を行い、地域学校協働活動の実践事例を共有することで、他地域を参考に学校と地域が連携した取り組みが実践されるようになった。	指標以外の内容		
3	教育部		これからの時代に 応じた指導体制や 教育環境の構築	さまざまな配慮を必要とする児童生徒に対して、多様な教育を受ける機会を保障しながら適切な指導体制を構築する。また、教職員の業務改善を図るため勤務内容を把握・分析し、教職員の負担軽減と健康確保に取り組む。	②	指標に基づく事実	教職員の在校等時間調査における6月の1か月在校等時間が80時間以上だった職員数について、R5年度は小中合わせて43人だったが、R6年度は27人と減少している。ただ、未だに時間外勤務を行っている教員が多い。	B	指標に関する内容	・業務の軽減を図るため、校務の電子化や部活動指導員の配置などを進めてきたが、教職員の業務はいまだに多い。 ・校長会議などで管理職に業務改善の必要性を周知しているが、その必要性の認識がすべての教職員にまで浸透していない。	指標に関する内容	生徒指導に係る保護者への電話連絡等、個別の対応が求められる場合が多く、在校時間が長くなる要因となっている。	◇勤務時間の実態調査を継続し、各学校、全教職員の教務改善に向けた情報提供や指導を進める。 ◇部活動指導員の任用を進め、中学校の時間外労働の軽減を図る。 ◇学校の運営上の課題を確認しながら、個別指導支援員等の配置を検討していく。 ◇R6に引き続き土日休日の部活動地域移行を試行し、教職員の時間外労働の軽減につながる仕組みを検討していく。 ◇R6に本格運用を開始した校務支援システムを活用し、教職員の業務改善を進める。
					指標以外の事実	各学校の工夫により、配慮を必要とする児童生徒に対する支援体制を構築することができた。また、子どもの学びを保障し、工夫して教育活動を推進することができた。	(B)		指標以外の内容	児童生徒の状況や学校運営上の課題を把握し、教職員や市の個別指導支援員、学習支援員を配置することで、配慮を必要とする児童生徒に対する支援体制を後押しできた。	指標以外の内容	配置予定数に対し、個別指導支援員等の希望者数が満たない。	

No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)		成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象：R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇：R7/◆：R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
4	教育 部	●	教育環境 の整備	ア)市の建築物最適化計画等に基づき、各学校及び学校給食センターの長寿命化や建替え、設備更新を計画的に進める。 将来のより良い教育環境や文部科学省が提唱する新しい時代の学びの実現に向け、これまでの協議経過や、少子化による様々な環境変化を踏まえた小中学校の教育環境の整備を進める。	③	指標に基づく事実 ア)に関して、指標となる6校(R2江釣子中、R3飯豊中、R4二子小、R8黒北小・上野中、R12飯豊小)のうち、二子小と黒北小の計画年度を入替え実施することとし、R5に黒北小の実施設計に着手した。 黒北小の長寿命化改良工事はR6からの実施予定だったが、国の学校施設環境改善交付金の決定が見送られたため、スケジュールを見直し、R7から実施することとした。	A	指標に関する内容 ア)に関して、施設の老朽度合いを考慮し、長寿命化実施年度を入れ替えるなど臨機応変に対応することで、着実な計画実施に努めている。	指標に関する内容 ア)に関して、財源として重要な国交付金のニーズが全国的に高まっており、補助採択のハードルが高くなっている。国交付金の採否状況に応じた柔軟な対応が必要となっている。	◇ア)市の建築物最適化計画に基づく整備を着実に進めるとともに、統合北上中学校の新校舎供用開始に向け、引き続き、統合北上中学校建設推進委員会における意見交換等の内容を踏まえながら、建設工事を進める。二子小の長寿命化については、北上市立学校適正配置基本計画(R8.3月策定予定)を踏まえ、実施方針を検討する。			
				イ)外部の検討委員会より、R6.3に提言された「きたかみの 未来を創る教育のあり方」を踏まえ、学識経験者や学校関係者、地域教育関係者などによる新たな検討の場を設け、北上市立学校適正配置基本計画の策定を進める。 ウ)生徒の多彩な教育機会を確保するため、市内高等学校の学習環境の充実や、市内高等学校等へ進学する生徒等の学習機会の確保に対し支援するとともに、高校や大学等に進学する際の奨学金制度を継続する。		指標以外の事実 イ)に関して、「北上市立学校適正配置の在り方検討委員会」から、R6年3月に、提言「きたかみの未来を創る 教育のあり方」が提出され、R6年度に「北上市立学校適正配置基本計画策定検討委員会」を設置し、基本計画の議論を開始した。 ウ)に関して、高校や大学等の在籍者、合計58人(うち、新規貸与者は23人)に奨学金を貸与した。新規貸与者数は20人程度と低調な状況が続いている。		(A)	指標以外の内容 ウ)に関して、市内における少子化等を原因とする進学者数の減少や、日本学生支援機構の奨学金に対する返還支援制度を設ける企業が増えたこと等により、市の奨学金に優位性が感じられないことが考えられる。		◇イ)より良い教育環境の整備のため、北上市立学校適正配置基本計画の策定を進める。 ◇ウ)奨学金制度利用希望者のニーズに応じた一時貸与金の新設や月額貸与金の増額、早期募集開始など、制度を変更し利便性の向上を図る。		

凡例 ●実績値 —期待値

指 標 ①		指標の説明		—						指 標 ②		指標の説明									指 標 ③		指標の説明								
大学等高等教育機関の設置に向けた活動の展開	※R7目標値:基本構想及び施設基本設計等設置に関する総合的な計画の完成(誘致の場合は必要に応じた事業者への支援の実施)		長時間時間外勤務教職員数							・月80時間以上の勤務職員 ・H31.3に策定した北上市教職員働き方改革プランにおいて定めた目標		学校施設の長寿命化実施率		北上市建築物最適化計画に基づく計画期間中の長寿命化実施率(長寿命化実施校の延べ数／実施予定校数)																	
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
企画部		実績値			調査研究の実施	調査研究の実施	基本調査の実施	基本構想の策定		教育部	名	実績値	43	39	66	45	43	27		教育部	%	実績値	16.7	16.7	16.7	33.3	50	50			
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値	43	35.8	28.7	21.5	14.3	7.2	0			期待値 ※R7は目標値	16.7	22.3	27.8	33.4	38.9	44.5	50		
		備 考							※			備 考										備 考									
指 標 ④		指標の説明								指 標 ⑤		指標の説明									指 標 ⑥		指標の説明								
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値										実績値										実績値									
		期待値 ※R7は目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0				期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値									
		備 考										備 考										備 考									
指 標 ⑦		指標の説明								指 標 ⑧		指標の説明									指 標 ⑨		指標の説明								
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値																				実績値									
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値									
		備 考										備 考										備 考									
指 標 ⑩		指標の説明								指 標 ⑪		指標の説明									指 標 ⑫		指標の説明								
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値										実績値										実績値									
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値									
		備 考										備 考										備 考									
指 標 ⑬		指標の説明								指 標 ⑭		指標の説明									指 標 ⑮		指標の説明								
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値										実績値										実績値									
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値									
		備 考										備 考										備 考									

北上市総合計画 2021～2030 令和7年度基本施策事後評価シート（評価対象期間:令和6年度）

基本方針	1.すべての人が活躍できる環境づくり
基本施策	3-1.生涯にわたる豊かな学びの場づくり
関連するプロジェクト	3.地域をつくる文化芸術・スポーツプロジェクト

活発な市民活動や充実した文化施設、豊かな自然及び伝統的な文化等、本市独自の資源を最大限に活用し、市民が生涯にわたって活躍できる生涯学習環境の形成を推進します。

評価項目	A	順調
	B	概ね順調
	C	やや遅れている
	D	遅れている

総合評価
B

※達成状況評価欄の（ ）内については昨年度の評価結果です。

R6事後
5

No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)		成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象:R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇:R7/◆:R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
1	企画 部		市史編さん事業の 推進	「北上市史編さん基本計画」に基づいた各巻の発刊スケジュールの進捗管理を定期的に行いながら市史刊行を推進するほか刊行の周知と市民への協力を情報発信していく。 また、事務局と各編さん委員(部会員を含む)との情報共有を図り、計画的な刊行を行う。	①	指標に基づく事実	・「北上市史編さん基本計画」に基づき、「資料編現代」と「特別編民俗」を刊行した。 ・「資料編近代」の年度内刊行が難しくなったため、基本計画(刊行年度)を変更した。	B	指標に関する内容	(刊行済) ・全体構成や校正回数を変更するなどし、刊行スケジュールに影響がでないように対応した。 ・部会を開催するなどして執筆者との連絡を密にし、校正作業を進めた。 (刊行延期) ・執筆者からの原稿提出が遅れたことで付属する部分の資料が揃わなかった。	指標に関する内容	執筆者である部会員の退任や体調不良により、他の部会員に急遽原稿執筆をお願いすることになり、原稿提出に遅れが生じた。	◇「資料編近代」、「通史編1 先史・古代・中世」の年度内刊行に向けて校正等の作業を進める。R8年度刊行予定の「通史編2 近世」、「通史編3 近現代」の原稿の入稿に向けた準備をスケジュールを確認しながら行っていく。(R7年度刊行:2冊) ◆基本計画に基づいた刊行に向け、準備を進める。 (R8年度刊行:2冊 市史全10冊刊行終了予定)
						指標以外の事実	市民大学の2講座(民俗・近代)を担当し、市史のPRをした。(2講座の参加者:延べ150人)	(B)	指標以外の内容	・講座に合わせて、市史のPRができた。 ・生涯学習文化課と連携して実施することができた。	指標以外の内容		
2	まちづくり 部	●	多様な社会教育への 対応	市民が主体的に参加するきっかけとなるような講座の開催や情報提供を行う。また、各地区交流センターや企業等と連携し個人のライフステージに応じた多様な講座の開催のほか、共生社会の実現に向け障がい者の生涯学習の推進のための取組みを実施する。 地域で活動している生涯学習推進員を対象とした研修会を実施し創意工夫のある講座の開催につなげることで、社会教育を基盤とした地域内の人材育成を図る。 生涯学習事業を通じて、市民が地域の持つ様々な資源の魅力を知り、その魅力を育てて発信することで地域への愛着と誇りの醸成が図られるように、地域、学校及び行政が連携し、学びの機会を創出する。	②③	指標に基づく事実	②出前講座の参加者は、期待値を下回っているもののR5年度と比較すると431人増加した。 ③市民大学の参加者にアンケート調査を行った結果、講座の内容を「理解できた」と回答した人の割合が89.0%であり、概ねの参加者が講座内容を理解しており、市民の学びの機会の創出及び推進を図った。	B	指標に関する内容	②出前講座については、市HPやパンフレット、説明会などを利用し、講座内容について市民へ周知を図ったことが参加者の増加につながった。 ③市民大学については、現代的課題につながる防災や共生社会の実現に向けた障がい者の生涯学習に関連する講座を取り入れたことで、参加者の増加につながった。また、講座内容が重複しないように幅広い分野の生涯学習事業の講座を開催した。	指標に関する内容	②各種感染症や夏場の気温の上昇による影響もあり、各地区交流センターや各自治公民館で実施する社会教育活動が従前のレベルまで戻っていない。	◇出前講座については、多様な市民ニーズに対応するため、人気のある分野などの新たな講座を開拓。またデジタルサイネージを活用した講座の申し込み方法の周知、オンラインによる申込受付を実施。 ◆地域の担い手不足が深刻である現状において、各地区交流センターで実施する生涯学習事業については、本来の目的や意義に基づいた事業の実施や地域課題に応じた事業展開が必要であり、市が担うべき役割を果たしながら、「公民館機能」を取り戻すことで、地域における「人と人とのつながりづくり」を進める体制を構築していく。
						指標以外の事実	各地区交流センターにおいて、地域の特色にあった生涯学習事業を推進し、学びの機会を創出した。	(B)	指標以外の内容	・地区交流センターの生涯学習推進員及び地域学校協働活動推進員の合同研修会において、地域学校協働活動を活用した「人づくり・地域づくり」についての研修を開催し、地域の特色にあった事業の実施を後押しした(16地区で計20名の職員が参加)。	指標以外の内容	・地域づくり組織が行う生涯学習事業は、地域の特色ある事業や講座を展開しているが、参加者の高齢化や固定化が進んでいることが課題となっている。 ・生涯学習事業については、市の指定管理事業を交付金事業としたことで、各地区で実施する事業の自由度が高くなった一方で、社会教育・生涯学習事業の本来の目的の一つである「人づくり・地域のつながりづくり」の役割が失われてきており、地域の担い手不足が深刻な問題となっている。	
3	教育 部		読書習慣の 定着化	図書館においては、生涯における読書の習慣の基礎となる幼少期(子育て期)から本に親しむきっかけとなる機会の提供、家庭環境の違いなどによらない読書習慣の定着を図るとともに、読み聞かせや、お話し会の事業を推進する。	④	指標に基づく事実	絵本の貸出数は84,164冊で、R5年度と比較して365冊の増加。	A	指標に関する内容	・子どもを対象とした事業を重点的にを行い、スタンプラリー等、何度でも楽しめ、再来館を促す仕組みを取り入れている。 ・幼稚園保育園の団体貸切サービス、4カ月健診時に親子に絵本と読み聞かせの体験を提供するサービス、名作絵本コーナーの新設、定番絵本の買い替えなどに取り組んでいる。 ・R2年度から一回あたりの貸出冊数を5冊から10冊とした。	指標に関する内容		◇子どもを対象とした事業を中心に、利用増に繋がる事業や展示を実施する。また、幼児向け絵本の購入冊数維持に引き続き力を入れ、資料収集と整備を行う。
						指標以外の事実	入館者数は191,696人で、R5年度と比較して13,380人の増加。	(B)	指標以外の内容	・子どもを対象とした事業をはじめ、幅広い世代を対象とした事業を行っている。 ・貸出者数、入館者数(新聞の閲覧や席の利用など、本の貸出を伴わない利用も含)ともにR5年度より増加している。	指標以外の内容	・家族単位での来館者が多く見受けられるようになった。 ・高齢者の居場所や、中高生の学習の場として利用されている。	

No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)	成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象：R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇:R7/◆:R8以降)
								市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
4	教育 部	●	親しみが もてる社 会教育施 設へ 豊富な資料の収蔵、保存を行うと共に、博物館においては、若年層にも興味をもてる常設展示の工夫、企画展の魅力向上を図り、あわせて、博物館分館による自然科学系の事業も推進する。また、鬼の館においては、芸能公演や講座を実施し、民俗芸能の保存と次世代への継承を推進する。 更に、常に最新の郷土の歴史・文化の情報を収蔵品管理システムのDX手法も活用して研究・発信し続けることにより、社会教育施設の利活用を通して、郷土の歴史・文化に対する興味関心を深め、シビックプライドの醸成につなげる また、施設自体の魅力向上を図り、各館の周年事業に向けた取り組みを進める。	⑤	指標に 基づく 事実	【博物館】 小中学生の入館者数は1,290人であり、前年度の1,899人に対する達成状況は68%であった。(R5比609人減) 【鬼の館】 学校行事においての見学者数の増加、支援学校による面色塗り体験者の増加により、小中学生の利用者数が増加し次世代への継承を推進することができた。	B	指標に 関する 内容	【博物館】 夏から秋にかけて小学生向けの企画展を開催し、親子や学校単位での来館を期待したが、期待値2,000人には届かなかった。(本館…ものがたりの道具展、小中学生603人、分館…文学作品に登場する昆虫展、小中学生145人) 【鬼の館】 見学・面塗りの際に分かりやすい解説や指導を学芸員・研究員が行うことにより、次の見学へ結びつけることとなった。	指標に 関する 内容	【博物館】 小学生向け企画展開催期間中の小学校単位での見学が減少している。(R6…8団体、R5…10団体、R5比2団体364人減)カブト・クワガタが人気のテーマになっている。	【博物館】 ◇学校・学童等の団体単位で来館してもらえる企画展を実施していく。 ◇人気のテーマを取り入れた企画展を実施していく。 ◇DX手法を活用した発信とともに、親子が来たくするようなコンテンツ(ポケモンとのコラボ等)を開発・実施していく。 ◇小学生向け企画展開の小学校単位での見学が減少している要因を把握するため、市内小学校へアンケートを実施する。 【鬼の館】 ◇豊富な資料の収蔵、保存を行うと共に、鬼の館においては、芸能公演や講座を実施し、民俗芸能の保存と次世代への継承を推進する。 ◇常に最新の郷土の歴史・文化の情報を収蔵品管理システムのDX手法も活用して研究・発信し続けることにより、社会教育施設の利活用を通して、郷土の歴史・文化に対する興味関心を深め、シビックプライドの醸成につなげる
					指標以 外の事 実	【博物館】 博物館全体の入館者数は14,224人であり、前年度の12,489人に対して14%増加した。(R5比1,735人増) 【鬼の館】 ・芸能公演や講座を実施し、民俗芸能の保存と次世代への継承を推進できた。 ・30周年事業として、記念シンポジウムや公演を行い鬼の館の魅力を発信できた。		指標以 外の内 容	【鬼の館】 協議会・保存会との打合せを密に行い、観客への分かりやすい解説や講座を行った。また、ホームページ等による広報も行った。	指標以 外の内 容	【博物館】 さくらまつり期間中の入館者が増加した。(R6…4,399人、R5…2,907人、R5比1,492人増) 【鬼の館】 県外の雑誌等への掲載により芸能公演の来館者が増えた。	
5	教育 部		社会教育 施設の来 館者サー ビス向上 令和5年に博物館開館50周年、令和6年度に鬼の館開館30周年を迎えており、各施設が建設から時間が経過し老朽化が進んでいる。改めて、現在の博物館や鬼の館に対するニーズを踏まえた上で、展示に関するコンセプトを整理し、来館者サービスを向上させるような展示内容や設備の更新に取り組む。 また、小中学生、障がい者、外国人来館者向けの解説コンテンツをDX手法も活用して充実すると共に、特別展、企画展、民俗芸能公演の実施など、市民に新たな学びの機会を提供し、博物館・鬼の館の魅力向上を図る。	⑥	指標に 基づく 事実	【博物館】 アンケート回答者の満足度は高い値(93%)を示している。 【鬼の館】 来館者へのアンケート結果のおもしろかったと回答した値は79%と前年より上がっているが、期待値・目標値までには達成できなかった。	B	指標に 関する 内容	【博物館】 ・常設展・企画展ともに最新の調査研究成果を盛り込むようにしている。 ・企画展では様々なテーマを扱い、多様な興味・関心に応えるようにしている。 【鬼の館】 ・30周年記念によるエントランスの展示替えや芸能公演により、アンケート結果は上がったが、常設展示の内容については結果が上がらなかった。	指標に 関する 内容		【博物館】 ◇博物館活動の根幹となる調査研究を継続し、その成果をベースとした魅力発信をしていく。 ◇記念誌をもとに博物館の使命とニーズを踏まえた事業展開をしていく。 ◇収蔵品管理システムを活用した情報発信や多言語対応をしていく。 ◇優先順位をつけて設備の更新をしていく。 【鬼の館】 ◇施設が建設から時間が経過し老朽化が進んでいる。改めて、現在の鬼の館に対するニーズを踏まえた上で、展示に関するコンセプトを整理し、来館者サービスを向上させるような展示内容や設備の更新に取り組む。 ◇小中学生、障がい者、外国人来館者向けの解説コンテンツをDX手法も活用して充実すると共に、特別展、企画展、民俗芸能公演の実施など、市民に新たな学びの機会を提供し、鬼の館の魅力向上を図る。
					指標以 外の事 実	【博物館】 ・50周年記念誌を刊行し、関係機関等に配布した。 ・収蔵品管理システムを導入した。本館の屋根改修工事を実施した。 【鬼の館】 ・企画展・芸能公演を年間通して行った。また、鬼剣舞体験の場を設け、幅広い年齢層に民俗芸能の保存と次世代への継承を推進できた。 ・外国人向けの解説コンテンツとして多言語館内パンフレットを活用し、館の魅力向上を図ることができた。		指標以 外の内 容	【博物館】 収蔵品を適切に管理・活用することが、魅力的な展示に繋がり、適切な施設管理が博物館の魅力向上に繋がっている。 【鬼の館】 芸能保存会との打合せを密に行い、観客への分かりやすい解説や講座を行ったこと、また、ホームページ等による広報が、来館者の増加につながった。	指標以 外の内 容	【博物館】 個人で管理しきれなくなった民具等の寄贈が増加している。博物館法の改正によりデジタルアーカイブ化やその公開が努力義務となっている。施設・設備の老朽化・経年劣化が進んでいる。 【鬼の館】 県外の雑誌等への掲載により芸能公演の来館者が増えた。	

凡例 ●実績値 —期待値

指 標 ①		指標の説明									
市史の刊行(全10冊のうち8冊)		計画(全10冊)に基づく刊行									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
企画部	冊	実績値	0	1	1	3	4	6			
		期待値 ※R7は目標値	0.0	1	3	4	5	7	8.0		
		備 考							累積		
指 標 ②		指標の説明									
出前講座参加者数		出前講座に参加した人数									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
まちづくり部	人	実績値	16,545	7,678	5,154	7,291	10,390	10,821			
		期待値 ※R7は目標値	16,545	16,621	16,697	16,773	16,848	16,924	17,000		
		備 考									
指 標 ③		指標の説明									
市民大学等受講者の理解度(R3年度からアンケート項目に追加)		市民大学等受講者へのアンケート結果で講座内容を理解できたと答えた人の割合									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
まちづくり部	%	実績値	-	-	83.3	84.6	90.9	89.0			
		期待値 ※R7は目標値	-	-	83.3	86.2	89.1	92.1	95.0		
		備 考			項目設定						
指 標 ④		指標の説明									
就学前児童1人当たりの絵本貸出冊数		生涯の読書習慣の基礎となる幼少期から、本に親しむことが重要と捉え、その対象となる絵本の貸出冊数を指標とする									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
教育部	冊	実績値	21.5	20.6	21.2	23.3	24.8	26.1			
		期待値 ※R7は目標値	21.5	22.1	22.7	23.3	23.8	24.4	25.0		
		備 考	89,482冊÷4,177人(R2.3末一歳別統計における6歳未満)						参考数値: 3,390人(R6.3末一歳別統計表6歳未満)		
指 標 ⑤		指標の説明									
社会教育施設(図書館、博物館、鬼の館)の小中学生利用者数		【図書館】 図書館システムより年齢別延べ貸入数を抽出 【博物館】 博物館日計表で集計している年度ごとの小中学生利用者数 【鬼の館】 小学校1年生～中学校3年生までの子どもの入館者数を合計したもの。有料、無料すべて含めた人数									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
教育部	人	実績値	21,691	13,667	15,202	14,444	15,287	15,438			
		期待値 ※R7は目標値	21,691	21,776	21,861	21,946	22,030	22,115	22,200		
		備 考	【内訳】 図書館(貸出者数7-15才) 17,134人 博物館 1,890人 鬼の館 2,267人	【内訳】 図書館(貸出者数7-15才) 10,237人 博物館 1,859人 鬼の館 1,571人	【内訳】 図書館(貸出者数7-15才) 11,238人 博物館 1,912人 鬼の館 2,052人	【内訳】 図書館(貸出者数7-15才) 10,592人 博物館 1,521人 鬼の館 2,331人	【内訳】 図書館(貸出者数7-15才) 10,417人 博物館 1,899人 鬼の館 2,971人	【内訳】 図書館(貸出者数7-15才) 10,828人 博物館 1,290人 鬼の館 3,320人	【内訳】 図書館(貸出者数7-15才) 17,500人 博物館 2,000人 鬼の館 2,700人		
指 標 ⑥		指標の説明									
来館者アンケート満足度(博物館、鬼の館)		博物館】 博物館の来館者に対して実施しているアンケートにおける満足度が高い割合 【鬼の館】 入館者を対象にしたアンケートのうち、「面白かった」と回答した人数の割合									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
教育部	%	実績値	84	90	84.5	82.5	85.5	86			
		期待値 ※R7は目標値	84	84.6	85.2	85.8	86.3	86.9	87.5		
		備 考	【内訳】 博物館 91% 鬼の館 77%	【内訳】 博物館 95% 鬼の館 85%	【内訳】 博物館 96% 鬼の館 73%	【内訳】 博物館 90% 鬼の館 75%	【内訳】 博物館 93% 鬼の館 78%	【内訳】 博物館 93% 鬼の館 79%	【内訳】 博物館 95% 鬼の館 80%		
指 標 ⑦		指標の説明									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備 考									
指 標 ⑧		指標の説明									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備 考									
指 標 ⑨		指標の説明									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備 考									
指 標 ⑩		指標の説明									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備 考									
指 標 ⑪		指標の説明									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備 考									
指 標 ⑫		指標の説明									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備 考									
指 標 ⑬		指標の説明									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備 考									
指 標 ⑭		指標の説明									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備 考									
指 標 ⑮		指標の説明									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備 考									

北上市総合計画 2021～2030 令和7年度基本施策事後評価シート（評価対象期間:令和6年度）

基本方針	3.すべての人が活躍できる環境づくり
基本施策	3-2.文化芸術及びスポーツを核とした地域活性化
関連するプロジェクト	3.地域をつくる文化芸術・スポーツプロジェクト

関係団体と連携を図りながら、すべての市民が文化芸術及びスポーツを身近に感じることができる機会や民俗芸能の保存継承への支援を充実させ、心身ともに健康な生活を営みつつ、積極的な活動を通じて地域の魅力向上につながる取組を推進します。

評価項目	A	順調
	B	概ね順調
	C	やや遅れている
	D	遅れている

総合評価
A

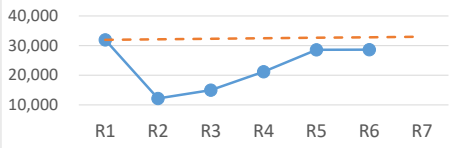
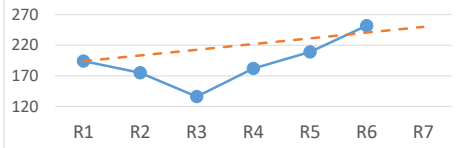
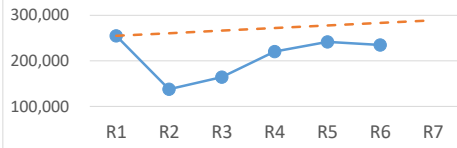
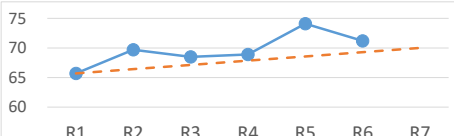
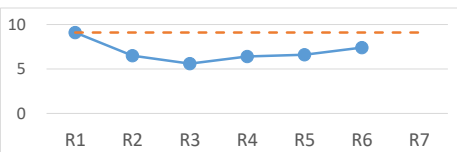
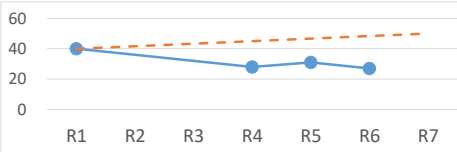
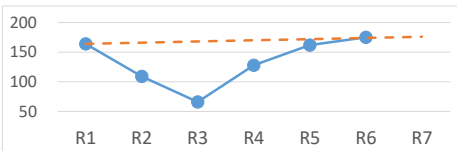
※達成状況評価欄の（ ）内については昨年度の評価結果です。

R6事後
6

No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)	成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象:R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇:R7/◆:R8以降)
								市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
1	まち づく り部	●	文化芸術を活用したまちづくりの推進	文化芸術基本条例及び文化芸術推進基本計画に基づき文化芸術を活かしたまちづくりを推進し、心豊かな市民生活と活力ある地域社会、誰もが郷土に誇りと愛着を感じることのできるまちを目指し、文化芸術施策に関する研修会の開催や、さくらホールや日本現代詩歌文学館の文化芸術活動や、市民芸術祭、利根山光人記念美術館における常設展または企画展、生涯学習センターや地区交流センターを拠点とする文化芸術活動の充実など、市民の芸術活動への継続した支援を行う。	①②③	指標に基づく事実 ①市民芸術祭の参加者数は、コロナ禍前の数字に戻りつつある。ただし、出展者は増えた一方で入場者数は昨年よりも少なくなっている。 ②日本現代詩歌文学館開催の講座等参加者数について、R5年度より大幅に増加し、期待値を上回った。 ③さくらホールの利用者数については、R5年度に20周年イベントを開催したことで増となっていたと推測されるため、減少はしているものの、一定の水準を保っている。	A	指標に関する内容 ①②③各事業ともHPやチラシ、SNS、ポスター等を利用し、市民へ事業内容の周知を図った。 ②日本現代詩歌文学館では「第2回きたかみ・鬼の国俳句フェスティバル」を開催。宮部みゆきや夏井いつきなど有名選者を迎え、入選句の合評やシンポジウムを実施したことにより、多数の来場者があった。 ③既存のイベントに加え、新規開催のものや内容の改善を図った。	指標に関する内容 ①②③新型コロナウイルス感染症の影響が薄れ、イベントに参加しやすい環境になってきている。	◇誰もが心豊かに生活し、文化芸術に親しむ機会を提供するため、特に子どもに対するアプローチに力を入れることとし、次の事業を行う。 ・市内の幼稚園・保育園を対象としたプロの音楽家派遣事業(アウトリーチ)を実施。(7月～翌年2月) ・文学館での「子ども俳句教室」実施(6月・10月)や「俳句まつり」(11月)作品募集を通じ、句作の楽しみを体験、共有する。 ・利根山光人美術館として、企業が開催するイベントに出展し、ワークショップを実施。(8月) ・利根山光人美術館で美術館まつりを開催。(9月) ・昨年度に引き続き、きたかみ子どもフェスタへ出展する。(11月)		
						指標以外の事実 ・民俗芸能推進事業を民俗芸能協会に委託して実施し、発表機会の創出や保存伝承の支援を図った。 ・利根山光人記念美術館における企画展等、市民が様々な場所で文化芸術にふれる機会を創出した。 ・北上市文化芸術推進会議開催し北上市文化芸術基本計画の進行管理を行った。	(A)	指標以外の内容 ・民俗芸能の公演や鑑賞の機会創出のため、委託を通じて民俗芸能団体との出演調整やコーディネートを行った。さらに、初の試み「踊フェス」を通じ、若い世代の担い手同士の交流を行った。 ・利根山光人記念美術館企画展に関連し、若い世代に人気のあるイラストレーターのワークショップを実施した。	指標以外の内容 ・北上市文化芸術推進会議で出た意見を踏まえ、文化芸術のアウトリーチ活動に力を入れた。		◇市民個人、あるいは地域社会での文化芸術活動の成果を広く披露し、文化芸術活動の充実を図るため、今年も市民芸術祭を9月～2月で開催する予定。 ◆R8年度に利根山光人美術館は開館30周年を迎えることから、常設展や企画展を通じて市民へ優れた芸術を公開し、美術や文化芸術に関する教育普及活動に注力するため、記念事業を実施予定。	
2	まち づく り部	●	ライフステージに応じて楽しむ生涯スポーツの推進	スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブ等と連携し、幅広い年齢層を対象としたスポーツ教室等や自然を活かしたウォーキング、サイクリングコースなどスポーツ施設以外でも市民が楽しみながら参加できて、スポーツを日常的に行うことができるような取組、日常生活にスポーツの要素を掛け合わせる取組を推進するとともに、新しいスポーツ等のスポーツ環境の整備、高齢者が生涯スポーツを継続できる取組、スポーツを観戦する機会の提供、スポーツボランティアに関する情報を提供する。	④⑤	指標に基づく事実 ④スポーツ施設の稼働率は微減となったが、期待値はクリアしている。 ⑤市民一人当たりの施設利用回数は前年から増加しているが、期待値より下回っている。	B	指標に関する内容 ④黒岩スポーツ交流館が供用開始となり、施設数が増えたことが、全体の利用者数の増加につながっている。	指標に関する内容 ④コロナ禍が完全に収束し、施設利用者は増加傾向にある。	◇施設予約システムを更新し、学校開放施設も含めてキャッシュレス決済等が可能になり、利便性向上に伴う利用人数の増加が見込まれる。 ◇4月より北上市民武道館が供用開始となり、施設利用者数の増加が見込まれる。 ◇市スポーツ協会と協力して市民が気軽に参加できる事業を実施する。 ◇必要に応じて、サイクルルートの案内表示の維持管理を行う。 ◇新設した高齢者の大会参加を促進する補助金を活用してもらうため、周知等を行う。		
						指標以外の事実 ・市民がスポーツをする機会を提供するため、スポーツ協会を通じて、スポーツ教室等市民を対象とした事業を実施している。 ・サイクリングルートの道路標識の修繕を行い利便性を向上させた。 ・高齢者の健康寿命の延伸と生涯スポーツの継続を目的に補助金制度を制定した。	(B)	指標以外の内容	指標以外の内容 ・市の補助金を活用してスポーツ協会が主体的に事業を実施している。特に北上市民スポーツ大会は、地域づくり組織の協力もあり、地域住民の参加が促進されている。 ・サイクリングルートについて、冬季間の除雪等で既存の道路標示が剥がれる等で適切な案内が不十分であった。 ・高齢者が参加する大会の移動費を支援してほしいというニーズがあり、今後の活用が期待される。			
3	まち づく り部		競技スポーツの推進	トップアスリート、優れた指導者の育成のため、有力チームの合宿誘致やプロスポーツの試合開催を通じて、良質なプレーに触れる機会を提供するとともに、スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブ等の指導者育成支援を通じ、市全域の競技力向上に繋げる。	⑥	指標に基づく事実 R6年度の国民スポーツ大会への参加者数は27名であった。コロナ以降のR3～R5の直近3回については、30名前後の参加者数となっている。 R4年度は9種目28名中ラグビー20名 R5年度は8種目31名中軟式野球16名 R6年度は12種目27名中団体競技なし 出場競技によって参加者数が増減しており、競技力が低下しているわけではない。	B	指標に関する内容	指標に関する内容	◇市スポーツ協会と協力して選手強化事業を継続して実施する。 ◇トップアスリートに触れる機会を創出するため、大会の誘致やプロチームの公式戦に係る協力をする。 ◆スポーツ医科学・データ解析に基づいた指導等の時代に合った最先端の知識や指導が必要になってくる。またスポーツ・インテグリティ(高潔性・健全性)の確保等も求められているため、スポーツ推進計画等に盛り込む。		
						指標以外の事実 良質なプレーに触れる機会を提供し、また市全域の競技力向上に繋げた。 ・Jリーグ、Wリーグの公式戦 ・スポーツ協会により選手強化事業の実施 ・各種大会参加事業費補助金 交付件数:59件(前年比▲9件) ・ネーミングライツ料を活用して総合体育館のトレーニングマシンを更新した。	(B)	指標以外の内容 ・市の補助事業として、スポーツ協会を通じて各競技団体の育成・強化事業を実施している。 ・各種大会参加事業費補助金(東北大会)の補助金の件数が、例年60件前後で推移しており、高い競技レベルに触れる機会へ支援することで競技力向上を後押ししている。	指標以外の内容 ・高規格の施設を維持することで、東北大会以上の大会やプロスポーツチームの公式戦誘致につながり、高い競技レベルを観戦する機会の提供につながっている。			

No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)		成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象：R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇:R7/◆:R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
4	まち づく り部	●	スポーツ を通じた まちづく りの推進	人口減少時代への社会変化に伴い、 数を追うのではなく、何度も足を運ん でくれるファン層を獲得する必要がある。 各地に点在する地域資源に磨きを かけ、シビックプライドを醸成すると ともに、ターゲットを定めたプロモー ションを行い、年に複数回来訪してく れるファン層の獲得を推進する。	未設定	指標に基 づく事 実		B	指標に 関する 内 容		指標に 関する 内 容	◇より魅力あるイベントとするために目標数を増やし、ファンランの新 設や地元特産品を意識したエイドステーションの充実等を図る。 ◆R6年度に引き続き、ファン層を獲得するため「走る楽しさ」や「ス ポーツに関心をもってもらう」な魅力的なイベントを目指す。	
						指標以 外の事 実	展勝地公園や中心市街地をコースとしたランフェ スきたかみを継続開催し、スポーツを通じて魅力 を発信することで当該イベントを契機としてファン となり来訪してもらうような取組を行った。		指標以 外の 内 容	初年から一貫して走ることの楽しさをコンセ プトとして周知したことと、市民に対し「ラン フェスきたかみ」というイベントが浸透してき たことが参加申込者数の増加に繋がったと分 析している。	指標以 外の 内 容		コロナ禍が収束し、近隣自治体でもマラソン大 会が再開されている。
5	教育 部	●	文化財の 保護・保 存	指定文化財については、市が所有す る文化財や史跡等については適切な管 理に努め、個人所有の文化財は機会を 設け保存管理の助言指導を行う。ま た、史跡等の価値を理解し、保護意識 を持つため、文化財説明板の整備を推 進する。 史跡の保存管理には地元自治会等と の協働による取組を推進する。 国指定重要文化財多聞院伊澤家住宅 については、保存修理等を行っていく。	⑦	指標に基 づく事 実	・新たに上須々孫館経塚を市指定史跡に指定し た。これにより、国・県・市指定文化財は169件と なり、期待値・目標値とも上回っている。	A	指標に 関する 内 容	継続的な文化財調査により、文化財の価値を 明らかにし、文化財保護審議会での審議・答申 につなげている。	指標に 関する 内 容	◇公共サインガイドラインに基づく定期点検等により継続的に、老朽 化した文化財説明板の修繕・更新を行っていく。 ◇継続して草刈を実施し、史跡を適切に保存管理していく。 ◆史跡の適切な管理のために、支障木伐採や間伐・枝打ちを拡充す る。	
						指標以 外の事 実	・文化財説明板1基を新設した。また、誘導サイン1 基を修繕した。 ・史跡の草刈を10史跡12か所で実施した。 ・史跡の支障木伐採を1か所で、間伐枝打ちを1か 所で行った。		指標以 外の 内 容	・文化財説明板の整備は、既設説明板の状況 把握を行い、順位を決めて計画的に整備を進 めた。 ・史跡の草刈は、地元自治会等への業務委託 により実施し、文化財愛護の意識涵養に役立 てた。	指標以 外の 内 容		・支障木伐採や間伐・枝打ちに関しては、予算を 上回る要望や管理不十分の指摘を受けてい る。 ・老朽化による説明板の破損・劣化に伴い、既 設物の更新が必要な事例が増加している。
6	教育 部	●	民俗芸能 の育成と 伝承	民俗芸能については、民俗芸能団体 への芸能用具整備費用の助成を継続 すると共に、公演の機会を拡充するこ とにより民俗芸能団体の活動を支援す る。 また、関係団体と連携しながら、後継 者不足の解消につながる取組を強化す る。	⑧	指標に基 づく事 実	市が主催する事業に175団体の出演があり、R5 より13団体増加した。	A	指標に 関する 内 容	民俗芸能記録調査会(公開収録)、定住自立圏 構成自治体間の芸能団体相互派遣等により、 芸能団体の公演機会の創出を図った。	指標に 関する 内 容	定住自立圏構成自治体間の芸能団体相互派遣 事業により、継続した公演機会が確保できてい る。	◇継続して公演機会の創出を図る。 ◇継続して芸能用具整備補助等により、民俗芸能団体の継承活動を 支援していく。 ◇フィルムライブラリーにより幅広い世代に情報発信し、興味を持た せる。
						指標以 外の事 実	市の補助金2件のほか民間の助成金等も含めて、 希望する団体の事業実施を支援した。		指標以 外の 内 容	各種補助金助成金の情報を広報・HPを通じて 関係団体等に周知した。	指標以 外の 内 容	コロナ禍・高齢化で活動を縮小・休止していた 団体が、活動を再開するようになった。	

凡例 ●実績値 —期待値

指 標 ①		指標の説明								指 標 ②		指標の説明								指 標 ③		指標の説明											
市民芸術祭の参加者数(出演者、出品者、入場者数)		市民芸術祭に出演及び出品した参加人数と入場者数(文化芸術活動は表現することだけではなく鑑賞することも必要であるため。)									日本現代詩歌文学館開催の講座等の参加者数		日本現代詩歌文学館開催の講座等の参加者数									さくらホールの利用者数		さくらホールのホール及びファクトリーの利用者数									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7				
まちづくり部	人	実績値	31,950	12,176	14,994	21,192	28,605	28,620		まちづくり部	人	実績値	194	175	136	182	209	252		まちづくり部	%	実績値	255,083	137,732	164,443	220,578	241,747	234,987					
		期待値 ※R7は目標値	31,950	32,125	32,300	32,475	32,650	32,825	33,000				期待値 ※R7は目標値	194	203	213	222	231	241			250		期待値 ※R7は目標値	255,083	260,736	266,389	272,042	277,694	283,347	289,000		
		備 考											備 考											備 考									
指 標 ④		指標の説明								指 標 ⑤		指標の説明								指 標 ⑥		指標の説明											
体育施設の稼働率		体育施設の稼働日数／体育施設の営業日									体育施設・学校開放利用回数(市民一人当たり)		体育施設・学校開放利用者数／北上市人口								国スポ出場者数		国民スポーツ大会への参加者数										
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7				
まちづくり部	%	実績値	65.7	69.7	68.5	68.9	74.1	71.2		まちづくり部	回	実績値	9.1	6.5	5.6	6.4	6.6	7.4		まちづくり部	人	実績値	40			28	31	27					
		期待値 ※R7は目標値	65.7	66.4	67.1	67.9	68.6	69.3	70				期待値 ※R7は目標値	9.1	9.1	9.1	9.1	9.1	9.1				期待値 ※R7は目標値	40	41.7	43.3	45.0	46.7	48.3	50			
		備 考											備 考											備 考		中止	中止						
指 標 ⑦		指標の説明								指 標 ⑧		指標の説明								指 標 ⑨		指標の説明											
指定文化財件数		国・県・市指定文化財の件数									市主催民俗芸能公演出演団体数		市が主催する民俗芸能公演事業等の出演団体数																				
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7				
教育部	件	実績値	166	166	168	168	168	169		教育部	団体	実績値	164	109	66	128	162	175				実績値											
		期待値 ※R7は目標値	166.0	166	167	167	167	168	168				期待値 ※R7は目標値	164	166	168	170	172	174			176		期待値 ※R7は目標値									
		備 考											備 考											備 考									
指 標 ⑩		指標の説明								指 標 ⑪		指標の説明								指 標 ⑫		指標の説明											
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7				
		実績値										実績値										実績値											
		期待値 ※R7は目標値											期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										
		備 考											備 考											備 考									
指 標 ⑬		指標の説明								指 標 ⑭		指標の説明								指 標 ⑮		指標の説明											
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7				
		実績値										実績値										実績値											
		期待値 ※R7は目標値											期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										
		備 考											備 考											備 考									

北上市総合計画 2021～2030 令和7年度基本施策事後評価シート（評価対象期間:令和6年度）

基本方針	4.力強い地域経済の創出
基本施策	4-1.産業の連携による相乗効果の創出
関連するプロジェクト	4.イノベーションチャレンジプロジェクト

既存の枠を超えた新しい地域産業を創発するため、地域資源を活かし、産学共同と産業間連携の強化、最新技術の社会実装に取り組むことにより、新事業の創出や販路拡大を支援します。

評価項目	A	順調
	B	概ね順調
	C	やや遅れている
	D	遅れている

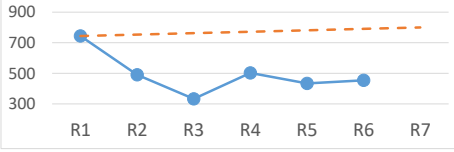
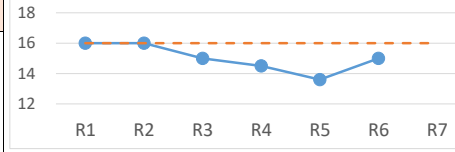


総合評価
A

※達成状況評価欄の（ ）内については昨年度の評価結果です。

R6事後
7

No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)		成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象:R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇:R7/◆:R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
1	商工 部	●	農商工連 携による 地域産業 の振興	産業ビジョンに基づき、農商工連携を支援する仕組みを構築するほか、産業支援センターと農業支援センターにおける相談案件の共有を図り、地域資源を活用した物産開発に向けたセミナー開催や、農業者と商工業者双方のニーズがマッチする機会を設定するなど、継続して支援していく。	未設定	指標に基づく事実	(A)	指標に関する内容		指標に関する内容		◇農林部、商工部のほか、産業支援センター、農業支援センターによる情報交換を引き続き行う。 ◇産業支援センターと合同会議を行い、利用者のニーズを把握し、市の施策に反映する。 ◇企業支援、創業支援、新事業等に加え、国の施策等を反映したテーマを取り扱い、産業支援センターの利用者増加を図る。	
						指標以外の事実		・毎週、農林部、商工部のほか、産業支援センター、農業支援センターを交えた情報交換を行い、情報の共有を図っている。 ・市内中心部で毎月開催される朝市を支援し、新たな農業者と商工業者の連携が図られている。	指標以外の内容	農業、産業の各支援センターが窓口となり、相談対応を行ったほか、相談内容に応じて各関係機関へ繋ぐなど、状況に応じた支援を実施している。	指標以外の内容		・市内企業が、市内農産物を使用した商品展開を行っている事例がある。 ・市内中心部で開催の「きたかみ朝市」では、朝採農産物の販売も行うなど、農業と商業の連携の取組が進められているなど、順調に推移している。
2	商工 部	●	新技術の開 発・育 成や事業 化	新事業創出支援事業補助金や支援機関の連携により、産学及び事業者間の共同開発のマッチング機能の強化することで、新商品、新技術等の開発を促すほか、ふるさと納税を活用した販路開拓、商品PRの強化を図っていく。	①② ③④	指標に基づく事実	(B)	指標に関する内容	①市HP等による事業周知や、産業支援センターを通した丁寧な事業説明により、申請数が増加(2件→6件)した。 ②測定機利用に係る相談件数が多く、前年度を上回ったものの、過去数年、同様の推移を保っている。 ③新商品の拡充等により寄付額が増加。新事業補助金でR6採択の事業者についてもR7に返礼品事業者となった。商品PRについては新規の再委託先とも連携し強化を図った。	指標に関する内容	③全国的な米不足の影響から、ふるさと納税市場における米需要も過熱。結果として当市の寄付金額を増やせることにもつながった。	◇創業支援塾のカリキュラムを充実させるほか、受講者に新事業創出支援事業費補助金の周知を行い、ニーズのマッチングを図る。 ◇新事業創出補助金の応募要項を見直す。 ◇産業支援センター独自の企業訪問を積極的に行う。 ◇地場産品のPRを強化のため、ふるさと納税ポータルサイトへの登録品数の増加する他、市内事業者支援を拡充する。	
						指標以外の事実		新事業関係の補助金については通年で相談があり、市内における新事業実施の意欲は常時ある状況。また、産業支援センターでは、創業を検討する市民に対しそのハウツーを指南する創業支援塾も開催しており、その受講者からも新事業補助金への申請も受けている等、事業検討から実施のインシャルコストまで一連の支援としての体裁を持っている。 また、農林業と企業との多様な交流を目的とした農楽工業クラブに補助金を交付し、農工連携に資する取組を支援した(農楽工業クラブからは5件の取組に補助金を支出)	指標以外の内容	産業支援センターアドバイザーによる新事業補助金採択事業者への不定期訪問コンタクトを続けており、各種の相談をうけているほか、ふるさと納税への出品の調整も実施。R6年採択事業者のうち2件は成果物をふるさと納税にも出品。 ふるさと納税の返礼品を掲載するポータルサイトを増やし(2→5)寄附者の目に触れる機会を多く作った。	指標以外の内容		ふるさと納税の認知度の高まり、物価高騰の影響もあり、日用品(ティッシュなどの紙製品)を返礼品として選択する傾向が高まり、結果として寄附額増に繋がった。

凡例 ●実績値 —期待値

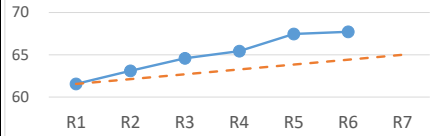
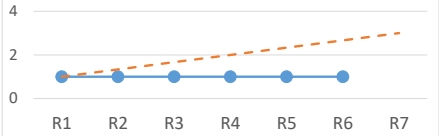
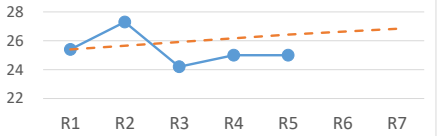
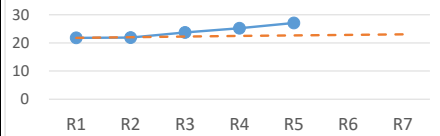
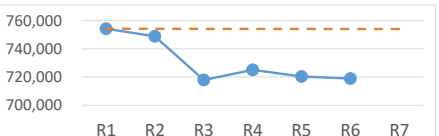
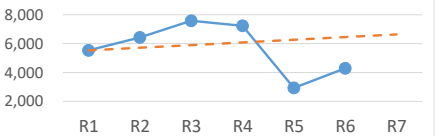
指 標 ①		指標の説明								指 標 ②		指標の説明								指 標 ③		指標の説明							
新事業創出支援事業費補助金を活用した新規事業等創出件数		各年4月から3月までの補助金活用者数								産業支援センター相談件数		北上市産業支援センターを訪れて相談した事業者の件数及び企業訪問の件数								ふるさと北上応援寄附額		各年4月から3月までのふるさと北上応援寄附金額							
																													
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
商工部	件	実績値	3	3	3	3	1	3		商工部	件	実績値	744	490	333	503	434	454		商工部	億円	実績値	16.0	16.0	15.0	14.5	13.6	15	
		期待値 ※R7は目標値	3	3	3	3	3	3	3			期待値 ※R7は目標値	744	753	763	772	781	791	800			期待値 ※R7は目標値	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0
		備 考										備 考										備 考							
指 標 ④		指標の説明								指 標 ⑤		指標の説明								指 標 ⑥		指標の説明							
ものづくり企業チャレンジ支援事業補助金を活用した新技術・新製品開発件数		ものづくり企業チャレンジ支援事業補助金を活用した新技術や新製品開発件数																											
																													
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
商工部	件	実績値	-	1	1	2	1	1				実績値										実績値							
		期待値 ※R7は目標値	-	1	1	1	2	2	2			期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値							
		備 考										備 考										備 考							
指 標 ⑦		指標の説明								指 標 ⑧		指標の説明								指 標 ⑨		指標の説明							
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
		実績値										実績値										実績値							
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値							
		備 考										備 考										備 考							
指 標 ⑩		指標の説明								指 標 ⑪		指標の説明								指 標 ⑫		指標の説明							
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
		実績値										実績値										実績値							
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値							
		備 考										備 考										備 考							
指 標 ⑬		指標の説明								指 標 ⑭		指標の説明								指 標 ⑮		指標の説明							
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
		実績値										実績値										実績値							
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値							
		備 考										備 考										備 考							

北上市総合計画 2021～2030 令和7年度基本施策事後評価シート（評価対象期間：令和6年度）

基本方針	4.力強い地域経済の創出	農産物の付加価値を上げ、競争力を強化するため、農地の集積・集約化のほか、スマート農業の導入など技術革新により農業者の生産性・収益性の向上を支援します。また、新規林業従事者及び次世代の後継者の育成に取り組みます。さらに、農畜産物の販路拡大、農商工連携など農業所得の向上に取り組みます。	評価項目	B	概ね順調	B	※達成状況評価欄の（ ）内については昨年度の評価結果です。	8
基本施策	4-2.農林業の競争力強化			C	やや遅れている			
関連するプロジェクト	4.イノベーションチャレンジプロジェクト			D	遅れている			

No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)		成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象:R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇:R7/◆:R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
4	農林部		農業の多面的機能の維持	多面的機能支払交付金制度及び中山間地域等直接支払交付金制度を推進することにより、水路や農道等の維持や機能向上、補修や改良などの地域共同活動を支援し、地域全体の農地等の適切な維持管理を促し、農業が有する多面的機能の維持を実現する。	⑤	指標に基づく事実	・多面的機能を維持するためには、多面的・中山間の取組面積を維持する必要があるが、R6年度は718,882aであり、前年比0.02%減となった。また、期待値からもやや下回っている。	B	指標に関する内容	・多面的機能支払い交付金を継続して活用できるよう、R5年度をもって事業計画が終了となった組織(32組織)全てをR6年度に再認定した。 ・交付金制度の申請手続きは複雑で、特に高齢化が進む地域では対応が難しくなる場合があるが、地域に寄り添ったサポートを行い、申請を希望する地域は全て再認定となった。	指標に関する内容	・農地の宅地化や耕作放棄地の増加により、制度の対象外となる面積が増えている。 ・担い手の高齢化に伴い、作業時の身体的負担が増加し、事故防止や安全管理へ配慮しながらの活動となっている。	◇多面的機能支払交付金制度及び中山間地域等直接支払交付金制度を通じて、地域全体の農地等の適切な維持管理及び農業が有する多面的な機能が維持されるよう、交付金申請のサポートを継続する。
						指標以外の事実		(B)	指標以外の内容		指標以外の内容		
5	農林部	●	森林整備と森林資源活用の促進	森林経営管理事業を推進することにより森林の施業集約化を促し、意欲と能力ある林業経営体の支援を通じて木材産業実需者への安定的な木材供給と市内森林の整備を実現する。	⑥	指標に基づく事実	・私有林からの素材生産量(生産された木材を出荷した量)は4,296㎡であり期待値の66.5%だったが、前年より1,363㎡増加した。	B	指標に関する内容	木材流通促進事業補助金で、私有林からの素材生産量の増加を支援した(私有林の素材生産量4,296㎡のうち、2,987.5㎡(補助件数30件))	指標に関する内容	・素材需要量は、全国的にR3年度以降減少傾向にある。 ・全国においては、素材供給量のうち国産材はR5より2.7%減少している。 ・当市においては、木材の主要受入先の事情によりR5に大きく減少したが、その後は回復傾向である。	◇「北上市森林経営管理促進の取組方針」に基づき、森林経営管理事業を推進していく。 ◇地域での林業に関する座談会や個別相談会を開催するほか、順次、森林所有者の経営管理の現状についての意向調査を行う。 ◇新たに「森林整備支援補助金」及び「北上市作業道等保全支援事業補助金」を実施し、森林所有者の負担軽減に向けた取組を進める。
						指標以外の事実	・森林所有者の持続的な森林経営を促進し、適切な森林整備の推進を図るため「北上市森林経営管理促進の取組方針」(R7.4施行)を策定した。 ・森林の施業集約化を促すため、R6年度に新たに1地区を対象とした森林経営計画の作成を支援した。 ・木材供給による地域経済への貢献と森林の健全な成長促進のため、市有林において、間伐等を実施した。	(B)	指標以外の内容	・地域から要望のあった集約化対象森林において、施業方針案を地域と打合せ、対象森林所有者に説明会を開催するとともに、意向調査を行ったことが森林計画書の新規作成に繋がった。	指標以外の内容	・国産材よりも安価な輸入材が市場に多く流通しており、国産材の価格競争力が低下している。 ・意欲と能力のある森林経営体数は、R6に4者となり、前年より1者増加した。	
6	農林部		兼業農家等が農業を継続するための支援	認定農業者や中心経営体といった担い手だけではなく、兼業農家も含めて地域農業を支える必要があることから、農業を継続する兼業農家等への支援を行う。	未設定	指標に基づく事実		A	指標に関する内容		指標に関する内容		◇国、県をはじめ市の各種補助金(重点振興作物強化事業、園芸産地拡大支援事業、先端技術機器等導入支援事業等)の活用を促し、兼業農家が農業経営を継続していくための支援を継続する。
						指標以外の事実	・機械の共同購入費補助(2件)及び先進技術を応用した機械等の導入補助(5件)を行い、兼業農家が農業を継続していくための支援をした。 ・共同購入(R3年度3件、R4年度1件、R5年度4件、R6年度2件) ・先端技術(R3年度8件、R4年度8件、R5年度15件、R6年度5件)	(A)	指標以外の内容	・R3年度から生産効率の向上やコスト低減を図るための機器導入経費を支援している。 ・農業者や関係機関が集まる場において積極的に事業周知を行った。	指標以外の内容	・市内でもスマート農機への関心が高まり、導入する経営体が増えた。 ・R3年度から継続して機器導入経費の支援を継続していることで、制度の認知度が高まった。	

凡例 ●実績値 — 期待値

指 標 ①		指標の説明								指 標 ②		指標の説明								指 標 ③		指標の説明							
農業の中心経営体 への農地集積率		中心経営体(地域における農業において 中心的な役割を果たすことが見込まれる 農業者)へ集積された農地面積の割 合								基盤整備(圃場整備)事 業準備団体数(累計)		県営調査地区採択前のほ場整備事 業促進協議会等、地域で組織され た団体数。								野菜(いも類、果樹等含 む)の販売額		東北農政局で公表している市町村 別の推計 ※1年遅れで公表される							
																													
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
農林部	%	実績値	61.55	63.1	64.58	65.43	67.46	67.72		農林部	団体	実績値	1	1	1	1	1	1		農林部	億円	実績値	25.40	27.30	24.20	25.00	25.00		
		期待値 ※R7は目標値	61.55	62.13	62.70	63.28	63.85	64.43	65.00			期待値 ※R7は目標値	1	1	2	2	2	3	3			期待値 ※R7は目標値	25.40	25.66	25.92	26.17	26.43	26.63	26.83
		備 考										備 考										備 考						未公表	
指 標 ④		指標の説明								指 標 ⑤		指標の説明								指 標 ⑥		指標の説明							
畜産物の販売額		東北農政局で公表している市町村 別の推計 ※1年遅れで公表される								多面的・中山間の取 組み面積		多面的機能支払交付金及び中山間 地域等直接支払制度の交付対象と した面積。								私有林からの素材生 産量		私有林から生産された木材を出荷 した材積の集計。							
																													
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
農林部	億円	実績値	21.80	21.90	23.70	25.20	27.10			農林部	a	実績値	754,249	748,874	717,881	725,067	720,398	718,882		農林部	㎡	実績値	5,533	6,433	7,586	7,236	2,933	4,296	
		期待値 ※R7は目標値	21.80	22.02	22.25	22.47	22.69	22.87	23.05			期待値 ※R7は目標値	754,249	754,222	754,194	754,167	754,139	754,112	754,084			期待値 ※R7は目標値	5,533	5,718	5,902	6,087	6,271	6,456	6,640
		備 考						未公表				備 考			4組織が減							備 考				受入困難			
指 標 ⑦		指標の説明								指 標 ⑧		指標の説明								指 標 ⑨		指標の説明							
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
		実績値										実績値										実績値							
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値							
		備 考										備 考										備 考							
指 標 ⑩		指標の説明								指 標 ⑪		指標の説明								指 標 ⑫		指標の説明							
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
		実績値										実績値										実績値							
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値							
		備 考										備 考										備 考							
指 標 ⑬		指標の説明								指 標 ⑭		指標の説明								指 標 ⑮		指標の説明							
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
		実績値										実績値										実績値							
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値							
		備 考										備 考										備 考							

北上市総合計画 2021～2030 令和7年度基本施策事後評価シート（評価対象期間:令和6年度）

基本方針	4.力強い地域経済の創出
基本施策	4-3.時代の変化に対応した工業の振興
関連するプロジェクト	4.イノベーションチャレンジプロジェクト

工業のさらなる成長と時代を先取りする挑戦を支援するため、研究開発型(マザー型)企業誘致に加えて、新技術や新製品の研究開発、国内外への販路拡大等に関する支援を行うとともに、中小企業の生産性向上を支援します。

評価項目	A	順調
	B	概ね順調
	C	やや遅れている
	D	遅れている

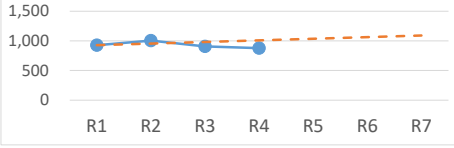
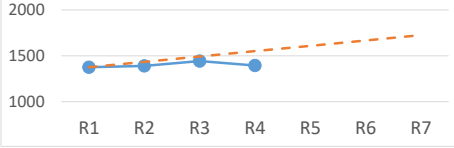
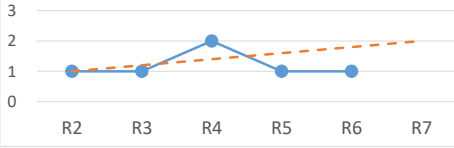
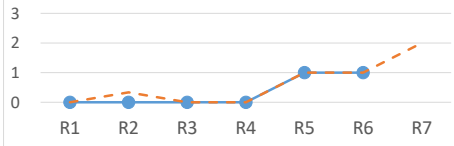
総合評価
A

R6事後
9

※達成状況評価欄の（ ）内については昨年度の評価結果です。

No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)	成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象:R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析			今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇:R7/◆:R8以降)
								市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)	
1	商工部	●	研究開発型(マザー型)を中心とする企業誘致の推進	立地動向・ニーズに応じた優遇策の実施とともに、新たにマザー機能を有する企業誘致に向けた優遇施策を検討・実施する。	①②	※①②の実績値は未公表	B	指標に関する内容		指標に関する内容	◇いわて半導体関連人材育成施設の活用を促進し、研究開発機能を有する有する企業の投資を促す。 ◇工業団地周辺の交通対策、通信環境の向上などのインフラ整備を通じ、研究開発機能を有する企業の企業活動を支援する。
						・誘致企業数は累計で244件となった。 ・R6年度の工業団地分譲は2件で、市内移転1件、増設1件によるもの。	(B)	指標以外の内容	企業誘致説明会や企業訪問を積極的に行った。	北部産業業務団地にいわて半導体関連人材育成施設が完成した。 半導体製造企業の2棟目の製造棟及び、事務棟が完成した。	
2	商工部	●	デジタル技術をはじめとした、テクノロジーの進化を活用した競争力の強化	デジタル技術等、テクノロジーの進化を活用し、生産性の向上・競争力強化に取り組む企業に向けた支援策を検討・実施する。	①②③	③ものづくり企業チャレンジ支援事業補助金活用による新技術・新製品開発件数は1件である。 ※①②の実績値は未公表	B	指標に関する内容	大学との共同研究のみでなく、企業間の連携による新事業や新製品の創出を促進するため、R4年度年度からものづくり企業チャレンジ支援事業補助金に改めたほか、産業支援センターも補助決定者へアドバイスをを行うなどのフォローアップ支援を行っている。	ものづくり企業チャレンジ支援事業補助金については、実績値は期待値を下回ったものの、申請件数は前年並みに推移しているなど、概ね順調に推移している。	◇市内企業の事業規模維持及び発展を支援するため、販路開拓や研究開発等の付加価値向上に資する取組や、設備投資等の省力化に向けた取組に対して補助を行い、企業の生産性向上を図る。 ◇北上コンピュータ・アカデミー及び北上職業訓練校の活動を引き続き支援していく。 ◇産業支援センターにおいて、デジタルスキルの向上や生成AIの活用といった生産性向上に関するセミナー等を実施し、人材育成及びDXの推進を図る。
						北上職業訓練校がいわてデジタルエンジニア育成センターと連携して実施する3次元ものづくり人材育成事業に対して補助金を支出するとともに、運営協議会に参画し、人材育成等の支援を行った。	(B)	指標以外の内容	ワンストップ窓口の機能を有する産業支援センターにおいて、デジタル技術等に関する相談内容については、いわてデジタルエンジニア育成センターへ繋ぐ等、連携を図りながら各企業への対応を行っている。	・生成AIの活用が広がり業務の効率化が進む等、社会環境が大きく変化している。 ・デジタル化が進展し、Iotの活用等のDX(デジタルトランスインフォメーション)の実現に向けた取組が進んでいる。	
3	商工部	●	工業団地の新規・拡張整備	新規立地企業や地場企業の設備投資需要に応じ、力強い地域経済の創出に資するため、新たな工業団地の整備及び既存工業団地の拡張整備を行っていく。	④	北部産業業務団地1工区の分譲を開始した。 北部産業業務団地2工区の造成工事を進めた。 北上工業団地拡張造成工事を進めた。	A	指標に関する内容	・北部産業業務団地は、埋蔵文化財調査が1年前倒しで完了したことにより、造成工事も前倒しで進めることができる見込みとなった。 ・北上工業団地拡張も順調に進んでいる。		◇北部産業業務団地は2工区分譲開始、3・4工区造成工事を進める。 ◇北上工業団地拡張は造成工事を完了する。 ◆新規工業団地への企業誘致活動を本格化する。
							(B)	指標以外の内容		北部産業業務団地にいわて半導体関連人材育成施設が完成した。	

凡例 ●実績値 —期待値

指 標 ①		指標の説明								指 標 ②		指標の説明								指 標 ③		指標の説明							
労働生産性(工業統計 粗付加価値額／従業員数)		労働者一人当たりが生み出す利益。効率化の程度を示す指標。 ※1年遅れで公表								粗付加価値額(工業統計)		企業が一定期間に生み出した利益。経営向上の程度を示す指標。 ※1年遅れで公表								ものづくり企業チャレンジ支援事業補助金活用による新技術・新製品開発件数		ものづくり企業チャレンジ支援事業補助金を活用した新技術や新製品開発件数 ※基本施策4-1指標④に同じ							
																													
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
商工部	万円	実績値	928.0	1,005	907.5	878				商工部	億円	実績値	1,376	1,390	1,443	1,395				商工部	件	実績値	-	1	1	2	1	1	
		期待値 ※R7は目標値	928	955	982	1,010	1,037	1,064	1,091			期待値 ※R7は目標値	1,376	1,434	1,493	1,551	1,609	1,668	1,726			期待値 ※R7は目標値	-	1	1	1	2	2	2
		備 考					未公表					備 考					未公表					備 考							
指 標 ④		指標の説明								指 標 ⑤		指標の説明								指 標 ⑥		指標の説明							
新規・拡張整備する工業団地数		新規整備工業団地のうち、分譲開始している工業団地数。																											
																													
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
商工部		実績値	0	0	0	0	1	1				実績値										実績値							
		期待値 ※R7は目標値	0	0	0	0	1	1	2			期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値							
		備 考										備 考										備 考							
指 標 ⑦		指標の説明								指 標 ⑧		指標の説明								指 標 ⑨		指標の説明							
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
		実績値										実績値										実績値							
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値							
		備 考										備 考										備 考							
指 標 ⑩		指標の説明								指 標 ⑪		指標の説明								指 標 ⑫		指標の説明							
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
		実績値										実績値										実績値							
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値							
		備 考										備 考										備 考							
指 標 ⑬		指標の説明								指 標 ⑭		指標の説明								指 標 ⑮		指標の説明							
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
		実績値										実績値										実績値							
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値							
		備 考										備 考										備 考							

北上市総合計画 2021～2030 令和7年度基本施策事後評価シート（評価対象期間:令和6年度）

基本方針	4.力強い地域経済の創出
基本施策	4-4.地域資源を活かした商業・観光の振興
関連するプロジェクト	4.イノベーションチャレンジプロジェクト

中心市街地・商店街の活性化を図るため、地域資源を活かした新商品・新サービスの開発や販路開拓の取組を支援するとともに、多様な主体との協働により、賑わいの創出に取り組みます。多様化する観光ニーズを的確に捉え、展勝地や夏油高原といった本市が誇る地域資源を最大限に活かした新たな観光コンテンツの創造を支援するとともに、国内外へ向けた魅力ある情報発信と観光振興体制の強化に取り組みます。

評価項目	A	順調
	B	概ね順調
	C	やや遅れている
	D	遅れている

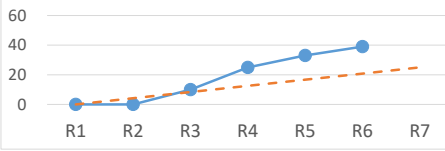
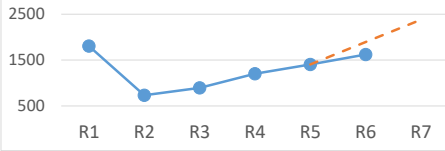
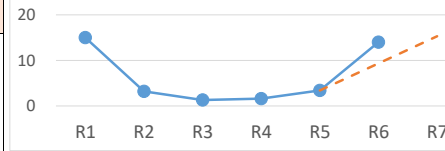
総合評価
C

※達成状況評価欄の（ ）内については昨年度の評価結果です。

R6事後
10

No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)		成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象:R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇:R7/◆:R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
1	商工 部	●	中心市街地・商店街の賑わいづくり	新規創業・第二創業の支援を今後広域的に展開し、創業者や後継者を創出するとともに、空き店舗化の防止及び空き店舗の利活用等により、中心市街地の有効活用を図る取り組みを推進する。	①	指標に基づく事実	商業地域において認定創業支援事業の支援を受けた事業者の開業が相次いでおり、目標が達成されている。	C	指標に関する内容	創業支援塾の卒業生及び創業資金の活用者において創業が多数されており、創業支援事業が奏功している。(商業地域以外においても、認定創業支援事業の支援を受けた創業が50件程度発生した。)	指標に関する内容	コロナ収束に伴い飲食店や対面型サービスの企業が増加している。	◇幅広い業種への創業支援サポートを産業支援センターと連携して実施していく。 ◇ツインモールプラザについて、運営主体・運営手法を抜本的に刷新するとともに、市場の需要に即したテナントミックスへ機能再編を進めていく。
						指標以外の事実	・中心市街地を会場としたイベント開催により、賑わいの創出がなされている。 ・コロナ禍及び物価高騰等の影響により経営が悪化していたツインモールプラザにおいて、更に核テナントの喪失等、事業継続が困難となる要因が発生した。		(A)	指標以外の内容	「きたかみ朝市」「ランフェスキたかみ フェスの部」といったイベント開催により、中心市街地の活性化が図られている。	指標以外の内容	
2	商工 部	●	多様化する観光ニーズへの対応	行政、関係団体、事業者等の役割を整理し、有識者の助言・指導も受けながら、今ある観光スポットを利用した誘客方法の工夫や、新たな観光テーマ、話題づくりの方法を研究・共有・実践していく体制を整備する。	②③	指標に基づく事実	・年間観光客数については、コロナ禍以前の水準は下回っているものの、回復傾向が継続し、特に北上展勝地さくらまつりでは天候にも恵まれ、前年の2倍を上回る入込があった。 ・産業観光客数については、見学の受入を再開する工場が増加し、前年の4倍強の入込となった。	B	指標に関する内容	・前年同様にイベント開催や誘客促進の事業を実施することができ、年間観光客数の増加につながった。 ・暖冬の影響を考慮し、歴代で最も早い4月4日から展勝地さくらまつりを開催し、受入体制を整えた。 ・芸能まつり最終日の花火では、安全上の理由から堤防上での観覧を禁止としたほか、入込数の算出方法を変更したことにより、主催者発表の入込数は減少している。	指標に関する内容	・夏油高原スキー場の2023-2024シーズンは、県内で最も早くオープンできたほか、年末年始の営業も好調に推移し、現在の事業者による運営が開始したH25年度以降、最多の入込を記録した。 ・大規模に工場見学の受入を実施している事業者の受入再開により、産業観光客数は大幅に回復した。	◇主要な観光行事である展勝地さくらまつり及びみちのく芸能まつりについて、通常規模での実施を継続する。 ◇展勝地の3施設(公園・レストハウス・みちのく民俗村)を一体的に管理している指定管理者と連携し、桜以外の時期の対応を強化するなどにより、観光客数の増加を図る。 ◇花巻空港-台湾チャーター便の運航が再開し、全県をあげたおもてなし事業を行っており、更なるインバウンド需要の取り込みにつなげる。 ◇北上観光コンベンション協会の機能強化に引き続き取組み、イベント開催等の事業を支援する。
						指標以外の事実	(C)		指標以外の内容	指標以外の内容			

凡例 ●実績値 — 期待値

指 標 ①		指標の説明								指 標 ②		指標の説明								指 標 ③		指標の説明																																					
新規創業者及び事業承継者の商業地域(都市計画法)における開業数		<div>開業及び既存の事業所の経営を承継した事業者の数(延べ数)</div> 								年間観光客数		<div>観光地点(観光客を集客する力のある施設又は観光活動の拠点となる地点)及び行祭事・イベントを訪れた者の数。</div> 								産業観光客数		<div>見学受入企業の入込調査による集計</div> 																																					
																														担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
																														商工部	件	実績値	0	0	10	25	33	39		商工部	千人	実績値	1,806	733	894	1,202	1,405	1,622		商工部	千人	実績値	15	3.2	1.3	1.6	3.4	14	
																																期待値 ※R7は目標値	0	4.2	8.3	12.5	16.7	20.8	25.0			期待値 ※R7は目標値						1,405	1,893			2,380	期待値 ※R7は目標値					3.4	9.4
備 考								備 考					目標見直し			目標見直し			R1水準																																								
指 標 ④		指標の説明								指 標 ⑤		指標の説明								指 標 ⑥		指標の説明																																					
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7																														
		実績値										実績値										実績値																																					
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値											期待値 ※R7は目標値																																				
		備 考										備 考										備 考																																					
指 標 ⑦		指標の説明								指 標 ⑧		指標の説明								指 標 ⑨		指標の説明																																					
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7																														
		実績値										実績値										実績値																																					
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値																																					
		備 考										備 考										備 考																																					
指 標 ⑩		指標の説明								指 標 ⑪		指標の説明								指 標 ⑫		指標の説明																																					
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7																														
		実績値										実績値										実績値																																					
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値																																					
		備 考										備 考										備 考																																					
指 標 ⑬		指標の説明								指 標 ⑭		指標の説明								指 標 ⑮		指標の説明																																					
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7																														
		実績値										実績値										実績値																																					
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値																																					
		備 考										備 考										備 考																																					

北上市総合計画 2021～2030 令和7年度基本施策事後評価シート（評価対象期間:令和6年度）

基本方針	5.多様な人材が働きやすい環境の向上
基本施策	5-1.雇用環境の整備と労働力の確保
関連するプロジェクト	5.「北上×はたらく」プロジェクト

より多くの女性、高齢者、障がい者、外国人等が働くことができる環境を構築するため、中小企業へのワーク・ライフ・バランスや合理的配慮等の普及とともに、埋もれている人材のスキルアップと就労支援の充実、福祉・医療・介護・農林業分野の労働力確保に取り組みます。

評価項目	A	順調
	B	概ね順調
	C	やや遅れている
	D	遅れている

総合評価
B

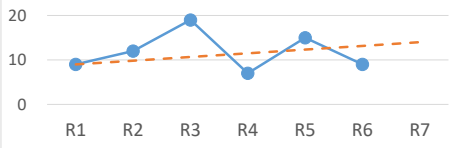
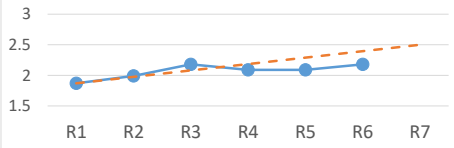
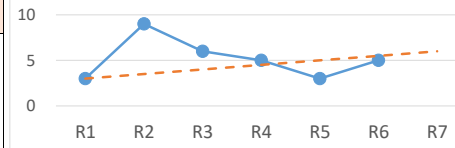
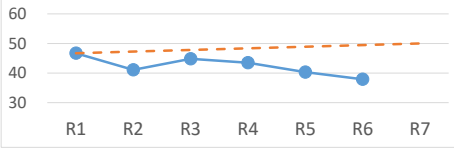
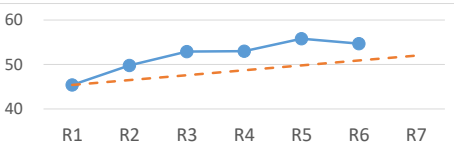
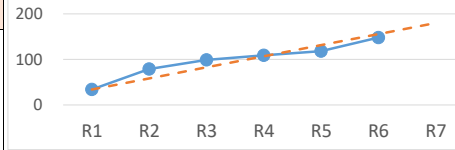
※達成状況評価欄の（ ）内については昨年度の評価結果です。

R5事後
11

No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)		成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象：R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇：R7/◆：R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
1	福祉 部	●	障がい者の就労支援事業の充実	障がい者の自立を支援するため、すでに障がい者就労支援事業所の施設外就労等を受け入れている企業に対し、一般就労へのステップアップに向けた働きかけ等を推進し、福祉施設から一般就労への移行を促進する。また、福祉施設で働く障がい者の工資引上を目指し、各施設のサービス向上を図るとともに、障害者優先調達推進法など関連する制度の周知に努める。	①②	指標に基づく事実	①福祉施設から一般就労移行者は、年度によって変動が激しく、R6は期待値を下回った。 ②北上公共職業安定所管内企業の障がい者雇用率は微増傾向で、期待値を下回っている。	C	指標に関する内容	①自立支援協議会で就職を希望する障がい者向けのセミナーを実施。他にもハローワーク、障がい者・生活支援センターと連携し、就労希望者と企業のマッチングを図ることで、一般就労移行に寄与した。 ②自立支援協議会就労支援部会と花巻清風支援学校との共催で企業向けの説明会を実施。支援学校の見学による障がい者への理解を深めるとともに、市内企業の好事例の共有により、企業の障がい者採用活動の促進を図った。	指標に関する内容	①就労継続支援B型事業所の開所が相次ぐ一方、A型事業所は閉所するなど、就労支援体制の変動が激しい。 ②北上公共職業安定所等により障がい者雇用の周知が図られているほか、企業側の障がい者雇用の取組も増えているが、経営状況の悪化や、障がい者が担ってきた業務においてDX等による業務効率化が進んでいることが、障がい者雇用を阻む要因となっている。	◇就職希望の障がい者向けに、就職に必要なスキルアップのためにセミナーを継続して実施する。 ◇ハローワーク、障がい者・生活支援センターと連携して、就労希望者と企業のマッチングを図る。 ◇花巻清風支援学校と連携し、企業に対して障がい者雇用についての啓発や事例紹介を継続して行うと共に、雇用希望に対してのマッチングなど適宜支援を行う。 ◇障害者優先調達推進法など関連する制度の周知を、市の各部署に加えて、指定管理施設に拡大する。
					指標以外の事実	福祉施設で働く障がい者の平均工資は、増加傾向である。	(B)		指標以外の内容	市の各部署に対して、障がい者就労施設等からの物品調達を促すことにより、物品調達額が増加し、工資向上に貢献した。	指標以外の内容		
2	福祉 部	●	介護施設で働く人材の確保	市内の介護福祉士養成施設の生徒の学費を補助することで、介護施設への就職者を確保し、施設の安定的な運営に資する。	③	指標に基づく事実	北上市介護人材確保推進補助事業について、R6年度も新規申請はなく、近隣の自治体においても、この事業と同種の介護職のための奨学金返済を支援するという目的の事業は伸び悩んでいる。	B	指標に関する内容		指標に関する内容	・北上市介護人材確保推進補助事業が伸び悩んでいる原因は、北上市介護人材養成補助事業に対するニーズの方が高いことが考えられる。 ・高齢者人口がピークを迎える2040年には県内の介護職員が約6千人不足すると推計されている。介護人材確保は喫緊の課題であり、国において処遇改善のための取組が進められているが、全産業平均との比較では依然として格差がある。	◇R2年度以降新規の申請がないことからR7年度で事業終了とする。 ◇介護人材の確保については、雇用対策協議会と連携した就職相談会の開催に継続して取り組む。
					指標以外の事実		(B)		指標以外の内容	指標以外の内容			
3	福祉 部	●	多様な人材を生かす取り組み	ジョブカフェ、ひきこもり支援、障がい者就労支援、生活困窮者就労準備支援などの関係機関の協力体制を充実させ、企業や社会福祉法人などとともにユニバーサル就労を推進する。 ※ユニバーサル就労の推進 誰にとっても働きやすく、働きがいのある多様な働き方ができるユニバーサルな職場環境をつくること	②	指標に基づく事実	北上公共職業安定所管内企業の障がい者雇用率は微増傾向で、期待値を下回っている。	B	指標に関する内容	・自立支援協議会就労支援部会と花巻清風支援学校との共催で企業向けの説明会を実施。支援学校の見学による障がい者への理解を深めるとともに、市内企業の好事例の共有により、企業の障がい者採用活動の促進を図った。	指標に関する内容	北上公共職業安定所等により障がい者雇用の周知が図られているほか、企業側の障がい者雇用の取組も増えているが、経営状況の悪化や、DX等による業務効率化が進んでいることが、障がい者雇用を阻む要因となっている。	◇ハローワーク、障がい者・生活支援センターと連携して、就労希望者と企業のマッチングを図る。 ◇花巻清風支援学校と連携し、企業に対して障がい者雇用についての啓発や事例紹介を継続して行うと共に、雇用希望に対してのマッチングなど適宜支援を行う。 ◇ひきこもりネットワーク協議会を活用し、各支援機関のネットワーク機能を強化しつつ、利用者のニーズに即した支援を実施できるよう体制の充実を図る。 ◇生活困窮者の自立の促進を図るため、就労準備支援を継続して行う。
					指標以外の事実	ひきこもりへのアウトリーチ支援により、居場所や就労訓練へつながるケースが増加している。なお、生活困窮者就労準備支援事業の相談者は増加しているが、就労準備プログラム計画を作成しての取組が低調だった。	(B)		指標以外の内容	・業務委託先が生活困窮者に係る自立相談支援事業及びひきこもりへのアウトリーチ支援も行っており、就労について相談がしやすい体制を整えている。 ・アウトリーチ支援の実施により、従来ニーズ把握の難しかったひきこもり当事者や家族へ能動的な支援を行うことが可能となっている。	指標以外の内容		

No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)		成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象：R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇:R7/◆:R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
4	商工 部	●	障がい者 雇用の推 進	労働局との雇用対策協定に基づき、ハローワークと協力して障がい者就職相談会を開催するほか、ジョブカフェさくらによる利用者との相談と受け入れ先となる企業の開拓により企業と就労希望者とのマッチングを図る。	未設定	指標に基 づく事 実		B	指標に 関する 内 容		指標に 関する 内 容		◇引き続きマッチング機会の創出及びジョブカフェさくらを通じて就労支援する。
						指標以 外の事 実	R6年度の障がい者の就職率(就職件数/新規求職申込件数)は41.3%であり、R1年度と比較して14.5ポイント減少している。		指標以 外の 内 容	・なりわい事例集の作成による好事例の展開及びジョブカフェさくらの就労支援を通じて企業と就労希望者のマッチングを図った。 ・市自立支援協議会が主催し、事業所、求職者それぞれに向けた「障がい者雇用セミナー」を開催した。 関係機関で組織する岩手中部圏域障がい者就労支援ネットワーク会議に参加し、情報共有を図った。	指標以 外の 内 容	・R6年度の障がい者の新規求職申込件数は208件であり、R1年度と比較して36件減少している。 ・法定雇用率が段階的に引き上げられている中で企業は法定雇用率達成に向け、障がい者雇用の動きがみられるものの、障がい者雇用率未達成企業が依然として多い状況にある。	
5	商工 部	●	人口減少 下におけ る労働力 の確保	インターンシップの実施支援や企業見学会の開催などにより新規卒者の市内就職を高めるほか、就職相談会等により、労働意欲がある者と企業とのマッチングを図る。また、人口減少下にあつては、今後さらに人材確保が困難になることが想定されることから、就職時のミスマッチ減少、労働環境の時代に即した変化、働き方の多様性など、企業と就労者の隙間を埋める取り組みを進め、人材定着を促進する。	④⑤	指標に基 づく事 実	④就職率はR5年度より減少し、期待値を11.6ポイント下回っている。 ⑤管内新規高等学校卒業者求人の充足割合は、R5年度より1.1ポイント減少しているものの、期待値を上回っている。	B	指標に 関する 内 容	・インターンシップ支援、なりわい事例集の作成、ジョブカフェさくらで就労支援及び出張キャリアサポートなどの事業の実施した。 ・北上地区合同就職相談会を開催し、一般求職者と市内企業のマッチングを図った。 ・新卒採用市場の理解と効果的な大学等との連携方法について、大学等の就職担当職員を招いた研修会を実施し、企業の自律的な採用活動を支援した。	指標に 関する 内 容	・若い年代を中心にスポットワーク利用するが増えている。一方で、ハローワークの利用者に中高年代が増えている。 ・企業や関係機関の高卒人材確保に向けた取り組み等により、管内新規高等学校卒業者求人の充足割合はR1年度以降、増加傾向にある。	◇雇用対策については、「生産性向上等の産業政策」、「人材確保の政策」、「人材定着の政策」の3つの施策が相互に関連し合いながら進めるべきものであるが、中でも「人材定着」の取組みは、地域の持続的な発展に向けて特に意識して取り組む必要がある。 ◇企業訪問を通じた実態・ニーズ把握及び北上市雇用対策協議会による東北一円及び首都圏等からの人材確保に向けた取組拡大と高校・大学との積極的な情報交換を行い、連携可能な大学等の拡充を図る。 ◇ジョブカフェさくらによる出張キャリアサポートを継続実施し、既存企業のほか、新たな受入企業を開拓する。
						指標以 外の事 実	・管外高卒者が管内企業へ就職する人(150人)は管内高卒者が管内に就職する人(116人)より多く、他地域からの人材の呼び込みに効果がでている。		指標以 外の 内 容	・県内高校を訪問し、市内企業情報を提供した。 ・労働量が変わらなくても企業活動を維持・発展させることが必要。生産性向上の取組を後押しするため、デジタル技術のリテラシーを高める事業をバージョンアップして継続実施した。	指標以 外の 内 容	・管内高校卒業予定者は年々減少傾向にある。また、進学希望の割合が増加しているため、就職希望者は減少している。 ・省力化・省人化に向けた生産性向上の考え方も地域企業に浸透してきている。	
6	商工 部	●	中小企業 勤労者の 福利厚生 支援	中小企業における就労環境の充実強化、ワーク・ライフ・バランスの推進を図るとともに、北上地区勤労者福祉サービスセンターのサービス内容拡充に向けた連携を強化する。	④⑤⑥	指標に基 づく事 実	⑥就労環境に対する意識の高まりなどから認定制度等に参加している事業所数が増加したが、期待値は下回っている。	B	指標に 関する 内 容	なりわい事例集の作成による好事例の展開、ジョブカフェさくらで出張キャリアサポートなどの事業の実施した。	指標に 関する 内 容	・いわて働き方改革推進運動参加事業者が、前年比22社(26.8%)増加していることが全体数値を押し上げている。 ・企業や関係機関の高卒人材確保に向けた取り組み等により、管内新規高等学校卒業者求人の充足割合はR1年度以降、増加傾向にある。	◇北上地区勤労者福祉サービスセンターの取組を通じて、中小企業の福利厚生支援を継続して行う。 ◇中小企業のワーク・ライフ・バランスに資する情報提供を市HP、SNSを通じて発信していく ◇階層別人材育成セミナーを開催するほか、ジョブカフェさくらによる出張キャリアサポートを継続実施し、既存企業のほか、新たな受入企業を開拓する。
						指標以 外の事 実	・北上地区勤労者福祉サービスセンターの会員数は入会する事業所数を退会する事業所数が上回っており6事業所退会、会員19人減となった。		指標以 外の 内 容	北上地区勤労者福祉サービスセンターへ運営費補助金及び中小企業会員の会費等の補助により福利厚生向上に寄与した。	指標以 外の 内 容	資格取得支援やライフステージの変化に応じた福利厚生の取組みが求められている。	

凡例 ●実績値 —期待値

指 標 ①		指標の説明								指 標 ②		指標の説明								指 標 ③		指標の説明								
福祉施設から一般就労への移行者数		福祉施設利用者のうち、就労移行支援事業所等のサービスを通じて、一般就労へ移行した人の数。								北上公共職業安定所管内企業の障がい者雇用率		常用雇用者のうち障がい者を雇っている割合。								北上市介護人材確保推進補助対象者数のうち就労継続者数		補助金請求時に就労継続の報告があり、それに基づいている。(累計)								
																														
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
福祉部	人	実績値	9	12	19	7	15	9		福祉部	%	実績値	1.87	1.99	2.18	2.09	2.09	2.18		福祉部	人	実績値	3	9	6	5	3	5		
		期待値 ※R7は目標値	9	10	11	12	12	13	14			期待値 ※R7は目標値	1.87	1.98	2.08	2.19	2.29	2.40	2.5			期待値 ※R7は目標値	3	4	4	5	5	6	6	
		備 考										備 考											備 考							
指 標 ④		指標の説明								指 標 ⑤		指標の説明								指 標 ⑥		指標の説明								
就職率(就職件数／新規求職申込件数)		新規求職申込者(就職希望者)に対する就職した者の件数								管内新規高等学校卒業求人の充足割合		管内の新規高等学校卒業求人に就職した県内の新規高等学校卒業求人数								国及び県の認定制度等に参加・登録・認証等されている事業所数(※)		若者の採用・育成に積極的な企業、子育てサポートをしている企業、女性活躍推進をしている企業、働き方改革に取り組んでいる企業として認定又は認証している事業者数。 ※対象：コースエール、くるみん、プラチナくるみん、えるぼし、いわて働き方改革推進運動、いわて女性活躍推進企業等 認証制度、いわて子育てにやさしい企業等認証・表彰制度								
																														
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
商工部	%	実績値	46.7	41.1	44.8	43.5	40.3	37.9		商工部	%	実績値	45.4	49.8	52.9	53	55.8	54.7		商工部	社	実績値	34	79	99	109	118	148		
		期待値 ※R7は目標値	46.7	47.3	47.8	48.4	48.9	49.5	50			期待値 ※R7は目標値	45.4	46.5	47.6	48.7	49.8	50.9	52			期待値 ※R7は目標値	34	58	83	107	131	156	180	
		備 考										備 考											備 考							
指 標 ⑦		指標の説明								指 標 ⑧		指標の説明								指 標 ⑨		指標の説明								
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
		実績値										実績値										実績値								
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値								
		備 考										備 考										備 考								
指 標 ⑩		指標の説明								指 標 ⑪		指標の説明								指 標 ⑫		指標の説明								
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
		実績値										実績値										実績値								
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値								
		備 考										備 考										備 考								
指 標 ⑬		指標の説明								指 標 ⑭		指標の説明								指 標 ⑮		指標の説明								
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
		実績値										実績値										実績値								
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値								
		備 考										備 考										備 考								

北上市総合計画 2021～2030 令和7年度基本施策事後評価シート（評価対象期間:令和6年度）

基本方針	5.多様な人材が働きやすい環境の向上	地域産業の次世代の後継者を確保するため、中小企業の人材確保への支援策を実施するとともに、教育機関と連動した高度技術者(ものづくり人材)の育成、親元就農など次世代を担う新規就農者及び林業従事者等の育成に取り組めます。
基本施策	5-2.人材育成に向けた取組みの強化	
関連するプロジェクト	5.「北上×はたらく」プロジェクト	

評価項目	A	順調
	B	概ね順調
	C	やや遅れている
	D	遅れている

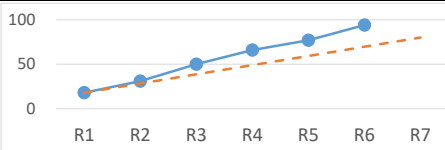
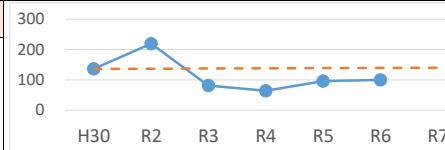
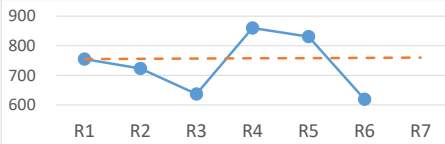
総合評価
A

※達成状況評価欄の（ ）内については昨年度の評価結果です。

R6事後
12

No.	担当部等	プロジェクト	推進方針(R6)		成果指標	推進方針に対する達成状況(対象:R6)		達成状況評価	達成状況に至る要因の分析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇:R7/◆:R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
1	福祉部	●	介護施設で働く人材の育成	市内の介護福祉士養成施設と連携し、市内の介護サービス提供事業所での就労を希望する学生の経済的支援に取り組むとともに、北上市・奥州市・花巻市・金ケ崎町・西和賀町で、介護人材育成に取り組む。	①	指標に基づく事実	北上市介護人材養成補助対象者のうち市内介護施設への就職者数は、増加し続けており、期待値は達成している。	A	指標に関する内容	当該補助制度は、近隣自治体において類似施策がなく、市内介護施設への就職者数の増加に繋がっており、介護人材の確保・育成に大きく貢献している。	指標に関する内容	・介護人材の養成施設は、県内において盛岡市と当市にしかない。 ・当市の専修大学北上福祉教育専門学校(KTS)の入学者数は、令和6年度は減少したものの、同校が介護の仕事の魅力を中・高校生に積極的に広報して、入学生の確保に努めている。	◇R6年度から定住自立圏構成市町に花巻市を加え、5市町で連携し事業の周知を行い、介護人材の育成に取り組んでいる。R6年度までに累計で100名を超える人材が市内の介護事業所に就職し担い手として活躍している。不足している人材に対する取り組みとしては重要であり、今後も継続が望まれている。
						指標以外の事実		(A)	指標以外の内容		指標以外の内容		
2	農林部	●	農林業の次世代に向けた後継者の育成	新規就農を促進するため、U・Iターン者などに対する新規就農相談会を開催し、各種研修制度の周知を行うとともに、国の新規就農者支援策を活用した新規就農者の確保に努める。 また、後継者がいる農家や農業の継承を希望する農家に対しては、より就農しやすい親元等の就農者への支援体制を確立する。	②	指標に基づく事実	新規就農者数は、現状値(R元年度)5人に対して、R2年度5人、R3年度7人、R4年度8人、R5年度3人R6年度4人の計32人が就農しており、期待値を上回っている。	A	指標に関する内容	・国補助の新規就農者育成総合対策、市補助の親元就農支援事業を就農希望者のニーズに合わせて活用することにより支援している。 ・農業支援センターが新規就農に向けた相談窓口となり、現地訪問などを行っている。 ・関係機関と連携し、毎月北上市新規就農サポート連絡会議を実施し、相談受け入れ体制を整備している。	指標に関する内容	新規就農に関する相談者が一定数ある。(R6は13名)	◇引き続き、関係団体と連携を取り新規就農者の確保に努めていく。 ◇農業支援センターへ来庁した新規就農希望者の就農に向け、相談後の状況確認や関係機関への帯同など、より相談者へ寄り添った対応を行う。
						指標以外の事実	法人等への雇用就農については、R2年度20人、R3年度22人、R4年度17人、R5年度15人、R6年度12人の計86人となっている。	(A)	指標以外の内容		指標以外の内容	・法人からの求人による新規就農者が一定数あり、担い手の育成に繋がっている。 ・農業生産法人では、インターンシップや研修を実施しており、雇用就農に繋がっているケースもある。	
3	商工部	●	ものづくり技術者の人材育成	3次元ものづくり技術人材育成事業の推進(いわてデジタルエンジニア育成センター)、北上高等職業訓練校における技能者の育成、産学官連携による高度技術者の育成(岩手大学金型技術研究センター)、北上コンピュータ・アカデミーによる高度情報処理技術者の養成等、教育機関とも連動した人材育成に取り組む。	③④	指標に基づく事実	③北上職業訓練校がいわてデジタルエンジニア育成センターと連携して実施する3次元ものづくり人材育成事業に対して補助金を支出し、R6年度は100名が受講した。受講者数は、R3、4年度減少し、その後増加しているものの期待値を下回った。 ④北上コンピュータ・アカデミーの資格取得は111人、北上高等職業訓練校は101人それぞれ減少した。	B	指標に関する内容	・北上コンピュータ・アカデミーに機器リース料及び運営費補助を行い、人材育成に係る取組を支援した。 ・職業訓練施設の円滑な運営を図るため、北上市職業訓練施設運営委員会を開催した。	指標に関する内容	いわてデジタルエンジニア育成センターではR2.11月には新たな生産ラインシミュレーションソフトウェアを導入する等、新たなカリキュラムにも取り組み、さらなる生産性の向上、人材育成を順調に推進している。	◇東北大学と連携し、生産性向上に関する知識と現場で活きる技術を学ぶ機会を提供し、デジタル化やIoTに関するスキルを持つ人材を育成する。 ◇事業規模維持及び拡大を支援するため、従業員に対して生産性向上に必要なスキルを獲得させることを目的とした研修等の受講に対して補助を行い、人材育成を支援する。 ◇北上コンピュータ・アカデミー及び北上職業訓練校の活動を引き続き支援していく。 ◇岩手県に、いわてデジタルエンジニア育成センター運営協議会において策定された長期ビジョンに基づき、ものづくり産業を取り巻く環境の変化に対応した人材育成や企業支援メニューを適時・的確に構築・実施できるよう、県の主体的な関与の継続を要望する。
						指標以外の事実	R6年度の北上コンピュータ・アカデミーの学生数は139人(前年度比△39人)であり、コロナ禍にあった入学生の増加傾向は落ち着きが見られる。	(B)	指標以外の内容	北上コンピュータ・アカデミー入学生確保のための高校訪問に同行するなど、安定的な入学生の確保に向けた取組についても支援している。	指標以外の内容	北上管内の高卒人材についてはコロナ禍以降、地元志向の高まりが見られる一方、大学進学率も上昇傾向にある。	

凡例 ●実績値 —期待値

指 標 ①		指標の説明								指 標 ②								指 標 ③																																																															
北上市介護人材養成補助対象者のうち市内介護施設への就職者数		同学校(KTS)卒業生のうち、当該補助金を活用した人数(累計)																新規就農者数(親元就農等含む。)								新規自営農業就農者・新規参入者(累計)																																																							
																																										担当部等		単位		R1 (現状値)		R2		R3		R4		R5		R6		R7		担当部等		単位		R1 (現状値)		R2		R3		R4		R5		R6		R7					
																																										福祉部		名		実績値		18		31		50		66		77		94				商工部		人		実績値		136		219		81		64		96		100			
																																														期待値 ※R7は目標値		18		28		39		49		59		70		80						期待値 ※R7は目標値		136		136.7		137.3		138.0		138.7		139.3		140	
				備 考																				備 考		H30値		R1値		R2値		R3値		R4値		R5値																																													
指 標 ④		指標の説明								指 標 ⑤								指 標 ⑥																																																															
職業訓練施設等での資格取得者延べ人数		技能検定合格者、情報処理技術者試験、簿記検定、OfficeSpecialistほか																																																																															
																																		担当部等		単位		R1 (現状値)		R2		R3		R4		R5		R6		R7		担当部等		単位		R1 (現状値)		R2		R3		R4		R5		R6		R7													
																																		商工部		人		実績値		755		723		637		860		831		619						実績値																									
																																						期待値 ※R7は目標値		755		756		757		758		758		759		760						期待値 ※R7は目標値																							
				備 考																				備 考																																																									
指 標 ⑦		指標の説明								指 標 ⑧								指 標 ⑨																																																															
																										担当部等		単位		R1 (現状値)		R2		R3		R4		R5		R6		R7		担当部等		単位		R1 (現状値)		R2		R3		R4		R5		R6		R7																					
																														実績値																実績値																																			
																														期待値 ※R7は目標値																		期待値 ※R7は目標値																																	
				備 考																				備 考																																																									
指 標 ⑩		指標の説明								指 標 ⑪								指 標 ⑫																																																															
																										担当部等		単位		R1 (現状値)		R2		R3		R4		R5		R6		R7		担当部等		単位		R1 (現状値)		R2		R3		R4		R5		R6		R7																					
																														実績値																実績値																																			
																														期待値 ※R7は目標値																		期待値 ※R7は目標値																																	
				備 考																				備 考																																																									
指 標 ⑬		指標の説明								指 標 ⑭								指 標 ⑮																																																															
																										担当部等		単位		R1 (現状値)		R2		R3		R4		R5		R6		R7		担当部等		単位		R1 (現状値)		R2		R3		R4		R5		R6		R7																					
																														実績値																実績値																																			
																														期待値 ※R7は目標値																		期待値 ※R7は目標値																																	
				備 考																				備 考																																																									

北上市総合計画 2021～2030 令和7年度基本施策事後評価シート（評価対象期間:令和6年度）

基本方針	6.健康と安心の地域づくりの推進
基本施策	6-1.自分らしい生き方を支える健康寿命の延伸
関連するプロジェクト	6.いきいき元気ライフプロジェクト

市民の主体的な健康づくりと生きがいづくりを支援するため、活発な地域活動の継続と健康増進への気運をさらに高めるとともに、最新技術を活かした医療・介護を提供する取組の推進、適切な感染症対応や持続可能な社会保障制度の運営を図ります。

評価項目	A	順調
	B	概ね順調
	C	やや遅れている
	D	遅れている

総合評価
C

※達成状況評価欄の（ ）内については昨年度の評価結果です。

R6事後
13

No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)		成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象:R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇:R7/◆:R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
1	健康 こども部	●	健康づくりへの支援	働き盛り世代の生活習慣病予防や、高齢者の疾病の重症化予防と介護予防を一体的に推進する等、健康診査の結果を基に各年代に応じた保健指導を充実・強化し、市民の生活習慣病予防や疾病の重症化予防の意識啓発を進め、健康寿命のさらなる延伸を目指す。	③⑤⑥	指標に基づく事実	③健康福祉ポイントの3,000ポイント達成者は期待値を上回った。 ⑤特定健診受診率は、R5年度より上昇したが、期待値を下回っている。 ⑥後期高齢者健康診査受診率は、R5年度より上昇したが、期待値を下回っている。	C	指標に関する内容	③健康福祉ポイント事業は3年目となり、イベント等も継続的に実施し参加者が定着してきた。 ⑤⑥予約制健診を導入したこと、受診券送付用の封筒を他の封筒より目立つものを使用したことにより、受診率の向上に繋がった	指標に関する内容	⑤⑥集団健診の受診者数は横ばいであるが、個別受診の受診者数が増加傾向にあり、5年間で特定健診の個別健診が600人程増えている(500人→1,100人) ⑤⑥全体の対象者のうち、1割以上が医療機関へ通院している等の理由で健診を受けていない。	◇継続して健診会場で特定保健指導初回面接を実施し、生活習慣改善について早期から意識づけを図る。 ◇継続してアウトリーチでの保健指導や広報等での啓発活動を実施し、生活習慣病予防や疾病の重症化予防を図る。 ◇継続して安心して健診を受診できる環境の整備を行っていく。 ◇健康福祉ポイント事業において、対象イベントの拡大及びウォーキングコースの追加設定により運動習慣の定着を図る ◆健康福祉ポイント事業を通じて定着した運動習慣・健康意識を市民幅広く健診受診等につなげていく。
						指標以外の事実		(C)	指標以外の内容	指標以外の内容			
2	福祉 部		在宅医療等の推進と医療・介護連携の強化	在宅医療を支える資源の充実と資源間ネットワークの構築を進めるとともに、病院入退院時における医療・介護の多職種連携の円滑化を進め、スムーズな在宅療養生活への移行を進める。	①	指標に基づく事実	3年毎の介護保険計画によるアンケート調査において、介護が必要になった時に在宅療養・在宅介護を希望すると回答した人の割合、期待値を下回っているものの増加傾向である。	B	指標に関する内容		指標に関する内容	・在宅療養・介護を希望する人が住み慣れた自宅で介護サービスを受けながら安心して暮らすことのできる連携体制が整ってきており、それが市民の意識にも現れてきている。 ・ひとり暮らし高齢者及び認知症高齢者の増加・世帯人員の減少などにより、在宅で介護することが難しいケースが多くなっている。	◇改訂した入退院支援ハンドブックを活用し、在宅の医療と介護の連携を更にスムーズに進める体制を作る。 ◇きたかみ型地域包括ケアの構築に向け、医療介護の人材育成のための研修や支援体制を整備し、各機関との連携を推進する。
						指標以外の事実	・厚生労働省の地域包括ケア「見える化システム」の実績値により、在宅療養を支える医師や介護職等、多職種の連携が進んでいることがデータでも明らかである。 ・在宅医療介護連携推進協議会 3回 ・在宅医療介護連携支援センターの設置 1か所 ・在宅医療介護連携支援センター相談対応件数 117件	(B)	指標以外の内容	・在宅医療介護連携支援センター設置から9年経過し、相談窓口の認知度が向上している。また、職員の相談対応能力が向上している。 ・在宅医療介護連携推進事業をロードマップに基づき順調に進めている。	指標以外の内容	在宅医を支える、岩手県医師会委託事業の「在宅待機支援事業」により、在宅医の不在の際のサポート体制が構築されている。	
3	福祉 部	●	フレイル予防の推進	フレイルへの理解を広め、「身体的な衰え」「精神的・心理的な衰え」「社会的な衰え」の進行を予防する取り組みを推進する。	②	指標に基づく事実	市民意識調査の結果、心身ともに健康だと感じる人の割合(70歳代以上)は59.6%となっており、R5年度から概ね横這いで推移している。	B	指標に関する内容	・広報や出前講座hoKkoまちの保健室を通じて、住民へのフレイル予防の周知、啓発を行った。	指標に関する内容	hoKkoまちの保健室の参加者がR5年度よりも増加しており、心身の健康維持のためのセルフケアの意識が高まっていると考えられる。	◇地域包括支援センターと連携し、新たな体操グループの立上げ支援、活動の継続支援に取り組む。 ◇誰でも気軽に運動や健康相談等ができる場として、通年で「hoKkoまちの保健室事業」を継続し、住民が継続的にフレイル予防に取り組めるよう支援する。 ◇フレイル予防について、庁内連携しながら引き続き周知、啓発を行う。
						指標以外の事実	・誰でもいつでもフレイル予防に取り組める事業を推進している。 ・通いの場のグループ数75グループ ・hoKkoまちの保健室事業…1か所(概ね週1回)・47回・参加者延べ人数1,260人	(B)	指標以外の内容	・フレイル予防、健康づくりの取組として、高齢者が屋外で安全に運動するためのコンテンツとしてポールウォーキングの普及を行った。 ・通いの場への体操指導・運営支援が通いの場の活動継続につながっている。 ・他課と連携し、フレイル予防の周知、啓発を広く行うことができた。	指標以外の内容		

凡例 ●実績値 —期待値

指 標 ①		指標の説明								指 標 ②		指標の説明								指 標 ③		指標の説明							
在宅療養・在宅介護を希望する人の割合		調査回答者の中で介護が必要になった時に、在宅療養・在宅介護を希望すると回答した人の割合 ※3年毎のアンケート調査(介護保険計画)								心身ともに健康だと感じる人の割合(70歳代以上)		市民意識調査で「心身ともに健康だと感じる」と回答した70歳代以上の割合(市民意識調査)								健康福祉ポイント付与3000ポイント以上達成者の人数		健康診断及び検診の受診、運動等の健康づくり活動に付与される健康福祉ポイントの付与達成者の割合							
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
福祉部	%	実績値	54.3				56.0			福祉部	%	実績値				35.5	61.1	59.6		健康こども部	人	実績値	-	0	0	268	528	658	
		期待値 ※R7は目標値	54.3	55.3	56.2	57.2	58.1	59.1	60.0			期待値 ※R7は目標値				35.5	45.3	55.2	65.0			期待値 ※R7は目標値	-	0	160	320	480	640	800
		備 考		未実施	未実施		未実施	未実施				備 考	未実施	未実施	未実施	参考値						備 考							
指 標 ④		指標の説明								指 標 ⑤		指標の説明								指 標 ⑥		指標の説明							
成人歯科検診受診率		定期的に歯科検診を受けている者の割合								特定健診受診率		40歳から74歳までの特定検診受診率目標値(国保加入者)								後期高齢者健康診査受診率		後期高齢者医療制度加入者に対する健康診査の受診率							
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
健康こども部	%	実績値	18.6	25.6	17.7	21.2	20	19.0		健康こども部	%	実績値	40.5	36.0	39.3	36.3	38.6	39.0		健康こども部	%	実績値	21.4	18.6	18.3	20.2	18.8	19.2	
		期待値 ※R7は目標値	18.6	19.3	20.1	20.8	21.5	22.3	23			期待値 ※R7は目標値	40.5	43.8	47.0	50.3	53.5	56.8	60			期待値 ※R7は目標値	21.4	26.2	30.9	35.7	40.5	45.2	50.0
		備 考										備 考										備 考							
指 標 ⑦		指標の説明								指 標 ⑧		指標の説明								指 標 ⑨		指標の説明							
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
		実績値										実績値										実績値							
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値							
		備 考										備 考										備 考							
指 標 ⑩		指標の説明								指 標 ⑪		指標の説明								指 標 ⑫		指標の説明							
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
		実績値										実績値										実績値							
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値							
		備 考										備 考										備 考							
指 標 ⑬		指標の説明								指 標 ⑭		指標の説明								指 標 ⑮		指標の説明							
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
		実績値										実績値										実績値							
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値							
		備 考										備 考										備 考							

北上市総合計画 2021～2030 令和7年度基本施策事後評価シート（評価対象期間:令和6年度）

基本方針	6.健康と安心の地域づくりの推進
基本施策	6-2.お互いを支え合う地域づくり
関連するプロジェクト	6.いきいき元気ライフプロジェクト

生涯にわたって安心して暮らすことのできる地域づくりをさらに進めるため、一人ひとりの人権を尊重する「心」とお互いを支え合う地域福祉活動を基盤に、自殺予防、介護予防・生きがいづくり・自立支援の一層の充実など、様々な状況にある市民を支える地域共生社会の実現に取り組みます。

評価項目	A	順調
	B	概ね順調
	C	やや遅れている
	D	遅れている

総合評価
B

※達成状況評価欄の（ ）内については昨年度の評価結果です。

R6事後
14

No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)		成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象：R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇：R7/◆：R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
1	福祉 部	●	高齢社会 を支える 「しくみ」 づくり	権利擁護に関する制度の周知、普及啓発、相談窓口の明確化を行い、司法、福祉、保健、医療の専門職と連携し、権利擁護支援の地域連携ネットワーク体制の構築を行うとともに、成年後見制度の担い手の養成及び育成に取り組む。	①	指標に 基づく 事実	高齢者・障がい者のサービス提供事業所における制度の認知度(75%)であり、前年度(58%)より向上した。	A	指標に 関する 内容	広報の推進により制度の周知が図られた。 ・支援者向けの出前講座・研修講師(4回)、 ・市民向け出前講座(3回)、市民向け講演会(1回)、市民向け講座(1回) ・権利擁護支援者向け勉強会(1回) ・医療従事者向け研修会(1回)	指標に 関する 内容	独居高齢者及び認知症高齢者等の増加により、成年後見制度の利用者は今後も増加することが見込まれる。	◇制度周知のための市民向け講演会、勉強会、相談会、出前講座の開催 ◇障がいの子を持つ親向け勉強会 ◇権利擁護支援者向け勉強会 ◇医療従事者向け権利養護研修会 ◇審議会、ネットワーク会議の継続開催 ◇市民後見人に関する講演会の開催と、市民後見人養成講座の開催
						指標以外 の事実	・成年後見制度利用促進審議会の開催 1回 ・地域連携ネットワーク会議の開催 6回		(B)	指標以外 の内容	関係機関によるネットワークの構築により、制度に対する理解が進んだ。		
2	福祉 部	●	高齢者を 支え合う 「ちいき」 づくり	ご近所おたすけサポーター養成講座の実施やボランティアポイントの活用により、新たな担い手の育成を行うとともに、関係機関と連携して高齢者を支える場の創出を図り、地域における活動の活性化を図る。	②	指標に 基づく 事実	介護予防ボランティア(ご近所おたすけサポーター養成講座の受講者数)は437人(期待値452人)だった。	B	指標に 関する 内容	・ご近所おたすけサポーターに求める役割を「地域の居場所」が「訪問B」の担い手として活動することと明確にしたうえで講座を開催し、受講希望者が増加した。	指標に 関する 内容	・高齢化が進む中、支え合いのしくみづくりはますます重要性を増している。	◇フォローアップ研修の内容を見直し、ご近所おたすけサポーターへの新たな研修会を開催する。 ◇生活支援コーディネーターによるご近所おたすけサポーターの後方支援やフォローアップ体制を整備し、高齢者の居場所づくりや地域における支え合いを推進する。
						指標以外 の事実	高齢者集いの場づくり事業の実施団体が2団体増加し、17団体となった。(上段から移動)		(B)	指標以外 の内容	高齢者集いの場づくり事業費補助金の対象経費を拡大し、新たに食糧費と送迎に要する経費を追加した。団体の活動に際し、必要と認められるものを対象経費に追加することで、活動を促進した。	指標以外 の内容	
3	福祉 部	●	認知症バ リアフ リーの推 進	認知症サポーター養成講座の開催を推進し、全世代に認知症に対する正しい理解を広めるとともに、本人や支える家族の視点を大事にした支援体制の構築を図る。	③	指標に 基づく 事実	認知症サポーター養成講座を35回開催し、844人を養成した。人口に占める認知症サポーターの割合は13.8%であり、期待値は下回っているが増加している。	B	指標に 関する 内容	・地域包括支援センターと協力し、地域や民間事業所等に働きかけ、講座の周知を図った。 ・認知症サポーターは累計12,626人となった。	指標に 関する 内容	・高齢化の進展に伴い、認知症高齢者数は増加し続けており、認知症に対する理解を広げることが求められている。	◇理容関係や高校に講座の周知を行い、開催回数やサポーターを増やす。 ◇孫世代へや高校生への講座を引き続き開催することで、若年期から認知症に対する知識や対応方法などを広く周知し、認知症に対する理解を深める。
						指標以外 の事実	・認知症VR体験の開催 ・認知症サポーターステップアップ講座の開催(3回)		(B)	指標以外 の内容	・高校生や専門学校生を対象に認知症理解促進のため、認知症VR体験を開催した。 ・専門学校生、高校生の認知症サポーターを対象にステップアップ講座を開催し、内容を深めた。 ・小学生への孫世代のための認知症講座では人型ロボットのベッパーを使用し理解を深めた。	指標以外 の内容	

No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)		成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象：R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇:R7/◆:R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
4	健康 こども部		自殺予防 に向け、 生きるた めの包括 的支援体 制づくり の推進	庁内及び関係機関との連携を強化し、自殺に対する認識の浸透及び自殺防止につながる事業を実施する。また、市民ひとり一人がゲートキーパーとなり、社会全体で自殺防止意識の醸成を図る。	④	指標に基 づく事 実	自殺者数は22名と減少し人口10万人あたりの自殺死亡率は24.0となり期待値にはやや近づいたが目標は達成できていない。	C	指標に 関する 内 容	・新採用職員、全庁職員、市内福祉協力員、民生児童委員、相談員等に向けゲートキーパー養成講座を開催し144名を養成した。 ・中学校3校、高校1校を対象にSOSの出し方・受け止め方の講演会、市民を対象に市民講演会を開催した。 ・企業の保健師、人事担当職員等と情報交換を行った。	指標に 関する 内 容	・自殺者の統計は厚労省及び警察庁が公表しているデータで把握できるが、要因や原因を特定することはできず、分析には限りがある。そのため、部門を超えた幅広い対策が必要。 ・失業・生活困窮等の社会的要因や転職・単身赴任等の生活環境の変化により、こころの健康に変調をもたらす等の自殺リスクの高まりが懸念されている。	◇いのちを支える自殺対策推進会議及び幹事会、ネットワーク会議を開催。 ◇働き盛り世代への支援について、市内企業の産業保健師等との意見交換会を開催。 ◇こころの相談窓口一覧表を新版作成・配布、こころの体温計の配布等メンタルヘルスの啓発に努める。 ◇ゲートキーパー養成講座を新採用職員及び庁内職員向けに継続実施。 ◇中学校の生徒及び教職員、高校生に加え、新たに専門学生を対象にSOSの出し方・受け止め方教室を実施。 ◇市内小中学校、高校、専門学校に厚生労働省が作成した若年層向け普及啓発用ポスターを配布。 ◆健康づくりプランと自殺対策計画の統合した第5次健康づくりプランに基づき、心身の健康を一体的に推進していく。
						指標以外 の事 実			(C)	指標以外 の 内 容		指標以外 の 内 容	
5	福祉 部		ひきこもり支援の 推進	ひきこもりに関するスキルの共有と専門性の向上を図り、併せて、具体的な支援施策に対する意見交換や評価などを行う「ひきこもりネットワーク協議会」を核として、専門性を持つ相談窓口や居場所づくり等のひきこもり支援を継続して実施する。 また、生活困窮に陥る可能性のある「ひきこもり」などの方に対して、自立相談支援機関の「アウトリーチ」による支援を継続して実施する。	⑤⑥	指標に基 づく事 実	⑤ひきこもり支援のための居場所の延利用者数、⑥アウトリーチ支援員等の訪問・出張面談の件数は、期待値を上回っている。	A	指標に 関する 内 容	・「アウトリーチ支援」及び「ひきこもり地域支援センター事業」を委託事業化し、継続的な支援体制を構築した。 ・一般市民や本人・家族に向けた周知・啓発活動(講演会等)を実施したことで、ひきこもりに対しての理解が促進された。	指標に 関する 内 容		◇委託事業を①「ひきこもり相談窓口」と②「居場所事業」に分け、市全体のひきこもり支援の調整機能である①を社会福祉協議会へ、②の主な内容である居場所事業を労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団へ委託し、2法人が中心となり市内のひきこもり支援実施体制を構築している。また、「アウトリーチ機能」を重層的支援体制整備事業の一環として社会福祉協議会へ委託することにより、複合化・複雑化した課題に対する包括的な支援体制の構築を目指す。 ◇引き続き国・県に対しても財政的な支援を含め協力を依頼していることから、今後も継続的な支援体制の構築を目指す。
						指標以外 の事 実	ひきこもりネットワーク協議会をプラットフォームとして、関係機関と市関係部局等のネットワーク機能が拡充されたほか、事例検討を通して顔の見える関係が構築されている。		(A)	指標以外 の 内 容		指標以外 の 内 容	

凡例 ◆実績値 - - - 期待値

指 標 ①		指標の説明								指 標 ②		指標の説明								指 標 ③		指標の説明							
成年後見制度の認知度(介護・障がい福祉サービス事業所)		高齢者・障がい者のサービス提供事業所における制度の認知度								介護予防ボランティア登録者数		ご近所おたすけサポーター養成講座受講者数								人口に占める認知症サポーターの割合		人口に占める認知症サポーターの割合							
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
福祉部	%	実績値	38.0		56	59	58	75		福祉部	人	実績値	209	230	259	331	391	437		福祉部	%	実績値	9.6	10.0	10.3	11.6	12.8	13.8	
		期待値 ※R7は目標値	38.0	45.0	52.0	59.0	66.0	73.0	80.0			期待値 ※R7は目標値	209	258	306	355	403	452	500			期待値 ※R7は目標値	9.6	10.5	11.4	12.3	13.2	14.1	15.0
		備 考		未調査								備 考	累計									備 考							
指 標 ④		指標の説明								指 標 ⑤		指標の説明								指 標 ⑥		指標の説明							
自殺死亡率(人口10万人あたり)		その地域の人口10万人対の自殺者数を示すもの								ひきこもり支援のための居場所の延利用者数		居場所利用者数の延べ人数								アウトリーチ支援員等の訪問・出張面談の件数		生活困窮者自立支援事業における、①自立相談支援 ②就労準備 ③子供の学習支援 ④アウトリーチ相談 ⑤ひきこもりサポート 各事業に係る相談者等の延べ人数。							
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
健康こども部	人	実績値	18.33	19.45	20.57	24.9	27.2	24		福祉部	人	実績値	0	963	1,979	1,955	2,477	2,067		福祉部	件	実績値	156	580	535	395	357	317	
		期待値 ※R7は目標値	18.33	17.78	17.22	16.67	16.11	15.56	15			期待値 ※R7は目標値	0	300	600	900	1200	1500	1,800			期待値 ※R7は目標値	156	172	187	203	219	234	250
		備 考										備 考										備 考							
指 標 ⑦		指標の説明								指 標 ⑧		指標の説明								指 標 ⑨		指標の説明							
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
		実績値										実績値										実績値							
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値							
		備 考										備 考										備 考							
指 標 ⑩		指標の説明								指 標 ⑪		指標の説明								指 標 ⑫		指標の説明							
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
		実績値										実績値										実績値							
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値							
		備 考										備 考										備 考							
指 標 ⑬		指標の説明								指 標 ⑭		指標の説明								指 標 ⑮		指標の説明							
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
		実績値										実績値										実績値							
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値							
		備 考										備 考										備 考							

北上市総合計画 2021～2030 令和7年度基本施策事後評価シート（評価対象期間:令和6年度）

基本方針	7.良好な住環境を支える適切な土地利用と基盤整備
基本施策	7-1.都市と地域の機能強化・ネットワーク戦略の推進
関連するプロジェクト	7.拠点形成・ネットワークプロジェクト

将来的な人口減少時代にあっても持続的に発展し、将来世代が安心して暮らすことができるよう、都市拠点及び地域拠点の形成に取り組み、都市と地域を結ぶより利便性の高い公共交通体系の充実を図ります。

評価項目	A	順調
	B	概ね順調
	C	やや遅れている
	D	遅れている

総合評価
B

R6事後
15

※達成状況評価欄の（ ）内については昨年度の評価結果です。

No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)		成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象:R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇:R7/◆:R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
1	都市 整備 部	●	まちづく りと一体 となった 交通施策	都市計画マスタープランや立地適正 化計画と連携を図り、まちづくりと連 動した公共交通施策を展開するととも に、「利用してみたいくなる」新しい公共 交通を創出する。また、交通インフラと して、拠点間(都市拠点と地域拠点)を 結ぶ公共交通(路線バスやおに丸号な ど)の充実を図る。	①	指標に 基づく 事実	新たにR6年度から、路線バス国道北線の廃止に 対応し、おに丸号相去線の運行を開始した。 またちなか(都市拠点)と地域拠点を結ぶ拠点間交 通の運行地区の割合は100%を維持している。	A	指標に 関する 内容	おに丸号相去線の運行に向けた関係者との調 整を行ったほか、引き続き運行事業者へ運行 費補助等の支援を行い、拠点間交通を維持・ 確保した。	指標に 関する 内容	◇拠点間交通を維持・確保するため運行事業者への補助等を継続す る。 ◇R6年度に実施した公共交通の現状調査・分析結果等を活用し、次 期公共交通計画の策定を行う。 ◆R7年度に策定予定の次期地域公共交通計画に基づき、利便性の 向上、効率的な運行等を図るため、運行事業者との連携及び地域との 協働により適宜見直しを行う。	
						指標以 外の事 実	推進方針に掲げている「利用してみたいくなる」新し い公共交通の実施に向け、乗降調査等を実施し、 現状把握に努めた。	(A)	指標以 外の内 容	路線バスやおに丸号などの乗降調査、市内高 校生の公共交通分担率調査、北工業団地周辺 の人流データ分析等を行った。	指標以 外の内 容		
2	都市 整備 部	●	協働型地 域内交通 の構築	地域内交通を必要とする地域への新 規路線の構築について地域住民と協 働で推進するとともに、運行に対する 支援を行う。	②	指標に 基づく 事実	地域の協働の意向が示された全地区において地 域内交通が運行されている。	A	指標に 関する 内容	運行主体である地域へ運行費補助等の支援を 行い、地域内交通を維持・確保した。	指標に 関する 内容	◇地域内交通を維持・確保するため運行事業者への補助等を継続す る。 ◇公共交通の現状調査、分析を実施し、次期公共交通計画の策定を 行う。 ◆R7年度に策定予定の次期地域公共交通計画に基づき、利便性の 向上、効率的な運行等を図るため、地域、交通事業者と連携する。 ◆地域内交通の成果指標のあり方についても改めて検討し、必要に 応じて見直しを行う。	
						指標以 外の事 実		(A)	指標以 外の内 容	指標以 外の内 容			
3	都市 整備 部	●	幹線交通 の機能確 保	市町村間を跨ぐ路線バスや鉄道につ いては、都市の骨格を形成するもので あることから、今後も維持していくた めの施策(利用促進策や補助等)を実 施する。	③	指標に 基づく 事実	岩手県交通石鳥谷線の利用者数は88,041人(前 年比3,582人減)であり、期待値を下回ってい る。	C	指標に 関する 内容	利用者の減少に対応するため、国庫補助制度 を活用し、岩手県交通石鳥谷線を維持・確保し た。	指標に 関する 内容	◇公共交通の現状調査・分析結果に基づき、次期公共交通計画の策 定を行うなかで、岩手県交通石鳥谷線を維持・確保するため運行事業 者への補助等を継続するほか、市独自の支援も検討していく。 ◇鉄道の利用促進について、JR北上線全線開通100周年事業による 盛り上げりを一時的なものとしないうち、将来利用のきっかけとしての 小学生の乗車体験や沿線自治体の観光資源を活かしたツアー等を実 施する。 ◆R7年度策定予定の次期地域公共交通計画に基づき、交通事業者 と連携し、必要に応じて見直しを行う。 ◆交通事業者と連携し、キャッシュレス決済やデジタルマップの導入 など、より効果的な利用促進策を検討する。	
						指標以 外の事 実	乗降調査等を実施し、現状把握に努めたうえで、 今後の利用促進策について検討を行った。	(C)	指標以 外の内 容	・路線バスの乗降調査、市内高校生の公共交 通分担率調査を行った。 ・現在、特定世代を対象とした利用助成はある が、公共交通の利用者及び今後において利用 可能性がある者のすべてに対して、利用促進 が可能な事業について検討を行った。	指標以 外の内 容		

No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)		成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象：R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇:R7/◆:R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
4	都市 整備 部	●	地域拠点 の形成	「あじさい都市」きたかみを形成するために、他分野の計画及び施策の整合性を図り、まちづくりの方向性を合致させていくとともに、各地域の地域拠点形成の方針に基づき、具体的な施策や取組みを推進していく。	④	指標 に基 づく 事実	人口減少地域内に住宅を取得した方で、補助金を交付した戸数は16戸(立花5戸、黒岩1戸、口内1戸、稲瀬1戸、和賀6戸、岩崎2戸:累計戸数75戸)であり、期待値を超えて推移している。	A	指標 に 関 する 内 容	R3までは人口減少地域の地域拠点内を対象としていたが、R4から人口減少地域内に住宅を取得した方への補助とし、要件を緩和した。	指標 に 関 する 内 容	地域拠点内に農地が多く、建築不可の敷地が多い地域は利用率が伸びていない。	◇人口減少地域における地域拠点の形成と、人口減少を抑制するため、人口減少地域内に住宅を取得した方への補助を継続する。
						指標 以 外 の 事 実	まちなか(都市拠点)と地域拠点を結ぶ拠点間交通の運行地区の割合は100%を維持している。(No.1再記載)	(B)	指標 以 外 の 内 容	おに丸号相去線の運行に向けた関係者との調整を行ったほか、引き続き運行事業者へ運行費補助等の支援を行い、拠点間交通を維持・確保した。(No.1再記載)	指標 以 外 の 内 容		
5	都市 整備 部	●	総合的・ 計画的な 土地利用 の推進	適切な都市的土地利用を促進するため、低未利用地の有効活用を進めるとともに、大規模集客施設等については適切な位置への立地誘導に努めるなど、地域の実情を踏まえた土地利用を進める。 都市拠点の機能再構築に向け策定した未来ビジョンにより、諏訪町一丁目地区や本通り二丁目地区及び北上駅西口周辺の課題解決へ向けた地権者への支援の取組みを推進する。	⑤	指標 に基 づく 事実	※令和6年度末調査 (国勢調査時期に国勢調査区単位で調査するものとなっているため)	B	指標 に 関 する 内 容	ア)都市居住区域の人口密度維持に向けた取組の一環として、都市機能誘導区域外で行う一定の行為に関し、都市再生特別措置法に基づく届出制度を運用した。	指標 に 関 する 内 容	ア)左記の都市再生特別措置法に基づく届出制度に関し、R5年度をピークとし減少傾向に転じており、市内の長屋建設等の開発動向は落ち着きを見せ始めている。	ア) ◇引き続き適切な都市的土地利用を促進するため、都市再生特別措置法に基づく届出制度の運用をはじめ、地域の実情を踏まえた土地利用を進める。 イ) ◇R6年度に引き続き各事業を情報共有すると共に中心部全体の活性化について協議していく。 ◇R6年度に引き続き国土交通省の都市再開発支援事業を活用し、再開発事業の推進に向けたコーディネートを実施していく。 ◇北上駅鍛冶町線のウォークブルの実効性等を検証するための社会実験を行う。 ◇諏訪町地区は、優良建築物等整備事業を活用して、整備を開始する。 ◇R6からR7年度にかけて北上駅前地区のグランドデザインを策定する。 ◇本通り二丁目地区は、実施企業の募集を開始する。 ◆都市計画決定や本組合の設立等の工程に進む。 ◆北上駅鍛冶町線整備事業は、R7年度社会実験の結果、ウォークブル化の効果が確認できた場合概略設計を行う。 ◆北上駅西口地区は事業実施に向けた各種検討を行うとともに、地権者勉強会を継続して開催する。
						指標 以 外 の 事 実	ア)住居系の新築建物の4割以上が用途地域外に立地しており、都市居住区域外での住宅立地が活発な傾向となっている。 イ)未来ビジョンにおいて「まちなかの背骨」と位置付けている北上駅鍛冶町線のウォークブル化に向けた官民連携の会議体による検討の支援を行った。 諏訪町地区及び本通り二丁目地区については、再開発事業に係る地権者勉強会・相談会を開催して支援し、諏訪町地区は優良建築物等整備実施予定者の公募を行い事業者が決定した。 北上駅前地区はグランドデザイン策定に向けたWEBアンケート、高校生ワークショップ、若手職員ワークショップ等を開催した。	(B)	指標 以 外 の 内 容	ア)窓口等において、市内での開発案件に関する土地利用の相談に対し、用途地域や防火地域、都市計画道路の隣接等、都市計画上の規制の範囲内での土地利用となるよう指導を行った。 イ)北上駅鍛冶町線のウォークブル化に向けてはストリートデザイン推進会議において、今後社会実験を行うことについて合意を得た。 諏訪町地区及び本通り二丁目地区の課題解決にむけて準備組合に対し、勉強会・先進地視察・デベロッパーヒアリングの企画支援を行った。 北上駅前地区では、WEBアンケート等により駅前に必要な機能の整理等を行った。	指標 以 外 の 内 容	イ) ・諏訪町一丁目地区市街地再開発等準備組合の案件については、実施予定者が決定した。 ・本通り二丁目地区区市街地再開発準備組合の案件については、市立大学設置と合わせての検討が行われている。 ・建設費や人件費の高騰による影響も強く懸念される。 ・北上駅前地区については、北上開発ビルの整備の方向性を検討するため、開発ビル地権者によるまちづくり協議会が設立された。	
6	健康 こども部	●	通院困難 者への医 療の提供 支援	医療機関が無い地域の住民の通院負担の軽減のため、医療機関と協働でモバイルクリニック事業を推進する。	⑥	指標 に基 づく 事実	件数は目標値に達しなかったが、冬期間には診療、服薬指導の利用者が延びた。高齢世帯では積雪時期の通院負担は大きく、需要が多いことがうかがえた。	B	指標 に 関 する 内 容	・当初、啓発活動や広報等の周知活動に努めたが、なかなか利用にまで繋がらなかった。 ・診療時に機器セッティング等のフォローに入り、医療従事者の負担を軽減した。 ・参画医療機関を増やすために個別に医療機関へ訪問した結果、2医療機関に新たに登録をいただいた。	指標 に 関 する 内 容	・クリニックにて患者さんへの声掛けに尽力いただき、利用件数に繋がった。 ・調剤薬局にて薬の配送は可能でも、送料が自己負担のため、料金によっては敬遠される。 ・診療時の支払い希望の声もある。 ・高齢者をターゲットにしていたが、70代はまだ自身での通院を好む。 ・対象地区外での利用希望者もいるが、駐車場所や無医地区との優先順位等課題も考えられる。 ・定期通院していても医療機関の登録が無いため利用できない方もいる。	◇クリニックからの積極的な声掛けにより利用者を増加させる ◇対象エリア拡大への検証 ◇参画医療機関の増 ◇オンライン決済導入の促進 ◇オンライン服薬指導の促進 ◆費用対効果を意識した事業スキームの検討
						指標 以 外 の 事 実		(C)	指標 以 外 の 内 容		指標 以 外 の 内 容		

No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)		成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象：R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇：R7/◆：R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
7	都市 整備 部		通行空間 の改善強 化	自動車だけではなく、車椅子などを 含めた歩行者、自転車が行きやすい 通行空間を整備、修繕を行う。	⑦	指標に 基づく事 実	自転車通行帯設置距離は、期待値を下回っている。	C	指標に 関する内 容	幹線交通・拠点間交通の維持確保など他の公共交通施策に関する事業を優先しているため。	指標に 関する内 容		◆歩行者や自転車が通行しやすい通行帯を整備することが、公共交通施策に効果的かどうか改めて検討のうえ、必要に応じて見直しを行う。
						指標以 外の事 実	通行しやすい歩道環境整備のため、バリアフリー歩道整備工事(660m)を実施した。		(C)	指標以 外の内 容	都市構造再編集集中支援事業を活用し、北上駅鍛冶町線及び九年橋藤沢線の歩道整備工事を実施した。		
8	企画 部		大学等高等教育機関の設置	(基本施策2-2より再掲) 市内で生まれ育った子どもたちが住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、大学等高等教育機関の設置に向けた研究を進め、市内での進学の見込みを増やすとともに、卒業後は地域産業の担い手として活躍できる環境整備を図る。	⑧	指標に 基づく事 実	・R7年3月に北上市立大学(仮称)基本構想を策定した。	A	指標に 関する内 容	・委員10名で構成する北上市立大学(仮称)基本構想策定委員会を設置・開催し、基本構想案をとりまとめた。	指標に 関する内 容	・中央教育審議会での高等教育の在り方に関する議論と同時期であったため、勘案すべき事項や考え方の参考となった。	◇基本構想に掲げる大学を実現するために必要な施設の規模・機能等を検討・整理する。 ◆施設等整備に関する基本計画を作成する。 ◆大学設置認可申請に向けた準備を進める。
						指標以 外の事 実			(A)	指標以 外の内 容		指標以 外の内 容	

凡例 ●実績値 — 期待値

指 標 ①		指標の説明									指 標 ②		指標の説明									指 標 ③		指標の説明								
まちなか(都市拠点)と16地域拠点を結ぶ拠点間交通の運行		拠点間交通運行地区の割合									地域内交通が運行されている地域数		地域内交通の運行地域数									岩手県交通石鳥谷線の利用者数		年間利用者数(前年10月～当該年9月)								
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
都市整備部	%	実績値	100	100	100	100	100	100		都市整備部	地域	実績値	7	8	8	8	8	8		都市整備部	人	実績値	124,098	133,697	105,755	107,790	91,623	88,041				
		期待値 ※R7は目標値	100	100	100	100	100	100				期待値 ※R7は目標値	7	7	8	8	8	9	9			期待値 ※R7は目標値	124,098	124,082	124,065	124,049	124,033	124,016	124,000			
		備 考										備 考										備 考										
指 標 ④		指標の説明									指 標 ⑤		指標の説明									指 標 ⑥		指標の説明								
人口減少地域地域拠点形成住宅取得支援事業補助金を活用した新築戸数(累計)		人口減少地域内に住宅を取得した方で、補助金を交付した戸数。(R3以前は地域拠点内に限り補助金を交付) R3～7まで毎年12戸を想定									都市居住区域内人口		都市機能誘導区域を囲む形で都市居住区域を定めた区域の人口(駅前とIC周辺) (国勢調査時期に国勢調査区単位で調査)									モバイルクリニック事業の利用件数		年間利用件数(4月～3月)の利用実績								
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
都市整備部	戸	実績値	-	6	17	35	59	75		都市整備部	人	実績値	17,323								健康こども部	件	実績値	-	-	-	-	6	88			
		期待値 ※R7は目標値	-	6	12	24	36	48	60			期待値 ※R7は目標値	17,323	17,313	17,302	17,292	17,282	17,271	17,261	期待値 ※R7は目標値			-	-	-	-	50	100	110			
		備 考										備 考		調査無	調査無	調査無	調査無	調査無	調査予定	備 考												
指 標 ⑦		指標の説明									指 標 ⑧		指標の説明		—							指 標 ⑨		指標の説明								
自転車通行帯設置距離		自転車通行帯の整備延長(累計)									大学等高等教育機関の設置に向けた活動の展開 (基本施策2-2指標①の再掲)		※R7目標値:基本構想及び施設基本設計等設置に関する総合的な計画の完成(誘致の場合は必要に応じた事業者への支援の実施) (基本施策2-2指標①の再掲)																			
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
都市整備部	m	実績値	240	240	240	240	240	240		企画部		実績値			調査研究の実施	調査研究の実施	基本調査の実施	基本構想の策定				実績値										
		期待値 ※R7は目標値	240	1,033	1,827	2,620	3,413	4,207	5,000			期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										
		備 考	諏訪町商店街									備 考							※			備 考										
指 標 ⑩		指標の説明									指 標 ⑪		指標の説明									指 標 ⑫		指標の説明								
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
		実績値										実績値										実績値										
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										
		備 考										備 考										備 考										
指 標 ⑬		指標の説明									指 標 ⑭		指標の説明									指 標 ⑮		指標の説明								
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
		実績値										実績値										実績値										
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										
		備 考										備 考										備 考										

北上市総合計画 2021～2030 令和7年度基本施策事後評価シート（評価対象期間:令和6年度）

基本方針	7.良好な住環境を支える適切な土地利用と基盤整備
基本施策	7-2.市民生活を支える社会インフラの強化
関連するプロジェクト	

平常時も災害時も市民生活を支えるライフラインとしての機能が確保されるよう、地域経済を支える道路ネットワークを整備するとともに、生活環境の整備及び公共施設の長寿命化を着実に推進します。

評価項目	A	順調
	B	概ね順調
	C	やや遅れている
	D	遅れている

総合評価
B

※達成状況評価欄の（ ）内については昨年度の評価結果です。

R6事後
16

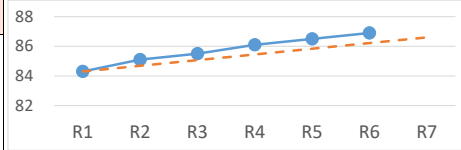
No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)		成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象：R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇：R7/◆：R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
1	都市 整備 部		効率的で 適正な汚 水処理の 推進	処理区域内の水洗化率の向上を図るため、集合処理区域においては融資あっせん制度等、個別処理区域(合併処理浄化槽補助対象区域)については補助金制度等の、より一層の周知の推進を図る。	①	指標に基づく事実	①行政区域内の水洗化率は、86.9%となり、期待値を上回っている。	A	指標に関する内容	①集合処理区域 排水設備改造資金利子補給金3件、公共樹設置(市設置)36件により、水洗化率の向上に繋がった。 ①合併浄化槽区域 合併処理浄化槽設置補助金案内通知961件、同補助金の交付49件、排水設備改造資金利子補給金1件により、水洗化率の向上に繋がった。	指標に関する内容	①民間投資による開発行為6件、公共樹設置(受贈)56件により、水洗化率の向上に繋がっている。	集合処理区域(公共下水道) ◇引き続き、水洗化勧奨文書を送付し、対象区域内の水洗化を促す。また、排水設備改造資金利子補給金により、水洗化率の向上に繋げる。 合併浄化槽区域 ◇合併処理浄化槽設置補助金及び利子補給金について、対象者への通知のほか、広報や本庁モニターへ掲示を行い水洗化率向上に繋げる。 ◇国の浄化槽設置補助金の補助基準額がR8.4月から引き上げられる予定であることから、北上市合併処理浄化槽設置補助金(市単独事業)についても、補助限度額を引き上げる
						指標以外の事実		(A)	指標以外の内容		指標以外の内容		
2	都市 整備 部		耐震診断及び改修費用の支援	昭和56年以前に建築された木造住宅の耐震化を促進するため、耐震診断及び耐震改修に伴う費用の支援を行い、震災に強いまちづくりを推進する。	②	指標に基づく事実	耐震診断実施数は3件、耐震改修実施数は0件であり、期待値を下回った。	C	指標に関する内容	・耐震診断後、耐震改修工事を希望する方も多いが、昭和56年以降に増築している住宅は耐震改修補助対象外であるため、補助制度を利用できる方がいない。 ・耐震改修工事の補助金の上限額が100万円なので、改修事業費の総額に比べ、補助金額が低額となっている。	指標に関する内容	・耐震診断補助金を5件希望しているが、県予算は3件にとどまっている。 ・補助対象となる昭和56年以前に建築された木造住宅が建替えや取壊しにより減少している。	◇県補助を活用した事業であり、全県的に災害に強いすまいづくりに取り組む必要があり、住宅の耐震性の確認と耐震改修の意識啓発を図るため、引き続きホームページや広報等を活用し周知を行う。
						指標以外の事実		(C)	指標以外の内容		指標以外の内容		
3	都市 整備 部		市営住宅の適正な維持管理と供給	市営住宅長寿命化計画により劣化度合や住環境の現状を明らかにし、計画的に施設・設備の改修等を行う。また、民間住宅等の市況を捉え、市営住宅の集約化、廃止を進める。	③	指標に基づく事実	入居率は前年度比では1.3ポイント減(57.7%→56.4%)となり、期待値(67.2%)よりも大幅に低くなっている。	B	指標に関する内容		指標に関する内容	・入居申込件数の増(18件→23件)、退去戸数の減(45戸→40戸(市営住宅間の移転者を除く))となっているが、退去戸数が入居申込件数を上回っているため、全体の入居戸数が減少している。 ・高齢化により1・2階などの低層階住戸を求める人が多いが、空きが出にくく入居につながらない。 ・建物の老朽化により修繕費用が多額にかかり、入居募集を行えない住戸が多数ある。 ・中層住宅の3、4階の入居募集に対し、応募者数が少ない状況である。	◇市営住宅長寿命化計画の見直しを行い、同計画に基づき、引き続き計画的に改修・廃止を行っていく。 ◇市営住宅廃止に伴う民間住宅活用事業の再検討を行う。
						指標以外の事実	・長寿命化計画に基づき、高屋沢住宅1・2号棟給排水等改修工事、荒屋住宅1号棟外壁等改修工事を行った。 ・佐野住宅4棟12戸、春木場住宅2棟8戸の用途廃止を行い、目標戸数(R6年度：20戸)を達成した。	(B)	指標以外の内容	市営住宅長寿命化計画に基づき、計画的に市営住宅の解体を実施できた。	指標以外の内容		

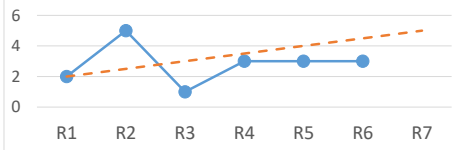
No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)		成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象：R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇:R7/◆:R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
4	都市 整備 部		景観意識の啓発と景観活動の推進及び景観に影響を与える行為の制限等	小中学校の景観学習や市民向けの景観人養成講座を更に推進し、人材育成を図る。 一定規模以上の建築物や開発行為等の造成工事等で景観に影響を与える行為の制限について広く周知及び指導を行い、良好な景観形成を図る。	④	指標に基づく事実	R6年度の景観資産の応募・認定は1件であったが、期待値を上回っている。	B	指標に関する内容	・景観資産の情報発信を実施した。(広報さたかみ、ホームページ、写真展開催)	指標に関する内容	高齢化をはじめとした担い手不足により、景観資産認定団体における活動の維持が困難となってきた。	◇引き続き、子どもたちへの景観学習を更に推進し、景観意識の啓発を図る。 ◇一定規模以上の建築物や開発行為等の造成工事等で景観に影響を与える行為の制限について広く周知及び指導を行い、良好な景観形成を図る。
						指標以外の事実	・景観人養成講座は実施していない。 ・良好な景観形成のために景観賞決定(1件)、景観学習(19回)、行為届出処理(104件)を実施した。	(B)	指標以外の内容	・子供のころから景観に関心を持ってもらう景観学習を優先したため、景観人養成講座は実施しなかった。 ・小学校5校で景観学習を計19回実施した。 ・地域の魅力を高める景観づくりの工夫と実践の理解を深めることを目的として景観フォーラムを開催した。 ・景観賞を審査し、1件を決定した。 ・行為届出処理として、景観形成強化区域15件、その他区域89件の建築物、工作物等の確認を実施した。	指標以外の内容	市HPや窓口等において、景観に影響を与える行為の制限について広く周知及び指導を行った結果、市内での建築物、工作物等の新築、新設等に際し、催告変更命令件数は0であり、景観への配慮が進んでいる。	
5	都市 整備 部		みどりのまちづくり	市街地の見えるみどりを創出する。 幅広い年代を対象とした講習会の実施、緑化のとりくみや公園の活用に関する情報の発信に努める。	未設定	指標に基づく事実		C	指標に関する内容		指標に関する内容		「みどりのまちづくり事業」 ◇令和7年度にみどりのまちづくり事業内容の再検討実施。 「桜守事業」 ◇身近なみどりの保全、展勝地等への愛着をより一層深めてもらうため、引き続き普及啓発事業を継続していく。 ◆桜守事業の内容再検討。
						指標以外の事実	・「みどりのまちづくり事業費補助金」の申請数:1件 ・桜守事業として、樹木管理アドバイザーによる講演会、展勝地桜並木剪定講習会、展勝地公園お花見広場及び東陵中学校敷地内の桜の施肥作業講習会により、身近なみどりの保全についての普及啓発を実施した。(全2回、参加者延べ186名)	(C)	指標以外の内容	・「みどりのまちづくり事業費補助金」について、補助対象経費の拡大・補助上限額の引き上げを行ったが、申請件数が伸び悩んだ。 ・緑化の取り組みとして、桜守事業を一般企業や中学生をまきこんだ事業を実施し、多くの方に参加いただいた。	指標以外の内容	・近年、新築・増改築や外構工事等の件数が少なく、植栽が行われることも少ない。 ・近年、宅地面積が狭い土地が多く、植栽を設置する場所の確保が難しい。 ・イシツブテ公園の開園に伴い、桜並木への注目度が従来より上がった。	
6	都市 整備 部		空き家対策の推進	空き家バンクや補助制度等の活用による空家等の利活用の促進を図るとともに、危険空き家等への対策を強化していく。	⑥⑦	指標に基づく事実	⑥バンク登録件数(延べ数)は、期待値を上回る実績となった。(期待値63、実績値94、前年度比プラス18)。 ⑦補助金交付件数(延べ数)は、期待値を大幅に超え、3年連続で期待値を上回った(期待値43、実績値95、前年度比プラス33)。	A	指標に関する内容	⑦周知等の結果、解体補助及び整備補助は前年度に引き続き需要が高い。また、移住者や39歳以下を対象とした取得補助に2件、改修補助については2件の交付決定を行った。また、R6年度から運用開始した危険空き家等除却補助(交付決定1件)により、危険度の高い空き家の解体も徐々に進められている。	指標に関する内容	⑥整備補助対象者が空き家バンクに登録することで登録数の増加につながっている。 ・資材費や人件費の高騰により、新築のイニシャルコストの観点から、空き家の需要が増えてきているものと推察される。	◇空き家バンクを継続して運営していく。 ◇管理不全空家等に対するガイドライン(R6年度策定)に基づき、管理が十分でない空家等を管理不全空家等に認定し、指導・勧告を行ったうえで、必要な措置に対応しない場合、住宅用地特例の対象から除外する。 ◆相続人不存在の空き家について相続財産清算人を選任し、当該空家等の適切な処分・活用を図る。
						指標以外の事実		(B)	指標以外の内容		指標以外の内容		

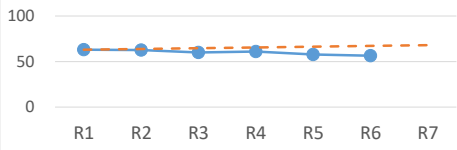
No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)		成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象：R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇：R7/◆：R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
7	都市 整備 部		公園緑地の整備及び適正な維持管理と長寿命化	未整備となっている街区公園(4公園)の整備計画策定に着手する。 公園施設長寿命化計画に基づき、老朽化した公園施設の更新を図る。 樹木管理アドバイザーの指示のもとに桜並木の計画的な管理を行い、長寿命化を図る。	⑤	指標に基づく事実	都市公園の長寿命化対策数は、期待値に対して9割程度の進捗まで上昇。	B	指標に関する内容	・公園整備事業から長寿命化事業へ資源を振り向けたことにより、事業進捗が向上。	指標に関する内容	・物価高騰に伴い、工事価格が上昇しており、予定の工事発注を行わないため、期待値に届いていない。	◇公園長寿命化計画(旧)に基づいた、対策工事の実施。 ◇R6年度に策定した公園施設長寿命化計画に基づき、R8年度の整備内容を検討する。 ◇展勝地公園お花見広場、陣ヶ岡、桜づつみ線などの展勝地桜並木以外の桜スポット等について、育成管理計画を策定。 ◇未整備街区公園4公園の整備計画を策定する。 ◆展勝地公園お花見広場、陣ヶ岡、桜づつみ線などの展勝地桜並木以外の桜スポット等の長寿命化計画に着手する。
						指標以外の事実	・4公園の整備計画策定検討に着手済み。 ・桜管理アドバイザーの指示のもと、市立公園展勝地の桜並木長寿命化対策工事(土壌改良)をR6年度62本実施。		(B)	指標以外の内容	・整備計画については策定に向けて、基礎資料収集等、実施。 ・アドバイザーの指導の下、計画通り桜並木長寿命化対策を実施。	指標以外の内容	
8	都市 整備 部		駐車場の適正な管理運営	老朽化が進む本通り駐車場の適正な維持管理のため、計画的な修繕・更新工事を推進する。	未設定	指標に基づく事実		B	指標に関する内容		指標に関する内容		◇本通り駐車場西館車路防滑改修工事 ◇本通り駐車場区画線塗装修繕工事
						指標以外の事実	・東館6～7階の車路防滑工事、東館1階のスロープ防水改修工事を実施した。 ・精算機改修工事、入出口シャッター修繕工事等を実施した。		(B)	指標以外の内容	指定管理者との合同会議を開催し、修繕更新計画を更新。	指標以外の内容	
9	都市 整備 部		道路整備	交通量が増加し、渋滞が発生していることから、計画されている市道整備を実施するなど、幹線整備をしていく。 整備が必要な生活道路等については、要望する地域が自主的に地権者協議等を行い、実施可能性、将来的に見込まれる利用者数などを考慮して優先順位付けを行うなど、条件が整い次第、道路整備を実施する。また、地域独自で舗装等を行う場合には、支援を行う。	未設定	指標に基づく事実		B	指標に関する内容		指標に関する内容		○幹線道路 ◇林崎蒲谷地線：用地補償 ◆林崎蒲谷地線：R11完成予定 ◇川原町南田線：道路改良、橋梁詳細設計 ◆川原町南田線：R9完成予定 ◇飯豊成田線：道路詳細設計、用地測量 ◆飯豊成田線：R12完成予定 ○生活道路 ◇生活道路整備手法の見直しを行い、事業費のコスト削減を図る。 また、事業期間の延伸を行い計画完了時期をR12→R17とする。 (各地区に対し説明会を実施中 8/6時点で10地区/16地区完了) ◇着手済み9路線 うち、整備完了8路線、 （新規0件） みちづくり事業 1地区 ◆生活道路整備事業 未着手路線41路線を着手予定
						指標以外の事実	○幹線道路 ・林崎柳田線の整備(用地補償) ・川原町南田線の整備(道路詳細設計) ・飯豊成田線(道路予備設計) ○生活道路 ・生活道路等整備予定数(R3～R12) 50路線 うち、整備着手 9路線 うち、整備完了 3路線、 ・みちづくり事業 3地区実施		(B)	指標以外の内容	○幹線道路 社会資本整備総合交付金及び旧デジタル田園都市国家構想交付金が採択されたことにより概ね順調 ○生活道路 ・生活道路整備： 前計画からの未完了路線(14路線)を優先的に整備していたため現計画50路線の進捗に遅れが生じている。(R6時点で前計画は14路線中13路線が完了) ・交付金を充てて事業をすることを前提としており、用地買収や補償費により事業費が増大している。	指標以外の内容	

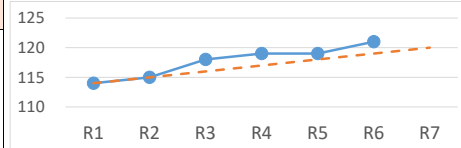
No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)		成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象：R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇:R7/◆:R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
10	都市 整備 部		国県道、 河川整備 等に関する 要望	道路・河川整備については、他市町・民間企業等と協力しながら、或いは北上市単独で国や県に対して地域の安心安全を確保するための大規模な社会資本整備を要望していく。	⑧	指標 に基 づく 事実	国道4号北上拡幅については、R5年度に500m供用開始し、R7年度の全線開通に向けて工事を進めている。北上花巻拡幅については、用地取得・工事に着手いただいている。	B	指標 に 関 する 内 容	年2回、期成同盟会の幹事市として、各所への要望活動で必要性を訴えた結果、予算が確保される等4車線拡幅事業に影響を及ぼしている。	指標 に 関 する 内 容	防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策により事業が促進されている。	◇北上拡幅が全線供用開始される見込みであることから、残り区間についても早期に完成してもらうよう引き続き要望活動を行っていく。 ◇市道川原町南田線及び市道飯豊成田線について支援を要望していく(新しい地方経済・生活環境 創生交付金の要望)
						指標 以外 の 事 実	・秋田自動車道:大曲IC～北上西ICが事業化(横手北～大曲ICがR6.3に新規事業化) ・市道川原町南田線、市道飯豊成田線が旧デジ田採択		(B)	指標 以外 の 内 容	主に下記の内容で要望会を開催した。 ・秋田自動車道四車線化促進期成同盟会:5月、10月 ・北上金ケ崎パシフィックルート整備促進期成同盟会:11月 ・東北横断自動車道釜石秋田線北上JCT江刺田瀬IC間整備促進期成同盟会:11月 ・旧デジ田にかかる単独要望:9月 ・その他21の期成同盟会や協議会の要望会等の活動に参加	指標 以外 の 内 容	
11	都市 整備 部		橋梁長寿 命化修繕	点検の結果、橋梁修繕工事の必要性について順位付けを行い、長寿命化を行っていく。橋梁修繕工事については、国の助成を利用して計画的に実施していく。	未設定	指標 に基 づく 事実		B	指標 に 関 する 内 容		指標 に 関 する 内 容		◇(予定) 補修完了済橋梁数:8橋 補修着手済橋梁数:4橋 補修未着手橋梁数:23橋 (R7新規着手:1橋) ◆今後も引き続き点検により修繕が必要と判断された橋梁の修繕工事を計画に基づき実施していく。 一方で、JR跨線橋の修繕及び耐震補強に多額の費用がかかるため、小規模の橋梁の補修工事の着手に遅れが生じる可能性がある。
						指標 以外 の 事 実	補修予定橋梁数 35橋 うち、補修完了橋梁数 5橋 補修着手済橋梁数 6橋 補修未着手橋梁数 24橋		(B)	指標 以外 の 内 容	・橋梁修繕工事は概ね実施でき順調である。 ・JR跨線橋については、補修工事をJRに委託し実施しているが、跨線橋の補修工事に費用を優先的に配分している。	指標 以外 の 内 容	

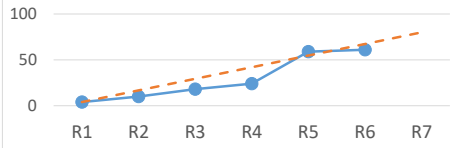
凡例 ●実績値 —期待値

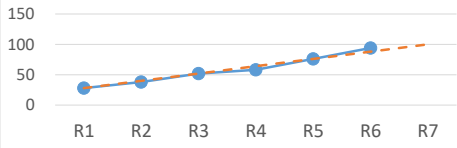
指 標 ①		指標の説明								
処理区域内水洗化率	行政区域内における水洗便所設置済人口の割合。									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
都市整備部	%	実績値	84.3	85.1	85.5	86.1	86.5	86.9		
		期待値 ※R7は目標値	84.3	84.7	85.1	85.5	85.8	86.2	86.6	
		備 考								

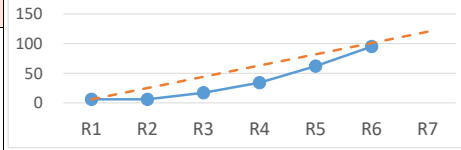
指 標 ②		指標の説明								
耐震診断・耐震改修実施数	木造住宅耐震診断支援事業を利用した件数									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
都市整備部	件/年	実績値	2	5	1	3	3	3		
		期待値 ※R7は目標値	2	2.5	3	3.5	4	4.5	5	
		備 考								

指 標 ③		指標の説明								
市営住宅入居率(管理戸数に対する入居戸数の割合)	市営住宅管理戸数に対する入居戸数の割合									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
都市整備部	%	実績値	63.0	62.6	60.0	61	57.7	56.4		
		期待値 ※R7は目標値	63.0	63.8	64.7	65.5	66.3	67.2	68.0	
		備 考								

指 標 ④		指標の説明								
きたかみ景観資産の認定数	きたかみ景観資産の認定を行った件数									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
都市整備部	件	実績値	114	115	118	119	119	121		
		期待値 ※R7は目標値	114	115	116	117	118	119	120	
		備 考								

指 標 ⑤		指標の説明								
都市公園の長寿命化対策数累計(補助対象(遊具等更新))	長寿命化計画における都市公園施設長寿命化対策(更新)必要数									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
都市整備部	施設	実績値	4	10	18	24	59	61		
		期待値 ※R7は目標値	4	17	29	42	55	67	80	
		備 考								

指 標 ⑥		指標の説明								
空き家バンク登録延べ件数	空き家バンクに売買・賃貸物件として登録した件数									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
都市整備部	件	実績値	28	38	52	58	76	94		
		期待値 ※R7は目標値	28	40	52	64	76	88	100	
		備 考								

指 標 ⑦		指標の説明								
空き家利活用促進事業補助金交付延べ件数	補助金を利用して改修・解体を実施した件数									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
都市整備部	件	実績値	6	6	17	34	62	95		
		期待値 ※R7は目標値	6	25	44	63	82	101	120	
		備 考								

指 標 ⑧		指標の説明		—						
国道4号線等の4車線化	2車線区間の4車線化									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
都市整備部		実績値	一部2車線	一部2車線	一部2車線	一部2車線	一部2車線	一部2車線		
		期待値 ※R7は目標値							拡幅事業着手	
		備 考	拡幅未着手	拡幅未着手	拡幅未着手	拡幅着手	拡幅着手	拡幅着手		

指 標 ⑨		指標の説明								
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
		実績値								
		期待値 ※R7は目標値								
		備 考								

指 標 ⑩		指標の説明								
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
		実績値								
		期待値 ※R7は目標値								
		備 考								

指 標 ⑪		指標の説明								
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
		実績値								
		期待値 ※R7は目標値								
		備 考								

指 標 ⑫		指標の説明								
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
		実績値								
		期待値 ※R7は目標値								
		備 考								

指 標 ⑬		指標の説明								
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
		実績値								
		期待値 ※R7は目標値								
		備 考								

指 標 ⑭		指標の説明								
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
		実績値								
		期待値 ※R7は目標値								
		備 考								

指 標 ⑮		指標の説明								
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
		実績値								
		期待値 ※R7は目標値								
		備 考								

北上市総合計画 2021～2030 令和7年度基本施策事後評価シート（評価対象期間:令和6年度）

基本方針	8.環境にやさしい、安全・安心な暮らしの形成
基本施策	8-1.防災・減災対策と安全対策の強化
関連するプロジェクト	8.私から始める減災プロジェクト

安全な住環境を形成するため、日頃から市民・地域・行政の連携強化を図り、交通安全・防犯意識、地域防災力・防災意識を高めることにより、事故や事件を未然に防ぐとともに、災害時の被害を抑える安全・安心なまちづくりに取り組みます。

評価項目	A	順調
	B	概ね順調
	C	やや遅れている
	D	遅れている

総合評価
C

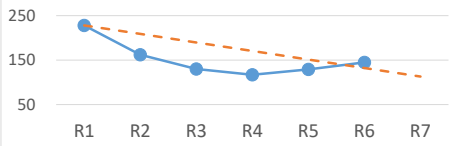

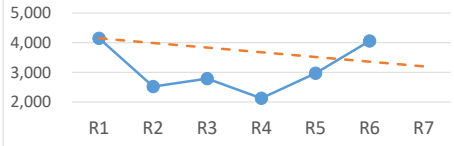
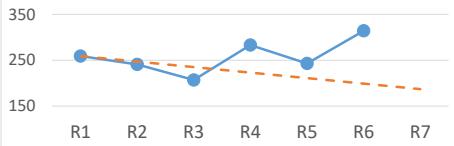
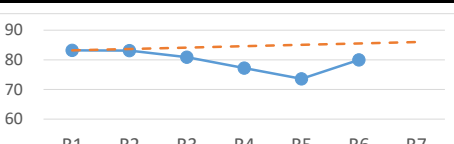
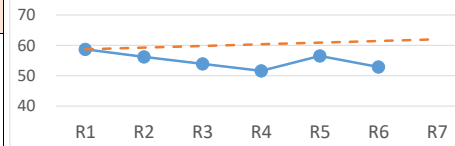
※達成状況評価欄の（ ）内については昨年度の評価結果です。

R6事後
17

No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)		成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象:R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇:R7/◆:R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
1	まち づく り部		交通安全 対策の推 進	あらゆる世代を対象とした交通安全教育を実施するとともに、自己の身体能力を正しく理解できるよう参加、体験、実践型の交通安全教室を推進し、高齢者の事故防止対策を図る。また、信号機など交通安全施設の設置・改善について、積極的な取組を進めていく。	①	指標に基づく事実	・全体の人身事故発生件数は16件増加。 ・歩行者の人身交通事故件数は3件減少。 ・高齢者事故件数は13件増加。	B	指標に関する内容	・各地区の交通量が多い横断歩道において、交通指導員による啓発活動を実施。 ・幼児から高齢者までの幅広い世代を対象に、交通安全教室を104回実施。 ・交通事故の発生が多い薄暮時間帯において、ライト早め点灯活動を市内各地で実施。	指標に関する内容	・市内高齢者数が増加した。R5年4月:25,899人→R6年4月:31,403人(5,504名増) ・交通安全白書によると「一般的に加齢による身体機能や認知機能の変化が運動に影響を及ぼし、車両単独事故等の割合を高くしている」とあることから、高齢者数の増加に伴う事故件数への影響が危惧される。	◇高齢者向け実践体験型の交通安全教室実施 ◇反射材の配布活動や、ドライバーに対するライト早め点灯活動等の啓発活動強化 ◇◆来年度から自転車利用者に対する罰則が強化されることから、啓発や広報媒体配布による周知強化 ◆高齢者事故防止対策として、啓発映像の地域貸し出し促進
						指標以外の事実	各地区において、高齢者の事故防止対策として交通安全教室を実施し、啓発チラシや反射材等も交付した。	(B)	指標以外の内容	・モデル地区において、高齢者に対して、交通安全シミュレーション機材を活用した交通安全教室を実施。	指標以外の内容	・金ケ崎線の路線廃止やバス本数の減少がしているため、高齢者の生活の足としての自動車運転機会が増加するため交通安全対策の必要性が高まっている。	
2	まち づく り部		防犯対策 の推進	地域や関係団体と連携・協力して見守り活動等を実施し、犯罪の起こりにくい環境を整えるとともに、特殊詐欺の手口や犯罪の被害状況、被害防止対策等を周知し、防犯意識の高揚を図る。また、暴力団追放の気運を高めるため、イベントや広報活動を推進する。	②	指標に基づく事実	刑法犯認知件数は、昨年に比べて増加した。(R5:243件→R6:314件)	C	指標に関する内容	・防犯隊による定期的な巡回(109名、延べ1,362回)、少年センター少年補導員による補導活動(140回)、専任補導員による補導活動(448回)を実施した。	指標に関する内容	・侵入窃盗及び乗物盗の件数が上昇した。R5:49件→R6:117件(68件増) ・特に無施錠での乗物盗の件数が増加している。R5:24件→R6:73件(59件増) ・施錠被害件数は横ばいの事から、無施錠被害の増加が主な要因と考えられる。 ・コロナ禍での行動制限が緩和されたことが要因ではないかと考える。	◇◆乗り物の無施錠被害を減らすため、学校や駅駐輪場で鍵かけ点検及び啓発活動実施 ◇◆高齢者への特殊詐欺防止のため、防犯隊による高齢者訪問事業の実施 ◇◆暴力団追放のため、啓発活動の継続(飲食店訪問、広報誌の送付) ◇◆住宅の無施錠被害を減らすため、広報や訪問活動等を実施
						指標以外の事実	①特殊詐欺被害発生件数は、昨年に比べて増加した。(R5:3件→R6:4件) ②暴力団の市内進出は確認されていない。	(B)	指標以外の内容	・北上市防犯協会として、市内高齢者世帯4,676戸に対し、施錠推進や特殊詐欺被害防止訪問活動を実施した。 ・北上市地域安全推進市民会議により、暴力団追放活動として、飲食店への啓発や広報紙「暴追いわて」を配布した。	指標以外の内容	・全国的に匿名・流動型犯罪グループ(トクリュウ)、闇バイト、SNS詐欺等が増加している。 ・暴力団自体は暴力団追放の全国的な展開により減少している。	
3	福祉 部	●	災害時における避難支援体制の整備	個別避難支援計画を活用するなど地域の自主防災組織や民生委員等が連携を図り、避難支援体制を整える。福祉避難所について、介護保険施設等との協定締結を進める。	③	指標に基づく事実	年度末の避難行動要支援者同意者のうち地域支援者(協力者)が決まっている人の割合は52.9%であり、期待値を下回った。	C	指標に関する内容	・個別避難支援計画推進のため、名簿提供を同意した要支援者全員の個別プランを作成した。 ・自主防災組織や民生委員に個別プランを共有し、地域防災への活用や地域支援者の協力等、避難支援体制の連携を図った。 ・個別プランの新規作成や更新にあたり、地域支援者について周知を行い、避難行動要支援者近隣住民の地域支援者についての理解等の浸透に努めた。	指標に関する内容	・同意者に対する避難支援者の登録数が伸びなかった。 ・避難行動要支援者本人が、地域支援者を探して、承諾を得るには限界がある。 ・避難行動要支援者近隣住民の地域支援者についての理解等を図る取り組みが必要である。	◇要支援者本人や避難支援関係者等に理解を深めてもらうよう、広報や訪問を通した制度の周知活動を行う。 ◇協定未締結の介護事業所等に対して、福祉避難所への協力依頼及び福祉避難所再生可能エネルギー補助金を周知し、協定締結を促進する。 ◆避難行動要支援者本人が地域支援者を探すことには限界があることから、自主防災組織等の組織による支援や、スマホアプリ等を活用した支援体制を検討する。
						指標以外の事実	福祉避難所について、箇所数の増減はなかった。	(B)	指標以外の内容		指標以外の内容	・福祉避難所に協力可能な事業所についてはすでに協定を締結済であるが、その他の事業所については、人的不足や施設内のスペース等の要因により、協定締結が難しい状況にある。	

No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)		成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象：R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析			今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇:R7/◆:R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)	
4	企画 部	●	防災力の 強化	防災訓練を実施し、その経験を共有しながら、市民や地域、事業者等がお互いに連携・協力して災害に対する備えや災害発生時に災害活動が行える体制を構築するとともに、独自の自主防災マスター制度により各地域の自主防災リーダーを育成し、地域防災力の向上を図る。 近年の激甚化する災害対応のため、防災計画、備蓄計画等の随時見直しを進め、避難者の受入体制強化を図る。	④⑥	指標に基 づく事 実 ④自主防災組織の防災訓練実施率の調査は、R7調査予定である。 ⑥市民意識調査「災害時の避難経路を知っている割合」は、前回(R5)よりも0.7%上がった。	B	指標に 関す る内 容 ④要請のあった自主防災組織の防災訓練に参加し、避難所開設運営訓練や、備蓄に関する啓発活動を支援した。 ⑥コロナ禍により控えていた出前講座や対面型の説明会などの機会を増やし、市民に向けた普及啓発に取り組むことが出来た。	指標に 関す る内 容 ⑥コロナ禍により縮小していた自主防災組織としての活動が再開し始めており、防災訓練や地域への啓発活動などの再開、それに向けた準備を進める動きがみられた。	◇北上市総合防災訓練の実施 ◇自主防災組織研修会の開催 ◇自主防災マスター認定者向け講習及び新規認定講習 ◇地域防災計画の修正 ◇ハザードマップの全戸配布、転入者等への配布 ◇ハザードマップの見方や活用方法など再周知ほか積極的な情報発信		
					指標以 外の 事 実 ・毎年開催している自主防災マスター講習会では、新規取得者34名、更新者62名が受講した。令和6年度末時点で、自主防災マスター認定者は174名、認定者が1人以上いる自主防災組織は113組織中103組織(充当割合91%)となった。 ・毎年1回開催している、市自主防災組織研修会では、鬼柳地区の防災訓練事例発表や水害時の自主防災活動の意見交換、水害対策の実技訓練等を行い、80人(57組織)の参加があった。 ・防災士養成研修は、7人が受講した。 ・市総合防災訓練は台風接近により中止した。	(B)		指標以 外の 内 容 ・自主防災マスター講習については、地域への働きかけ等を通じ、認定期間満了に伴い更新しない人もいる中で、昨年度と同じ充当割合を維持することが出来た。 ・県が主催する防災士養成研修について、自主防災組織から推薦された受講希望者の受講費を負担しており、受講希望者は増加している。	指標以 外の 内 容 近年多発する大雨による災害に対する自主防災組織の活動に関する研修としたことで関心も高く、多くの参加があった。			
5	企画 部	●	消防団の 強化	消防団員向けの各種支援策や地域の協力を得ながら地域防災の活動主体となる消防団員数の維持を図るとともに、消防演習や災害防御訓練等の訓練により災害対応力の向上を図る。	⑤	指標に基 づく事 実 前年度に比べて消防団員の確保率が6.4ポイント上昇した。	B	指標に 関す る内 容 ・消防団員の確保に向けて、周知(チラシ作成、ポスター掲示等)や団員へ協力を依頼した。 ・消防団員の再入団や退団者の受け皿となる機能別消防団員制度を導入し、消防団員の維持を図った。	指標に 関す る内 容 ・就業構造の変化や人口減少により、消防団員の担い手が不足している。	◇消防団員の担い手確保 ◇消防団活動状況や魅力の発信 ◇消防団員の負担軽減策(行事の見直し等)の検討 ◇消防団員の処遇改善策の検討 ◇訓練等を定期的に実施し、災害対応力を強化 ◇DXの推進		
				指標以 外の 事 実 ・消防演習、消防操法競技会や災害防御訓練を実施し災害対応力の向上を図った。 ・北上市消防団協力事業所として登録されている10事業所の認定を更新した。 ・消防団応援の店として2事業所を新規登録した。	(B)	指標以 外の 内 容 ・消防演習及び災害防御訓練については、効果的な訓練等となるよう、内容及び実施方法を工夫した。 ・広報等により、消防団応援の店の募集を行った。		指標以 外の 内 容				
6	企画 部		消防力の 維持・強 化	計画的な消防車両の更新、建物の維持管理により、消防・救急体制の維持・強化を図るとともに、救急救命講習等を普及させることにより救急車が到着するまでの間の応急手当能力の向上を図る。 また、消防団車両、消防屯所の計画的な更新を行うとともに、消防水利の維持管理に取り組み消防力の維持を図る。	⑤⑦	指標に基 づく事 実 ・前年度に比べて救急救命講習の受講者数は1,092名増加し、期待値を上回った。	A	指標に 関す る内 容 ・救急救命講習の普及に向けて、市や北上地区消防組合の公式ホームページ、SNS等で周知した。	指標に 関す る内 容 ・新型コロナウイルス感染症の収束により、コロナ禍以前の水準まで救急救命講習の受講者が増加した。	◇消防団車両、消防屯所の計画的な更新 ◇消防水利の維持管理		
				指標以 外の 事 実 ・消防屯所1棟、ホースポール1箇所を整備したほか、3台の消防団車両を更新した。 ・関係部署と調整し、消防水利の計画的な施設整備(消火栓5基)を図った。	(B)	指標以 外の 内 容 消防力維持のため、計画的に消防団車両や消防水利の必要な修繕や更新を行った。		指標以 外の 内 容				

凡例 ●実績値 —期待値

指 標 ①		指標の説明									
交通事故(人身)発生件数		各年1～12月における交通事故(人身事故に限る)の発生件数									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
まちづくり部	件	実績値	228	162	130	117	129	145			
		期待値 ※R7は目標値	228	209	190	171	151	132	113		
		備 考									
指 標 ④		指標の説明									
自主防災組織の防災訓練実施率		防災訓練や防災学習(ハザードマップの見方)等を実施している自主防災組織数／全自主防災組織数									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
企画部	%	実績値	60.2	61.8		48.7					
		期待値 ※R7は目標値	60.2	61.8	63.5	65.1	66.7	68.4	70		
		備 考			未実施	R5調査実施	未実施	R7調査予定			
指 標 ⑦		指標の説明									
救急救命講習受講者数		消防組合が開催する救急救命講習の受講者数									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
企画部	人	実績値	4,149	2,521	2,786	2,123	2,967	4,059			
		期待値 ※R7は目標値	4,149	3,991	3,833	3,675	3,516	3,358	3,200		
		備 考									
指 標 ⑩		指標の説明									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備 考									
指 標 ⑬		指標の説明									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備 考									
指 標 ②		指標の説明									
刑法犯認知件数		各年1～12月における刑法犯認知件数									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
まちづくり部	件	実績値	259	241	207	283	243	314			
		期待値 ※R7は目標値	259	247	235	223	211	199	187		
		備 考									
指 標 ⑤		指標の説明									
消防団員の確保率 (団員数／条例定数)		条例定数に対する在籍消防団員数の割合(当該年度末時点)									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
企画部	%	実績値	83.2	83.1	80.9	77.2	73.6	80.0			
		期待値 ※R7は目標値	83.2	83.7	84.1	84.6	85.1	85.5	86.0		
		備 考									
指 標 ⑧		指標の説明									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備 考									
指 標 ⑪		指標の説明									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備 考									
指 標 ⑭		指標の説明									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備 考									
指 標 ③		指標の説明									
避難行動要支援者同意者のうち地域支援者が決まっている人の割合		年度末の避難行動要支援者同意者のうち地域支援者(協力者)が決まっている人の割合									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
福祉部	%	実績値	58.7	56.2	53.9	51.6	56.5	52.9			
		期待値 ※R7は目標値	58.7	59.3	59.8	60.4	60.9	61.5	62.0		
		備 考									
指 標 ⑥		指標の説明									
災害時の避難経路を知っている割合(市民意識調査)		市民意識調査で知っていると回答した人数／市民意識調査の回答者数									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
企画部	%	実績値	46.0	49.7		51.5	47.7	48.4			
		期待値 ※R7は目標値	46.0	51.7	57.3	63.0	68.7	74.3	80.0		
		備 考			未実施						
指 標 ⑨		指標の説明									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備 考									
指 標 ⑫		指標の説明									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備 考									
指 標 ⑮		指標の説明									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備 考									

北上市総合計画 2021～2030 令和7年度基本施策事後評価シート（評価対象期間：令和6年度）

基本方針	8.環境にやさしい、安全・安心な暮らしの形成
基本施策	8-2.循環と共生による持続可能な社会形成
関連するプロジェクト	

豊かな自然と都市空間が共生する住みよい住環境の実現に向け、自然環境保全と地域に応じた再生可能エネルギーの普及とともに、資源循環型社会に向けた取組を推進します。また、企業活動に伴う環境影響や日常生活で生じる悪臭や騒音等を防止し、より良い地域環境づくりに取り組みます。

評価項目	A	順調
	B	概ね順調
	C	やや遅れている
	D	遅れている

総合評価
A

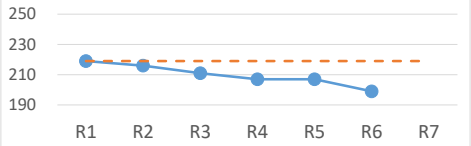
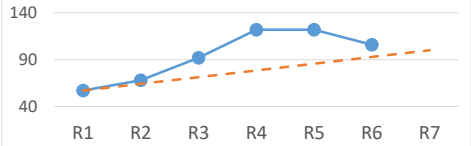
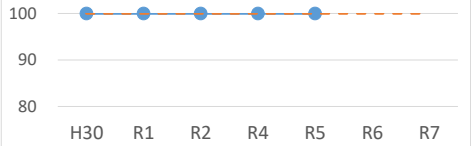
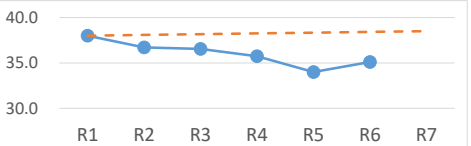
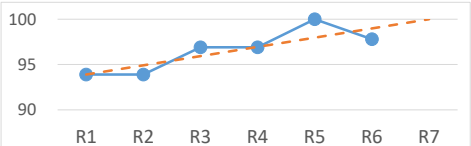
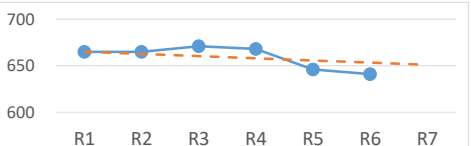
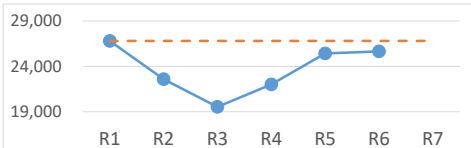
※達成状況評価欄の（ ）内については昨年度の評価結果です。

R6事後
18

No.	担当部等	プロジェクト	推進方針(R6)		成果指標	推進方針に対する達成状況(対象：R6)		達成状況評価	達成状況に至る要因の分析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇:R7/◆:R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
1	生活環境部		花いっぱい運動の推進	環境美化意識の向上、地域コミュニティの活性化を維持するため、活動内容についてより効率的・効果的な方法を取り入れ、少ない人数や個人でも取り組みやすい事業展開を行い、潤いある緑豊かなまちづくりを推進する。	①	指標に基づく事実	花苗配布団体数は減少傾向で期待値を下回っている。	B	指標に関する内容	広報や市ホームページ等により配布団体の募集を行ったが、新規申込数より辞退数が上回り、結果として花苗配布団体数が減少した。	指標に関する内容	高齢化や少子化により地域コミュニティが縮小傾向にあり、地域花壇の維持管理が難しくなっている。	◇花苗配布団体の増加を図るため、周知先の拡大や周知方法について検討する。 ◇各講習会は継続して実施する。
					指標以外の事実	・講習会、しらゆり植栽地の整備、花いっぱいコンクール及び市民集会を開催した。 ・コンクール参加団体数は横ばい(R5:64団体→R6:64団体)で、講習会参加者数は減少(R5:155人→R6:132人)した。	(B)	指標以外の内容	地域住民を対象にした講習会を開催しているが、開催場所が毎年異なるため、地域によって参加人数に差がある。	指標以外の内容	毎年講習会や花壇コンクールに参加する市民・団体もあり、花いっぱい運動に関する市民意識は一定程度定着していると思われる。		
2	生活環境部		省エネ行動と再生可能エネルギー利用の推進	子ども向け教室や出前講座等で再生可能エネルギーや環境問題に対する理解を深め、自然に省エネ行動ができる環境配慮型の人材を増やしていく。 かむいソーラーの売電収益を活用した公共施設の省エネ化を進め、効果を市民に周知するとともに、太陽光発電等の再生可能エネルギーを導入しようとする市民を支援し、カーボンニュートラルの実現を目指す。	②	指標に基づく事実	再生可能エネルギー設備(太陽光・蓄電池)の導入について、個人住宅への補助金交付件数が期待値を達成している。	A	指標に関する内容	北上市住宅用おひさまパワー活用設備設置費補助金の補助内容を広報等で周知したことにより、再生可能エネルギー設備の導入を検討する市民にしっかりと情報が届いている。	指標に関する内容	気候変動による全国的な異常気象や災害の発生を受け、市民の再生可能エネルギー設備の関心が高まっている。	◇おひさまパワー活用設備設置費補助金を継続して実施 補助金の交付に係る申請件数は年々増加しており、住宅へ再生可能エネルギーを導入する市民ニーズは高まっている。 ◇きたかみこども未来塾については、夏・冬休みの開催が難しく、申込者が減少し事業の継続が難しくなっていることから今後の事業実施について検討する。 ◇エコチャレンジについては児童及び保護者が省エネや温暖化対策について家庭で考える機会を提供しているため継続して実施する。
					指標以外の事実	小学生を対象にきたかみこども環境未来塾とエコチャレンジを実施し、再生可能エネルギーや環境問題に対する理解を深めた。	(A)	指標以外の内容	きたかみこども環境未来塾は対象学年の児童にチラシを配布し周知を行った。 エコチャレンジは定着しており、市内全小中学校で取り組めた。	指標以外の内容	きたかみこども環境未来塾は講師との日程調整により開催日の調整が難しくなっている。		
3	生活環境部		環境監視の充実と公害防止対策の推進	環境保全協定の締結事業所を中心に立入検査や立入測定による訪問指導を継続するとともに、専任環境監視員による環境監視パトロールを効率的かつ継続的に実施することで、公害の発生抑制や環境汚染事故の未然防止対策を推進する。	③④	指標に基づく事実	指標③ 河川BOD基準達成率100% 指標④ 協定基準値締結事業所 46/47=97.8% (悪臭測定の1項目で基準値超過)	A	指標に関する内容	訪問指導を適切に行っており、ほぼ全ての事業所が法定よりも厳しい値に設定している協定値を遵守している。	指標に関する内容	改善はその都度図られているものの、対症療法的なやり方が多い。また、協定締結事業所の中には、施設の老朽化が進んでいる所がある。	◇環境保全協定の締結事業所への立入検査を継続して実施していく。 2年以上遵守できなかった事業所については、施設の改修を求めるなど指導を強化していく。 ◇専任環境監視員による環境監視パトロールを継続して実施している。
					指標以外の事実	専任環境監視員による環境監視パトロールの実施及び油漏れ事故等における迅速な初動対応及び指導を実施することで、公害の発生抑制や環境汚染事故の未然防止を推進できている。	(B)	指標以外の内容	専任環境監視員による環境監視パトロールや立入調査を効果的に実施している。	指標以外の内容	環境保全協定の締結が、事業所の環境汚染事故防止につながっている。		

No.	担当部等	プロジェクト	推進方針(R6)	成果指標	推進方針に対する達成状況(対象:R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇:R7/◆:R8以降)
								市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
4	生活環境部		ごみの発生抑制とリサイクルの推進	⑤⑥	指標に基づく事実	⑤リサイクル率はR5年度比1.1ポイント増加したが期待値を下回っている ⑥一人1日当たりのごみ排出量はR5年度比で39減少し、期待値を上回っている。	B	指標に関する内容	不燃ごみの中から小型家電類を手選別で分け再資源化委託を行うことにより、不燃ごみの埋立量を減らすとともにリサイクル率の向上を図っている。	指標に関する内容	資源ごみ自体の容量は大きく変わっていないが、近年は技術の進歩により資源ごみ自体の軽量化が進んでおり、総ごみ量に占める資源ごみの重量で算出するリサイクル率については、大きな増加は見られない。	◇ごみ分別アプリの多言語化(5か国語追加)を実施し、外国人を対象としたごみの分別の意識啓発を図るとともに4Rの推進を図った。(R7.8月) ◇事業系紙ごみの資源化を推進するため、事業者向けに紙類リサイクルの意識啓発チラシを作成し、配布予定(R7.9月予定) ◇スーパー等で行っている資源ごみの店頭回収について、事業者に情報提供を依頼し、市内のリサイクル量として把握する。(R7.9月～)
						指標以外の事実			・家庭ごみの総量(資源ごみを除く)は約13,276トンでありR5年度比で128トン減少した。 ・産業廃棄物を除く事業系ごみの総量は約8,045トンであり、R5年度比で172トン減少した。		指標以外の内容	
5	生活環境部		ごみの不適正排出、不法投棄の防止	⑦	指標に基づく事実	清掃活動参加人数は、25,644人とR5年度比で224人増加したが、期待値を下回っている。	B	指標に関する内容	地区の公衆衛生指導員を通じて、清掃活動参加者に対し市の手数料袋を配布し、清掃活動参加者の増加を図った。	指標に関する内容	地区の清掃活動において、コロナ禍中に規模縮小していた活動を、コロナ禍前の規模・回数で実施する地区が年々増えてきている。	◇ごみ収集事業者が収集を行った際に、不適正排出ごみ等を発見した場合に市に報告するロゴフォームを作成し、市民からの問合せ等があったに対し詳細に対応できるようにし、分別指導の強化を図るとともに、ごみの不適正排出の抑制に努めた。(R7.8月) ◇市内約900箇所のアパート専用のごみ集積所看板に多言語対応したごみ分別アプリ「さんあ～る」のQRコードを貼り、アプリの周知を図るとともに外国人に対しての分別意識の啓発を図る(R7.9月以降) ◇広瀬川せせらぎ緑道周辺のごみ拾い活動に参加し、ポイ捨て状況の調査を行う。(R7.7月～)
						指標以外の事実			・公衆衛生指導員が中心となって行われる不法投棄監視パトロールは、市内を17ブロックに分けて各地区において延べ70回実施され、R5年度比で10回の増加となり、不法投棄防止活動の推進が図られている。 ・アパート入居者等による、資源ごみ常設ステーションへの不適正排出の増加がみられる。		指標以外の内容	

凡例 ●実績値 — 期待値

指 標 ①		指標の説明								指 標 ②		指標の説明								指 標 ③		指標の説明									
花苗配布団体数		花苗配布を希望する団体実数(花いっぱい運動への協力団体)								おひさまパワー活用設備設置費補助金申請件数		補助金の交付決定をした設備数								市内類型指定河川のBOD値(75%値)基準達成率		岩手県が測定した河川のBOD(生物化学的酸素要求量)が、定められた基準を達成している割合 ※公表される時期が遅い									
		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7					
担当部等	単位									担当部等	単位								担当部等	単位											
生活環境部	団体	実績値	219	216	211	207	207	199		生活環境部	件	実績値	57	68	92	122	122	106		生活環境部	%	実績値	100	100	100	100	100				
		期待値 ※R7は目標値	219	219	219	219	219	219	219			期待値 ※R7は目標値	57	64	71	79	86	93	100			期待値 ※R7は目標値	100	100	100	100	100	100	100		
		備 考										備 考										備 考	H30値	R1値	R2値			未公表			
指 標 ④		指標の説明								指 標 ⑤		指標の説明								指 標 ⑥		指標の説明									
環境保全協定締結事業所の協定基準順守率		排水やばい煙などについて、協定で定めた協定値を順守している企業の割合								リサイクル率(事業系資源、焼却灰を含む)		総ごみ量に対する総資源化量の割合 ※総ごみ量: 家庭系ごみ(可燃、不燃、資源)及び事業系ごみ(可燃、不燃、資源) ※総資源化量: 集積所収集に加え、イベント回収による小型家電、市に報告のある事業系資源、セメント原料になる岩手中部クリーンセンター焼却灰などの資源物の総量										一人1日当たりのごみ排出量(資源ごみを除く)		住民基本台帳人口(9月末現在)一人1日当たりの家庭系ごみ(可燃、不燃)と事業系ごみ(可燃、不燃)を合わせた量							
		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7			R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7					
担当部等	単位									担当部等	単位								担当部等	単位											
生活環境部	%	実績値	93.9	93.9	96.9	96.9	100	97.8		生活環境部	%	実績値	38.00	36.71	36.54	35.74	34.00	35.10		生活環境部	g	実績値	665	665	671	668	646	641			
		期待値 ※R7は目標値	93.9	94.9	95.9	97.0	98.0	99.0	100			期待値 ※R7は目標値	38.00	38.08	38.17	38.25	38.33	38.42	38.50			期待値 ※R7は目標値	665	662.7	660.3	658.0	655.7	653.3	651		
		備 考										備 考										備 考									
指 標 ⑦		指標の説明								指 標 ⑧		指標の説明								指 標 ⑨		指標の説明									
清掃活動参加人数(市衛連春秋清掃月間・クリーン活動・不法投棄監視パトロール、和賀川の清流を守る会の参加者)		年間の市内清掃活動人数																													
		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7					R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7					R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
生活環境部	人	実績値	26,794	22,577	19,532	22,004	25,420	25,644				実績値										実績値									
		期待値 ※R7は目標値	26,794	26,795	26,796	26,797	26,798	26,799	26,800			期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値									
		備 考										備 考										備 考									
指 標 ⑩		指標の説明								指 標 ⑪		指標の説明								指 標 ⑫		指標の説明									
担当部等	単位									担当部等	単位									担当部等	単位										
		実績値										実績値										実績値									
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値									
		備 考										備 考										備 考									
指 標 ⑬		指標の説明								指 標 ⑭		指標の説明								指 標 ⑮		指標の説明									
担当部等	単位									担当部等	単位									担当部等	単位										
		実績値										実績値										実績値									
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値									
		備 考										備 考										備 考									

北上市総合計画 2021～2030 令和7年度基本施策事後評価シート（評価対象期間:令和6年度）

基本方針	9.誰もが主体的に参画する市民協働の深化
基本施策	9-1.多様性が尊重される社会の形成
関連するプロジェクト	

年齢、障がいの有無、国籍及び文化的背景の違い、性別並びに性的指向及び性自認等にかかわらず、それぞれの個性と能力を発揮でき、あらゆる人にとって暮らしやすく、多様性が尊重される社会の形成を推進します。

評価項目	A	順調
	B	概ね順調
	C	やや遅れている
	D	遅れている

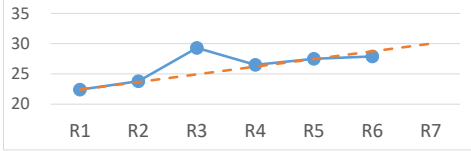
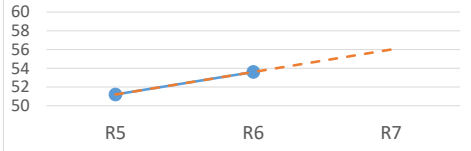
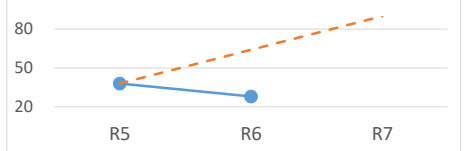
総合評価
A

※達成状況評価欄の（ ）内については昨年度の評価結果です。

R6事後
19

No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)		成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象:R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇:R7/◆:R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
1	まち づく り部		男女共同 参画と多 様性社会 の実現	「北上市男女共同参画と多様性社会を 推進する条例」の理念実現に向けて、市 民・事業者の理解促進や仕組みの整備・ 普及に取り組み、互いに尊重し、共に支 え合う意識の醸成を図る。	①	指標に 基づく事 実	審議会等における女性委員の比率は、期待値に 沿う形で上昇している。	A	指標に 関する内 容	各審議会等に対し、構成委員の女性割合目標 を3割以上とするよう働きかけている。	指標に 関する内 容	社会のあらゆる分野における女性の参画につ いて、理解や関心が少しずつ高まっている。	◇女性委員登用への働きかけを継続して実施 ◇企業向け研修会の実施 ◇産前教室で育児休業やワーク・ライフ・バランス等の講話を実施 ◇女性のキャリア形成支援リカレントプログラムを岩手大学と共催で 継続して実施
						指標以 外の事 実	・男女共同参画・多様性社会実現に向け講座・研 修会等を実施し、市民の理解促進につながった。 ・4月からパートナーシップ宣誓制度を開始した。		(A)	指標以 外の内 容	次のような多様なアプローチで市民に男女共 同参画・多様性社会実現に向けた周知を行っ たことが市民理解に繋がっている。 ・市出前講座を実施した。 ・きたかみ男女共同参画サポーターと協働に より、黒沢尻工業高等学校での研修会実施、 産前教室において、男女共同参画の視点から 出産・育児に関する講話を実施した。 ・女性のキャリア形成支援リカレントプログラ ムの講座を岩手大学と共催で開催した。	指標以 外の内 容	
2	まち づく り部		外国人の 受入れ・ 交流環境 の整備	関係団体等と連携し、講演会等の開催 を通じて多文化共生への理解促進を図 るとともに、文化や言語の違いがあつて も気軽に参加することのできる日本人市 民との交流の場を創出する。また、生活 者としての外国人の日本語習得をサポ ートするとともに外国人相談窓口の周知及 び行政・生活情報の多言語化を推進す る。	②③	指標に 基づく事 実	②北上市には、世代や文化、出身や言語など、自 分と異なる人々を理解する雰囲気があると答え た市民の割合は、前回調査と比較して2.4ポイント 増加した。 ③市及び市国際交流協会が日本語学習を支援し た人数は10名減少した。	B	指標に 関する内 容	②継続事業のほかに、市国際交流協会との共 催で「多文化共生のためのきっかけづくりプ ロジェクトShared future!」を実施し、生活 情報をトピックとして日本人と外国人の交流 促進を図った。(全4回、参加者数計117名) ③日本語学習者の実数は減少したが、日本語 指導回数は64回増加した。(R5年度142回 →R6年度206回)	指標に 関する内 容	R6年度は、日本語学習を希望して国際交流 ルームを訪れた外国人住民が、仕事の都合等 で最初の面談以降来館しなかったことが多く、 学習者の増加に結びつかなかった。一方で、日 本語能力試験や技能検定の合格を目指す学習 者は、継続して指導を受けることが多く、日本 語指導回数の増加につながった。	◆北上市多文化共生プランの作成 ◆外国人相談事業の拡充(翻訳機の配備、パンフレットの作成等によ る国際交流ルームの周知) ◇北上市日本語教室パートナーの養成 ◇市直営の日本語教室の開催 ◆北上市日本語教室パートナーの活躍機会の創出による多文化共生 の担い手育成 ◇外国語、日本語講座開催 ◇インターナショナルスクールの開催 ◇ワン・ワールドフェスタの開催 ◇多文化共生に関する業務 ◇国際交流に関する情報の収集・提供
						指標以 外の事 実	国際都市推進きたかみ市民会議の主催により多 文化共生講演会「少子高齢化・人口減少の推移か ら、多文化共生の必要性を考える」を開催(参加 者31名)。		(B)	指標以 外の内 容		指標以 外の内 容	

凡例 ●実績値 —期待値

指 標 ①		指標の説明																	指 標 ②		指標の説明																	指 標 ③		指標の説明																
審議会等における 女性委員の比率	市の審議会等における女性委員の比率 ※地方自治法第202条の3に基づく審議会に限る。			R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	(市民意識調査)北上 市には、世代や文化、 出身や言語など、自分 と異なる人々を理解する 雰囲気があると答えた 市民の割合			R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	外国人の日本語学習者 数			R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7																										
		実績値	22.4	23.8	29.3	26.5	27.5	27.9		実績値		-	-	-	-	51.2	53.6		実績値	-		-	-	-	38	28																														
		期待値 ※R7は目標値	22.4	23.7	24.9	26.2	27.5	28.7	30.0	期待値 ※R7は目標値		-	-	-	-	51.2	53.6	56.0	期待値 ※R7は目標値	-		-	-	-	38	64	90																													
		備 考								備 考						現状値			備 考						現状値																															
指 標 ④		指標の説明																	指 標 ⑤		指標の説明																	指 標 ⑥		指標の説明																
担当部等	単位			R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位			R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位			R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7																								
まちづくり部	%	実績値									まちづくり部	%	実績値									まちづくり部	人	実績値																																
		期待値 ※R7は目標値								期待値 ※R7は目標値														期待値 ※R7は目標値																																
		備 考								備 考														備 考																																
				指標の説明																				指 標 ⑦		指標の説明																	指 標 ⑧		指標の説明											
担当部等	単位			R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位			R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位			R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7																								
		実績値											実績値											実績値																																
		期待値 ※R7は目標値								期待値 ※R7は目標値														期待値 ※R7は目標値																																
		備 考								備 考														備 考																																
				指標の説明																				指 標 ⑨		指標の説明																	指 標 ⑩		指標の説明											
担当部等	単位			R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位			R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位			R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7																								
		実績値											実績値											実績値																																
		期待値 ※R7は目標値								期待値 ※R7は目標値														期待値 ※R7は目標値																																
		備 考								備 考														備 考																																
				指標の説明																				指 標 ⑪		指標の説明																	指 標 ⑫		指標の説明											
担当部等	単位			R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位			R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位			R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7																								
		実績値											実績値											実績値																																
		期待値 ※R7は目標値								期待値 ※R7は目標値														期待値 ※R7は目標値																																
		備 考								備 考														備 考																																
				指標の説明																				指 標 ⑬		指標の説明																	指 標 ⑭		指標の説明											
担当部等	単位			R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位			R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位			R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7																								
		実績値											実績値											実績値																																
		期待値 ※R7は目標値								期待値 ※R7は目標値														期待値 ※R7は目標値																																
		備 考								備 考														備 考																																
				指標の説明																				指 標 ⑮		指標の説明																	指 標 ⑯		指標の説明											

北上市総合計画 2021～2030 令和7年度基本施策事後評価シート（評価対象期間:令和6年度）

基本方針	9.誰もが主体的に参画する市民協働の深化
基本施策	9-2.まちづくりで広がる市民協働の深化
関連するプロジェクト	9.市民が創る・まち育てプロジェクト

市民自らが地域社会に関心を持ち、自らできることを考え、行動するとともに、市民活動に関する理解を深め、進んで協力する市民協働のまちづくりの深化を目指して、地域づくりを担うリーダー育成、地域計画の実現への支援、市民自治のさらなる推進を図ります。

評価項目	A	順調
	B	概ね順調
	C	やや遅れている
	D	遅れている

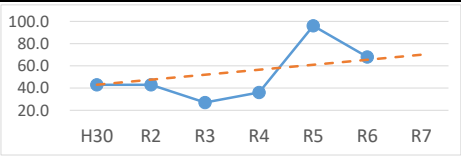
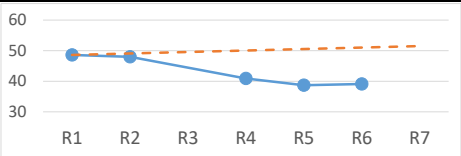
総合評価
B

※達成状況評価欄の（ ）内については昨年度の評価結果です。

R6事後
20

No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)		成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象：R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇：R7/◆：R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
1	まち づく り部	●	協働の定 着と拡充	協働により事業の改善が図られる案件について、具体的な取組みの方法を研究し、関係部署との連携を図るとともに、協働手法のメリットを市民・行政・企業が共有できるよう、情報提供を行い、協働のマッチングを進める。	②	指標に基 づく事 実	地域活動等に参加している市民の割合は前回調査と比較して0.4ポイント増加した。	B	指標に 関する 内 容	・市民活動情報センターニュースを毎月発行し、市民活動に関する情報を発信した。 ・協働のまちづくりを浸透させるため、市職員研修を実施した。	指標に 関する 内 容	自治会によっては、賃貸住宅の居住者に対して自治会加入を勧誘しないところもある。	◇多様な主体による協働のマッチングを推進するため、市民活動情報センターのコーディネーター活動を強化する。 ◇庁内協働を推進するため、部課をこえて連携する機会を増やす。 ◇多様な分野で活動する市民活動団体、企業等が出会いつながりをつくる場として、まちづくりマッチングフェアを開催する。 ◆市内で個々に活動するまちづくりのプレイヤーが、出会い、有機的な関係性をつくることができるネットワークをつくる。 ◆企業褒賞制度の後継事業である、「まちづくりコラボ・アワード」を隔年開催する。 ◆関心層の個人が、市民活動と関わる入口づくりに取り組む。
						指標以外 の事 実	協働や市民活動に活かせる情報発信と、市民活動団体や地域づくり組織、NPO法人等へのまちづくりの相談、支援等を行い、協働の推進を図ったことで、相談対応・企画支援件数48件増(R5年度66件→R6年度114件)、協働マッチング件数は2件減少(R5年度7件→R6年度5件)、地域づくり組織支援件数45件減(R5年度202件→R6年度157件)		(B)	指標以外 の 内 容	・市民活動情報センターで、地域活動、市民活動、企業の社会貢献活動のマッチングを行った。 ・企業が行う地域貢献活動について広報やホームページで情報提供を行った。 ・分野を横断した協働を推進するために、まちづくりマッチングフェアを初開催した。 ・R6より地域計画の見直し支援を行ったため、1件あたりの支援時間が長く、全体の支援件数としては減少している。	指標以外 の 内 容	
2	まち づく り部	●	まちづく りをリー ドする人 材の育成	新しい担い手を育成するため、一般向けの勉強会を開催し地域づくりへの多様な参加を促進するとともに、市内の高等学校等と連携した人材育成事業を実施し、次世代の担い手育成を継続して支援する。	①	指標に基 づく事 実	昨年度より実施している「おとなゼミ」について、参加者延べ人数については28名減(R5年度96名、R6年度68名)となっているが、手法の変更により、開催回数(総講座数)の減少が要因である。	B	指標に 関する 内 容	・20～40代の移住者、新たなつながりをつくりたい人、自分活動を始めたい人をターゲットとし、参加者同士の関係性づくりを大事にしたプログラムを実施した。 ・延べ人数は減ったが1回あたりの参加者が増え、ターゲットやプログラムの見直しが功を奏している。	指標に 関する 内 容	個人の働き方、生活スタイルの変化といった多様化が進み、地域活動に関する関心の変動といった環境も変わってきていることが影響している。従来よりも「おとなゼミ」で扱うプログラムに対する参加者のニーズにばらつきがみられることも要因とみられる。	◇大人の放課後ゼミナール閉講後も、参加者同士のコミュニティが継続されるための支援を行う。 ◇学びが活動や事業につながるしくみづくりに取り組む。 ◇新たに社会的な事業や活動に取り組む人や組織を支援するため、地域づくり課職員のコーディネート力のスキルアップに取り組む。 ◇地域おこし協力隊制度を活用し、地域学び合いPBL(プロジェクトベースドラニング)推進事業を開始する。 ◆高校生をターゲットとして、若者が身近なまちづくりに参画できる場づくりやコミュニティづくりに取り組む。 ◆協働のまちづくりにおける人材育成と、社会教育としての若者支援に一体的に取り組む施策の検討を行う。
						指標以外 の事 実	高校の探究学習と連携を図ることで、次世代の人材育成支援を行った。		(B)	指標以外 の 内 容	・専北高校の探究学習に、市職員を派遣した。 ・専北高校のプロジェクトベースドラニングのプログラムづくりに取り組んだ。	指標以外 の 内 容	
3	まち づく り部	●	地域づく り組織の マネジメ ント力強 化	地域づくり組織の実務的な業務の支援を継続的に行うとともに、地域経営力を向上するための研修を実施する。また、地域づくり組織と市が協働で行っている地域づくり政策について、定期的に検証し、必要な改善を行う。	未設定	指標に基 づく事 実		B	指標に 関する 内 容		指標に 関する 内 容		◇地域づくり組織運営アドバイザー設置事業として、社労士に業務委託し労務管理の相談対応を継続して実施する。 ◇地域計画の中間見直しを、地域づくり組織の課題解決の機会と捉え、各地区の課題に応じた伴走支援を市及び市民活動情報センターが行う。 ◇自治会運営支援のために、自治会運営ハンドブックと自治会加入促進チラシを作成した。 ◇自治会運営の課題を明らかにし、地域づくり組織と市が連携した自治会運営の支援策を検討する。 ◇住民同士の話し合いにより地域づくりを推進する環境づくりのため、市政座談会の実施手法を対話型に変更した。 ◇人口減少が進む和賀・川東地域における課題解決に取り組むため、集落支援員を配置する。 ◆R7年度に検討した自治会支援策を具体化する。 ◆交流センター化(H18～)から20年経過することを節目と捉え、現状の地域づくり及び社会教育施策の評価、地域社会の変化に応じた今後の施策の方向性の検討を行う。
						指標以外 の事 実	地域経営力を向上するための研修を開催し、地域づくり組織の役員及び職員の運営支援を行った。		(B)	指標以外 の 内 容	・地域づくり組織向けの研修会とワークショップを3回実施し、地域経営力を向上させた。 ・市民向けの地域づくり講演会を1回開催した。 ・地域づくり組織や自治会から寄せられる個別相談に、随時対応を行うことで、地域経営のサポートを行った。	指標以外 の 内 容	

凡例 ●実績値 — 期待値

指 標 ①		指標の説明									指 標 ②		指標の説明									指 標 ③		指標の説明																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
まちづくりスタート アップ塾への参加人数 (R5～大人の放課 後セミナーに改変)		年度ごとの講座参加者数																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				

北上市総合計画 2021～2030 令和7年度基本施策事後評価シート（評価対象期間:令和6年度）

基本方針	10.まちづくりを支えるしくみづくり
基本施策	10-1.効率的・効率的な行政運営
関連するプロジェクト	10.自治体のスマート化プロジェクト

市民に信頼される行政経営を行うため、市民意見の反映による透明性の確保を図りながら、「スマート自治体」に向けた取組と組織の最適化による効率性と生産性の向上を進めると同時に、選択と集中による適切な投資と財源の中長期的なバランスを確保する財政運営の健全化を推進します。また、安定した財政基盤を確保するため、市税収入等の収納率の向上を図るとともに、公有財産の活用など様々な財源確保策に取り組みます。

評価項目	A	順調
	B	概ね順調
	C	やや遅れている
	D	遅れている

総合評価
B

※達成状況評価欄の（ ）内については昨年度の評価結果です。

R6事後
21

No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)	成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象:R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇:R7/◆:R8以降)
								市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
1	企画 部	●	自治体DXの推進	住民の利便性向上のため、情報基本計画に沿って、マイナンバーカードを活用した行政サービス等、デジタル行政サービスの提供を推進する。 また、業務生産性向上に資するシステム導入、ICT業務環境の構築、データ利用による政策形成等を図り、スマートワークを実現する。	①②⑥	・マイナンバーカードを活用した行政サービスの数は横ばいである。 ・ICTを活用し、開始したサービス数は、令和5年度より増加している。	A	指標に関する内容	・マイナンバーカードを活用した行政サービスを検討しているが、具体化に至っていない。 ・オンライン申請による各種手続きの増加やキャッシュレスレジの導入をはじめ、市民サービスの向上に向けた取組を進めている。	指標に関する内容	・コロナ禍を契機に、窓口に出向かずに手続きを行いたいというニーズが社会的にも高まったこともあり、オンライン申請や非接触型のサービス導入が加速した。	◇継続してオンライン申請の拡大や窓口改革(書かない窓口等)に取り組む。 ◇継続して行政サービスのデジタル化を進める。 ◇現行の情報基本計画の進捗状況等を分析のうえ、次期計画を策定する。 ◆業務生産性向上や新しい働き方に対応した業務環境の構築を進める。
						指標以外の事実	・マイナンバーカードによる証明書のコンビニ交付サービスの割合は、着実に増加している。 ・手段としてのデジタル導入ではなく、業務全体の見直しを進めたうえでのデジタル技術の活用というDXの考え方が浸透してきた。	(A)	指標以外の内容	・コンビニ交付サービスの利用を促進するため、広報紙やデジタルサイネージ等で市民に同サービスを周知した。 ・自治体DX推進リーダーとして特定任期付職員を1名採用し、デジタル技術を活用した業務変革を推進している。	指標以外の内容	
2	企画 部		効率的な組織運営と適正な人員配置	限られた時間の中で計画的かつ効率的に業務を行うためのICTの活用などスマートワークに向けた取組みを強化するほか、行政マネジメントシステムのサイクルの中で組織運営の課題解決を図る。人員配置においては、職場環境ヒアリングや内部監査を実施し、最適な配置の検討を行う。	③	普通会計の職員数は住民千人当たりの目標値6.67人に対し、R6年度は6.65人と0.02下回り、引き続き目標を達成できている。	A	指標に関する内容	・ 職場環境ヒアリングを実施し、組織体制や職員配置について最適化を行った結果、類似団体と比較して1割程度下回る状況となっており、効率化が進んだ状態を維持できている。 ・ スマートワーク、マネジメントレビュー及び職場環境ヒアリング等の取組を通じて業務の効率化と適正な人員配置の両立を図っている。	指標に関する内容	・ 少子高齢化が進む社会情勢において、人材(特に専門職)の確保は他自治体や民間との競合、競争となっており採用活動に影響が出ている。	◇◆限られた人員で新たな政策課題に対応していく必要があるため、業務量の削減及び業務の効率化をさらに推進していく必要があることから、今後も引き続きスマートワークの取組を実施する等、行政マネジメントシステムの運用を行っていく。
						指標以外の事実	・ 全庁的なスマートワークの取組を継続し、事務事業計画書の作成及び職員提案の募集等を実施した。 ・ 年度当初に市長による行政マネジメントの推進方針及び部課運営方針を設定のうえ組織運営に係る課題共有及び解決策検討のため、年2回のマネジメントレビューを実施した。 ・ 最適な組織体制及び職員配置を実現するため、企画部長による職場環境ヒアリングを実施した。 ・ 一部の専門職において採用の難易度が上がってきている。	(A)	指標以外の内容	指標以外の内容		
3	企画 部		行政評価結果の活用	総合計画を推進するため、評価手法を再検討するとともに評価精度の向上を図る。そのうえで、事務事業及び施策の評価結果を活用した事業スクラップを実施するほか、行政評価と予算編成との連動性を高める。	未設定	指標に基づく事実	C	指標に関する内容		指標に関する内容		(1) ◇まずは部課長級職員に行政評価手法にかかる説明会を実施し、行政評価について周知。令和8年度以降も行政評価手法の説明会を継続する。 ◇目的に意識を向けつつ評価量を絞るために、基本施策の事後評価を評価の中心に据え、事務事業の事後評価及びプロジェクトの中間評価を休止。 ◆評価精度の向上に向けて、引き続き評価対象やその範囲を検討する。 (2) ◆ロジックモデルを活用し、目的から見て事務事業が効果的・効率的であるかという視点からスクラップを検討する意識を広め、実践する。 (3) ◇基本施策の事後評価において、今後の方向性欄にかかる協議によりウエイトを置く。
						指標以外の事実	(1)従来の行政評価手法では評価の精度が向上しなかったことから、評価手法の見直しに着手した。 (2)ローリング時に事務事業事後評価結果を活用してヒアリングを行い、スクラップを促そうとしたが、実際にスクラップに結びつく事業は少なかった。 (3)評価すること自体に意識が向き、評価結果を活用した今後の施策の方向性にかかる議論が進まず、予算編成との連動性が高まらなかった。	(B)	指標以外の内容	(1)評価精度向上のために、達成状況の定義や適切な指標設定が課題と捉えていたが、その土台となる情報(評価の意義・目的)について職員への周知が不足していた。また、評価量の多さによって評価すること自体に意識が向き、評価精度向上の妨げになっているのではない。 (2)長年の事務事業スクラップの取組によって、事務事業の状況だけを見て簡単にスクラップを議論・判断可能な事務事業はすでに残されていない。 (3)評価すること自体が目的となっており、評価した結果を今後にとのようにつなぐかの議論が不足している。	指標以外の内容	

No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)		成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象：R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇：R7/◆：R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
4	企画 部		広聴広報 活動の充 実	市の主要広報媒体(広報紙、公式ホームページ、Facebook、放送媒体等)で、各媒体間の連携を意識しつつ、適時に分かりやすい行政情報の提供を行うとともに、社会環境に応じた適切な広報媒体を選択し運用していく。 また、市民が市政に意見を寄せる機会や手段について広く周知を図るとともに、ICTの活用等新たな手段を活用した活動を展開していく。	④⑤⑥	指標に基 づく事 実	・情報発信の方法やわかりやすさ(市民意識調査)は、R5年度より上昇したものの、期待値と比較し10ポイント以上低い。 ・北上市公式HPの年間アクセス数は期待値よりも上振れした状態で推移している。 ・市政に対して意見・要望できる機会や方法の確保(市民意識調査)は、前年度より5.5ポイント上昇したが期待値には届かなかった。	B	指標に 関する 内 容	・研修を受講し、情報発信のスキルを向上させた。 ・SNSや広報紙からホームページの詳細記事へ誘導する形が定着してきている。 ・子育て世代向けの子育てLINEを令和4年7月に導入したが、世代ニーズにあわせた情報発信ができていない。 ・都市ブランド推進行動計画において「職員全員プロモーターとしての意識改革」を具体的取組に掲げ、各課に対し新規媒体の周知や投稿を促した。 ・多様な発信をすることによる相乗効果が図られた。 ・市政に対して意見・要望できる機会や方法の確保(市民意識調査)は、改善傾向にあるが十分とは言えないものの、市民の声の件数についても増加傾向にあることから市への意見を寄せる手段等についての周知が進んでいると考えられる。	指標に 関する 内 容	民間のポータルサイトが増加し、ニーズにあった情報を効率よく受信しようとする傾向が出たきた。	◇様々な広報媒体でその特性・メインターゲットに合わせた効果的な情報発信を継続する。 ◇市民が市政に意見を寄せる機会や手段について広く周知を図るとともに、引き続き、ICTを活用した広聴活動を展開していく。 ◇4月広報において「市への意見の伝え方を紹介」と題し、市に意見を寄せる手段を約1ページを使用して掲載。今後も年に1回は掲載を行う。
						指標以 外の事 実	・市政座談会、市民意識調査、タウンミーティング等様々な形態・手法により意見を伺う機会を設けている。 ・市ホームページや広報誌において意見を寄せる機会及び手段等について周知を図った。 ・市民の声の件数 R5:131件、R6:139件		指標以 外の 内 容	・R5年度に「市民の声」投書箱を本庁舎に設置の1箱から5箱に増設(他2庁舎、生涯学習センター、hoKko)し、箱にオンライン投稿用二次元コードを貼付するなど、意見を寄せる機会や手段を増やしたことで件数が増加したが、引き続き増加傾向にある。	指標以 外の 内 容		
5	企画 部		近隣市町 との連携	スケールメリットを生かした取組の実施による財政運営の効率化や各市町に共通する課題の解決のために定住自立圏に基づく取組や広域行政の推進を行う。	⑦	指標に基 づく事 実	R1以降の定住自立圏の新規連携事業の累計数は、R7目標数値の16件をはるかに超える23件となっている。	A	指標に 関する 内 容	共生ビジョンに基づき連携事業を推進するとともに、新規連携事業の構築を進めるため、担当者会議を開催して市町間の協議を活性化させた。	指標に 関する 内 容	想定よりも加速する人口減少・物価高騰により、地方都市を取り巻く財政状況が依然として厳しい中、地方都市では広域連携による効率的な行政運営が求められている。	◇随時事業担当課で抱える課題等を吸い上げ広域で実施できるか検討を進める。 ◇連携中枢都市圏への発展的移行を目指し、調査研究を進める。
						指標以 外の事 実	定住自立圏内の自治体間で連携関係が構築され、各市町が抱える課題などについて情報共有が行われた。		指標以 外の 内 容	定住自立圏の取組について庁内での認知度が高まっている。	指標以 外の 内 容		
6	財務 部		健全な財 政運営	将来を見据えた安定した財政運営を行うため、毎年度、財政状況の分析を行うとともに、社会経済情勢等の動向を注視しながら適正な中期財政見通しを作成する。また、選択と集中による施策の重点化を図るとともに、事務事業の精査や歳出の見直しに取り組み、効果的かつ効率的な事業を展開していく。	⑧	指標に基 づく事 実	昨年度実績値から14.4ポイント上昇し、期待値を若干上回った。(期待値を下回ることが望ましい)	B	指標に 関する 内 容	地方債残高や企業債繰入見込み額が増加したことや、充当可能基金が減少したことなどによる。	指標に 関する 内 容	物価高騰や人件費の上昇などによる事業費の増加に伴い、財源となる地方債の借入額も増加し、地方債残高に影響した。	◇将来を見据え、優先課題への対応を図りつつ、健全な財政運営を行うため、中長期の財政状況を分析し、財政見通しを作成する。
						指標以 外の事 実	R5年度までは財源不足を補うための市債管理基金の取り崩しがなかったが、R6年度は市債管理基金の取り崩しを行った。		指標以 外の 内 容	国県補助金等の活用、交付税措置のある起債の活用、事務事業の精査などを行ったものの、投資的経費や物件費の増などにより歳出が増加した。	指標以 外の 内 容	物価高騰や、人件費の上昇などが財政運営に大きく影響した。	

No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)		成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象：R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇：R7/◆：R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
7	財務 部		歳入の確 保	安定的な税収及び財源を確保するため、適正な課税と市税収納率の向上に取り組むとともに、税外債権を適正に管理していく。 また、公有財産(土地)の売却による歳入の増加を図るため、公有財産の売却情報の広報活動を拡充するとともに、宅地建物取引業者の媒介制度を活用していく。	⑨⑩	指標に 基づく 事実	市税収納率のうち⑨現年度分は期待値を0.39ポイント上回る99.39%となった。⑩滞納繰越分は、期待値を4.93ポイント上回る27.63%となった。	A	指標に 関する 内容	・高額滞納を上半期に重点的に整理したことや、業務効率化により、接触回数等を増やしたことが市税の収納率向上につながった一因と考えられる。	指標に 関する 内容	・定額減税の実施(計算の都合上、ない場合に比較して収納率が低く出る傾向がある。)	◇現年度分の徴収に、引き続き重点的に取り組む。 ◇滞納繰越分については適切な徴収強化及び緩和を進める。 ◇適切な債権管理を維持するため、定期的な管理状況の把握を行う。
					指標以 外の事 実	・自力執行権のない税外債権の滞納解消を図るため、債権所管課において、昨年に引き続き簡易裁判所へ支払督促を実施した。 ・公有財産の売却収入額は、前年に比べ減少したものの10,052,001円を確保した。	指標以 外の内 容		・適切な時期での簡易裁判所への督促等の実施。 ・売却可能な公有財産について、速やかに公売に出せるよう手続きを行った。新たに3件を公売に出し、2件について価格改定を行った。	指標以 外の内 容	資産の負債化(主に固定資産に係るもので、換価価値がないもの)により、売却収入額が減少または確保出来ないものがあった。		
8	財務 部		インフラ 資産マネ ジメント の着実な 推進	建築物最適化計画に基づき、公共施設の複合化・集約化・多機能化を進めるとともに、計画的に修繕や長寿命化を実施していく。また、施設整備に際しては、最も効果的な手法による整備を行うことを基本として、PPP手法の導入を優先的に検討していく。	⑪	指標に 基づく 事実	⑪公共施設の延床面積は、期待値上では、6.0%減少を見込んでいたが、実績値では総面積は減っておらず、延床面積の削減が進んでいない。	C	指標に 関する 内容	建築物最適化計画において、学校の統合が進まず、公共施設の適正配置が進んでいない施設や、農村公園や児童遊園、公衆便所など継続して方向性を検討している施設がある。	指標に 関する 内容	少子高齢化と人口減少予測に対応して、施設の最適化が必要であるが、hoKkoの整備や学童の行政財産化など計画外の施設取得によるものや地域の要望への対応等により廃校の体育館をスポーツ交流館化するなど、計画通りに進まない状況である。	◇最適化計画上、廃止と位置付けられている施設については、関係者との協議を引き続き行う。 ◇建築物最適化計画改定にあたり、第1期計画の実施状況の評価を踏まえ、第2期計画以降の計画に着手している。 ◇廃止施設の利活用スキームを運用したが、総量縮減が進まないなどの課題も見えてきたことから、スキームの見直しを検討する。
					指標以 外の事 実	・小学校の統廃合で廃校になった口内小を口内地区交流センターへ転用するなど、施設の最適化につながる利活用の方針がまとまっている。 ・柔剣道場の建て替えに際してPPPの手法が取り入れられた。	指標以 外の内 容		廃止施設の利活用スキームにより、廃校の利活用を進めた。	指標以 外の内 容			
9	財務 部		公共施設 の維持管 理水準の 向上と維 持管理に 係る人件 費の削減	公共施設の維持管理水準の向上とともに、維持管理に係る人件費の削減を図るため、建物管理に係る専門性やノウハウを有する民間事業者に維持管理業務(設備点検・清掃・修繕等)を包括的に委託する包括施設管理を令和3年度に導入した。また、包括施設管理の対象施設について、拡大を検討していく。	未設定	指標に 基づく 事実		B	指標に 関する 内容		指標に 関する 内容		◇定期的に職員及び施設管理者に対するヒアリングを実施し、施設管理の更なる品質の向上を図る。 ◇R3年度からの委託期間が5年目となり、中間評価案を作成。総括を行う。 ◇包括施設管理契約更新に向け、対象施設や委託項目の拡大の調整を行う。
					指標以 外の事 実	R6年度包括管理施設数31施設、マネジメント件数704件、設備点検等業務数15,190件、除雪162件、修繕169件、合計16,225件。R6年度修繕費支出総額30,008千円(R5年度26,945千円)であり、修繕費が3,063千円増加。必要な修繕に対応した。	指標以 外の内 容		・包括施設管理受託業者の定期巡回により、不具合を早期に発見でき、施設の適正管理につながった。 ・業務内容(対象施設、委託項目)を増やし、施設管理に係る契約事務等の人件費の更なる削減を図った。導入当初は、年間41,000千円程度の人件費削減効果を見込んでいたが、R6年度における削減効果は87,808千円程度の試算となった。	指標以 外の内 容			

No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)		成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象:R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇:R7/◆:R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
10	議 会 事 務 局		市民に對 する情報 発信力の 向上	市議会広報委員会・広聴委員会により、議会広報紙や公式ホームページの広報活動の研究、議会モニター制度等市民の意見の聴取を生かしたわかりやすい情報発信を行う。市民に関心を持つてもらえるような情報発信となるよう議会広報の編集や多様な媒体を活用した情報提供等に対する積極的な助言等、広報・広聴の機能強化をけん引する。	未設定	指標に基 づく事 実		B	指標に 関する 内 容		指標に 関する 内 容	◇これまで議会に無関心だった「無関心層」に向けても積極的に情報を届けていくため、議会だよりをさらにブラッシュアップする。(「自分に関わる話題だ」と市民が感じられる表紙設計など) ◇SNS活用の目的(①傍聴促進②HPや議会だよりへの誘導③認知拡大 など)を明確にし、各媒体の特徴を活かした運用を研究する。 ◆議会に関心をもった市民が、いつでも議会中継・録画配信にアクセスできるよう、安定的、継続的に運用できるシステムを構築する。	
						指標 以外 の 事 実	・議会情報の入手方法(市民意識調査)では、議会だよりが48.0%(前回48.8%)と最も多かった一方、SNSは1.1%(前回1.1%)、関心がないので入手していないが29.3%(前回27.7%)だった。		(B)	指標 以外 の 内 容	・広聴委員会において議会モニターから議会活動全般に関する意見聴取を行い、改善に活かしている。 ・議会だよりを、市政への関心が強い「顕在層」と一定の関心をもつ「潜在層」を主なターゲットとして、R6年8月号からリニューアルを行った。 ・SNSは試験運用中であるが、主なターゲット(議会に関心を持ってもらいたい若者世代)に合わせた効果的な発信ができていない。 ・市政や議会に関心がない層に関心をもってもらうためには、関心がない理由の分析が必要だが、現状できていない。		指標 以外 の 内 容

凡例 ●実績値 - - - 期待値

指 標 ①		指標の説明								指 標 ②		指標の説明								指 標 ③		指標の説明								
マイナンバーカードを活用したサービス数		マイナンバーカードを活用した市の行政サービスの数(年度末時点でのサービス数。確定申告等国が整備したサービスは対象外。)								ICTの利活用により、新たに開始したサービス数		ICTを活用し、開始したサービス数(累積)								住民千人当たり職員数(普通会計)		地方公共団体定員管理調査に回答する4月1日現在の職員数								
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
企画部		実績値	0	1	1	2	2	2		企画部		実績値			11	24	41	59		企画部	人	実績値	6.67	6.65	6.67	6.73	6.64	6.65		
		期待値 ※R7は目標値	0	1	1	2	2	3	3			期待値 ※R7は目標値	-	-	11	17	23	29	35			期待値 ※R7は目標値	6.67	6.67	6.67	6.67	6.67	6.67	6.67	
		備 考										備 考											備 考							
指 標 ④		指標の説明								指 標 ⑤		指標の説明								指 標 ⑥		指標の説明								
広報紙・ホームページなどの情報発信の内容のわかりやすさ(市民意識調査)		市民意識調査の設問「北上市の情報発信の方法や内容はわかりやすいと思いますか」「ややそう思う」と回答した市民の割合								ホームページへのアクセス件数		北上市公式ホームページの年間アクセス数(セッション数)								市政に対して意見・要望できる機会や方法の確保(市民意識)		市民意識調査の設問「市政に対して意見・要望できる機会や方法が確保されていると思いますか」に対し、「そう思う」「ややそう思う」と回答した市民の割合								
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
企画部	%	実績値	72.2	76.3	76.3	64.9	43.4	61.1		企画部	件	実績値	1,060,660	1,510,244	2,335,009	1,848,474	1,663,428	1,532,336		企画部	%	実績値	34.70	39.90		43.70	25.30	30.80		
		期待値 ※R7は目標値	72.2	72.8	73.5	74.1	74.7	75.4	76			期待値 ※R7は目標値	1,060,660	1,123,217	1,185,773	1,248,330	1,310,887	1,373,443	1,436,000			期待値 ※R7は目標値	34.70	37.25	39.80	42.35	44.90	47.45	50.00	
		備 考					「普通」回答含む	「普通」選択肢無				備 考											備 考			未実施	「普通」回答含む	「普通」選択肢無		
指 標 ⑦		指標の説明								指 標 ⑧		指標の説明								指 標 ⑨		指標の説明								
定住自立圏で新たに取組む連携事業数(H26からの累計)		R1以降定住自立圏における新規事業の累計値								将来負担比率		地方公共団体の借入金(地方債)など現在抱えている負債の大きさを、その地方公共団体の財政規模に対する割合で表したものの。								一般市税収納率(現年度分)		調定額に対する収入済額の割合。※国民健康保険税を除く								
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
企画部	件	実績値	11	13	18	22	23	23		財務部	%	実績値	65.8	42.3	45.1	46	47	61.4		財務部	%	実績値	98.97	98.80	99.31	99.54	99.56	99.39		
		期待値 ※R7は目標値	11	12	13	14	14	15	16			期待値 ※R7は目標値	65.8	64.8	63.9	62.9	61.9	61.0	60.0			期待値 ※R7は目標値	98.97	98.98	98.98	98.99	98.99	99.00	99.00	
		備 考										備 考											備 考							過去10年間の最高値
指 標 ⑩		指標の説明								指 標 ⑪		指標の説明								指 標 ⑫		指標の説明								
一般市税収納率(滞納繰越分)		調定額に対する収入済額の割合。※国民健康保険税を除く								公共施設の延床面積(建築物最適化計画)		市が所有する建物の延床面積の総量(企業会計含む)。※H26(426,603㎡)から7%減をR7目標値とする								再審査率の減少		会計伝票審査件数に対する再審査件数の割合								
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
財務部	%	実績値	20.86	19.76	22.05	19.35	23.83	27.63		財務部	㎡	実績値	433,017	431,052	432,219	435,693	430,751	426,194		会計課	%	実績値			8.52	8.34	9.32	8.95		
		期待値 ※R7は目標値	20.86	21.23	21.60	21.97	22.33	22.70	23.07			期待値 ※R7は目標値	433,017	426,999	420,981	414,964	408,946	402,928	396,910			期待値 ※R7は目標値	-	-	8.52	8.41	8.30	8.19	8.08	
		備 考							過去10年間の最高値			備 考											備 考							
指 標 ⑬		指標の説明								指 標 ⑭		指標の説明								指 標 ⑮		指標の説明								
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
		実績値										実績値										実績値								
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値								
		備 考										備 考										備 考								

北上市総合計画 2021～2030 令和7年度基本施策事後評価シート（評価対象期間:令和6年度）

基本方針	10.まちづくりを支えるしくみづくり
基本施策	10-2.「うきうき」「わくわく」するまち北上」の魅力発信
関連するプロジェクト	10.自治体のスマート化プロジェクト

関係人口の拡大や定住者の増加に向けて、市民、NPO、企業等の多様な主体の参画を仰ぎ、挑戦するまちづくりの姿と魅力ある定住環境の情報発信力を一層高め、「訪れたいまち」「暮らしたいまち」としての認知度を高めるシティブロモーションを展開します。

評価項目	A	順調
	B	概ね順調
	C	やや遅れている
	D	遅れている

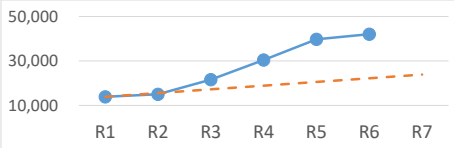
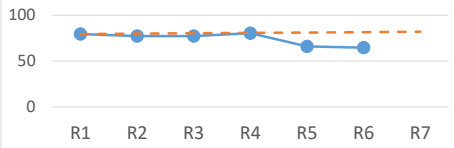
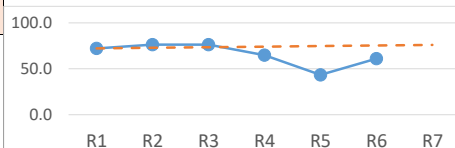
総合評価
C

※達成状況評価欄の（ ）内については昨年度の評価結果です。

R6事後
22

No.	担当等	プロジェクト	推進方針(R6)	成果指標	推進方針に対する達成状況(対象：R6)		達成状況 評価	達成状況に至る要因の分析		今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇：R7/◆：R8以降)
								市の活動による影響(内部要因)	社会環境の変化等による影響(外部要因)	
1	企画部	●	シティプロモーションの推進 都市ブランド推進行動計画に沿って、統一感を持った情報発信を推進し、内外からの良好なまちのイメージ確立とシビックプライド醸成に繋げる。 広報紙やホームページ、フェイスブック等各種広報媒体により北上市への関心を高めるための情報を発信し、地域おこし協力隊の制度等も活用しながら移住・定住に繋がる魅力を高める。 市民一人ひとりが、それぞれのライフスタイル(働き方・暮らし方・いきがい)を自律的にデザインし、発信する動きを数多く紹介し、さらなる未来の暮らし方デザインに繋がる動きを活性化させる。	①②	指標に基づく事実 ・ブランドサイトの閲覧数が前年比約17%増加した。 ・北上市へ愛着や誇りを感じている人の割合(市民意識調査)は、R5年度より減少して期待値を下回った。	B	指標に関する内容 ・市民ライター6名を委嘱し、ブランドサイトでまちの魅力を市民目線で発信した。(発信記事数12件) ・市民がまちの魅力を認知し、共感するような発信が行き届いていない。 ・市公式Instagramで市民ライター記事のプロモーションを実施した。	指標に関する内容 若年層を中心に国民の情報摂取先がSNS、webアプリに顕著にシフトしてきている。	◇市民ライターを6名委嘱済(継続4名、新規2名)。 ◇まちの魅力を発信するフォトコンテストを開催予定。 ◇移住定住促進に向けた戦略を構築。 ◇ポケモンを活用したシティプロモーションの実施。 ◇現行の都市ブランド推進行動計画の進捗状況等を分析のうえ、次期計画を策定。 ◆市民が情報発信の担い手となる機会を創出。	
					指標以外の事実 ・Instagramのフォロワー数が3,244人となり、R5年度比で24%増加した。 ・定住希望度、推奨度(市民意識調査)がR5年度を下回った。		指標以外の内容 ・ポケモンを活用したシティプロモーションを実施し、Instagramで発信した。 ・移住、定住に繋がるような市の魅力発信ができていない。	指標以外の内容		
2	企画部		行政の情報発信能力の向上 広報活動基本針に沿って、「伝える」情報発信を推進するとともに、情報発信スキルを向上させるため、計画的に職員研修を実施する。	②③	指標に基づく事実 ・北上市へ愛着や誇りを感じている人の割合(市民意識調査)は、R5年度より減少して期待値を下回った。 ・情報発信の方法やわかりやすさ(市民意識調査)は、R5年度より上昇したものの、期待値と比較し10ポイント以上低い。	C	指標に関する内容 ・広報担当者研修は、3回(校正・校閲力養成講座、SNS運用担当者養成講座、広報担当者研修)受講した。 ・市民がまちの魅力を認知し、共感するような発信が行き届いていない。 ・広報紙は市HP、マチイロともPDFデータを掲載しており、スマートフォンでの閲覧がしにくい。	指標に関する内容 個人の情報取得手段について、スマートフォンによる閲覧・検索が一般的になっている。	◇広報担当者向け研修は1人1回以上受講する。 ◇他自治体の同様媒体の構成等を比較・研究するとともに、広報紙クリニックを実施する。 ◇現行の広報アクションプランの進捗状況等を分析のうえ、次期アクションプランを策定する。 ◆広報紙のデジタル配信の手法について、よりスマートフォンによる閲覧に対応したものを検討する。 ◆広報活動に市民の参画を図る手法を検討する。	
					指標以外の事実 北上市公式HPの年間アクセス数は期待値よりも上振れた状態で推移している。		指標以外の内容 ・情報の伝わりやすさを意識したホームページの作成スキルが職員に浸透してきた。 ・ホームページ掲載承認はレベルやルールを保って実施し、既掲載ページも適切に修正した。	指標以外の内容		

凡例 ●実績値 —期待値

指 標 ①		指標の説明									
都市ブランドサイトの閲覧数	北上市都市ブランドサイト「きたかみリズム」の年間アクセス数(セッション数)										
			R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
			実績値	13,884	14,984	21,580	30,416	39,762	42,049		
			期待値 ※R7は目標値	13,884	15,551	17,217	18,884	20,551	22,217		
企画部		件	備考								
企画部		件	備考								
企画部		件	備考								
指 標 ②		指標の説明									
北上市への愛着や誇りを感じている人の割合(市民意識調査)	市民意識調査の設問「北上市へ愛着や誇りを感じていますか」に対し、「そう思う」「どちらかと思う」と回答した市民の割合										
			R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
			実績値	79.4	77.3	77.3	80.4	66.0	64.6		
			期待値 ※R7は目標値	79.4	79.8	80.3	80.7	81.1	81.6		
企画部		%	備考								
企画部		%	備考								
企画部		%	備考								
指 標 ③		指標の説明									
広報紙・ホームページなどの情報発信の内容のわかりやすさ(市民意識調査)	市市民意識調査の設問「北上市の情報発信の方法や内容はわかりやすいと思いますか」に対し、「そう思う」「ややそう思う」と回答した市民の割合										
			R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
			実績値	72.2	76.3	76.3	64.9	43.4	61.1		
			期待値 ※R7は目標値	72.2	72.8	73.5	74.1	74.7	75.4		
企画部		%	備考				「普通」回答含む	「普通」選択肢無			
企画部		%	備考				「普通」回答含む	「普通」選択肢無			
企画部		%	備考				「普通」回答含む	「普通」選択肢無			
指 標 ④		指標の説明									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備考									
		備考									
指 標 ⑤		指標の説明									
担当部等		単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備考									
		備考									
指 標 ⑥		指標の説明									
担当部等		単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備考									
		備考									
指 標 ⑦		指標の説明									
担当部等		単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備考									
		備考									
指 標 ⑧		指標の説明									
担当部等		単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備考									
		備考									
指 標 ⑨		指標の説明									
担当部等		単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備考									
		備考									
指 標 ⑩		指標の説明									
担当部等		単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備考									
		備考									
指 標 ⑪		指標の説明									
担当部等		単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備考									
		備考									
指 標 ⑫		指標の説明									
担当部等		単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備考									
		備考									
指 標 ⑬		指標の説明									
担当部等		単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備考									
		備考									
指 標 ⑭		指標の説明									
担当部等		単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備考									
		備考									
指 標 ⑮		指標の説明									
担当部等		単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備考									
		備考									